

RI\*WAC

Research Institute for Women and Careers

日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0038
調査タイトル	「人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査」
論文／雑誌名	『卒業生の職業キャリア、ライフコースと学部教育のレリバンスに関する研究-「人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査」報告書-』『卒業生の職業キャリア、ライフコースと学部教育のレリバンスに関する研究-「人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査」報告書-』
著者	岩木秀夫
掲載ページ	pp.1-93.
発行年	2008.01
出版社	日本女子大学人間社会学部

# 卒業生の職業キャリア、ライフコースと 学部教育のレリバンスに関する研究

ー「人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに  
関する調査」報告書ー

日本女子大学人間社会学部

08年1月31日

# 目 次

## 第一部 質問項目への回答の統計分析

- I. ライフコース、職業キャリアの形成
  1. 被説明変数の設定
    - (1) 被説明変数；職業キャリア類型
    - (2) 職業キャリア類型の自己評価・記憶
    - (3) 被説明変数；ライフコース
  2. 分析の基本方針
    - (1) ライフコースと職業キャリア
    - (2) 分析の基本枠組み
  3. 説明諸変数の設定
    - (1) 学科
    - (2) 入学前の職業選択と学科、職業キャリア
    - (3) 就職活動と学科、職業キャリア
    - (4) 学習、諸活動に対する評価の学科差
    - (5) 学習・諸活動に対する評価と職業キャリアの関連
    - (6) 勤務先の業種・規模と学科、職業キャリア
  4. 職業キャリアの規定要因分析
    - (1) 使用した変数
    - (2) ロジスティック回帰分析という技法と、その分析結果
    - (3) 結果1；独立変数＝「勤務先業種・規模」の場合
    - (4) 結果2；独立変数＝学科、業種規模の場合
    - (5) 結果3；独立変数に職業選択、専門科目、資格取得、就活を加えた場合
  5. 90年度入学世代のライフコースと職業キャリア
- II. 卒業生の大学教育観と職業キャリア、ライフコース
  1. 90年度入学世代の大学教育観と職業キャリア、ライフコース
    - (1) 大学教育観の因子分析
    - (2) 職業キャリア、ライフコースによる大学教育観の違い
  2. 01/02年度入学世代の大学教育観と職業キャリア
    - (1) 大学教育観の因子分析
    - (2) 職業キャリアによる大学教育観の違い
- III. まとめと今後の課題
  - (1) 職業キャリアとライフコースの類型
  - (2) 職業キャリアの規定要因分析結果
  - (3) 職業キャリア分析の今後の課題
  - (4) ライフコースの規定要因分析の結果と今後の課題
  - (5) 90年度入学世代の大学教育観と職業キャリア、ライフコース
  - (6) 01/02年度入学世代の大学教育観と職業キャリア

(7) 大学教育観分析の今後の課題

第二部 調査票および基礎集計表

第三部 自由記入回答

# 人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査結果報告

## I. ライフコース、職業キャリアの形成

### 1. 被説明変数の設定

#### (1) 被説明変数；職業キャリア類型

卒業生の職業キャリアの類型化は以下の手順で行った。Q 3 (5) は「勤務形態」を択一形式で聞いている。選択肢の「1. 一般社員・職員」「2. 係長・主任など」「3. 課長以上の管理職」を「正規就業」、「6. パート、アルバイト、臨時」「7. 派遣・請負」「8. その他」を「非正規就業」とする。また、Q 3 (6) は「職種」を択一形式で聞いている。選択肢の「1. 事務」「2. 技術」「4. 営業簿記」「5. その他」を「事務営業販売等」、「3. 専門」を「専門職」とする。「勤務形態」と「職種」のクロスから以下の結果が得られる。このうち、経営者、自営業主、家族従業員は少数なので分析から外す。更に、Q 3 (1)

職種2分類と勤務形態3分類のクロス表

		勤務形態3分類			合計	
		正規就業	非正規就業	経営者、家族従業員		
職種2分類	事務営業販売職他	度数	160	35	4	199
		職種2分類の%	80.4%	17.6%	2.0%	100.0%
	専門技術職	度数	94	30	2	126
		職種2分類の%	74.6%	23.8%	1.6%	100.0%
合計	度数	254	65	6	325	
	職種2分類の%	78.2%	20.0%	1.8%	100.0%	

は現在の仕事が大学卒業後に就いた仕事と「同じ」か「違う」という質問で、転職経験を聞いている。上のクロス表で比較的度数の多い「正規・事務営業販売職他」「正規・専門技術職」の2カテゴリーについて、この質問とクロス集計すると以下の結果が得られる。

職種2分類と職歴のクロス表

		職歴		合計	
		同じ	違う		
職種2分類	事務営業販売職他	度数	135	24	159
		職種2分類の%	84.9%	15.1%	100.0%
	専門技術職	度数	73	17	90
		職種2分類の%	81.1%	18.9%	100.0%
合計	度数	208	41	249	
	職種2分類の%	83.5%	16.5%	100.0%	

以上の2つのクロス集計表の観察結果を基にして、以下の5つの合成変数を作成し、その度数分布を示したのが、以下の表である。

表1 職業キャリア類型とその分布

	正規・事務営業販売職他・転職なし	正規・専門技術職・転職なし	正規・事務営業販売職他&専門技術職・転職有り	非正規・専門技術職	非正規・事務営業販売職他	合計
度数	135	73	41	30	36	315
構成比	42.85714	23.1746	13.01587	9.52381	11.42857	100

この表で「非正規事務営業販売職他」は36人で、上の「職種2分類」×「勤務形態3分類」のクロス集計表における35人より1人多いが、原因は不明である。以下は、この度数分布表を基礎にして分析を進める。

(2) 職業キャリア類型の自己評価・記憶

Q5。は自分のキャリアの印象・記憶を多重回答形式で聞いている。それと職業キャリア5類型とのクロス集計結果を示したのが次表である。

表2 職業キャリアとキャリアの自己評価・記憶

		正規・事務営業販売職他・転職なし	正規・専門技術職・転職なし	正規・事務営業販売職他&専門技術職・転職有り	非正規・専門技術職	非正規・事務営業販売職他	合計
出世コース業務を経験	度数	13	0	4	1	0	18
	%	9.774436	0	9.756098	3.333333	0	
昇進の可能性が限定された業務を経験	度数	21	4	4	6	7	42
	%	15.78947	5.479452	9.756098	20	19.44444	
大学時代の専門知識技術を生かせる業務を経験	度数	20	59	16	20	9	124
	%	15.03759	80.82192	39.02439	66.66667	25	
大学での知識・技術を必要としない業務	度数	115	16	26	8	26	191
	%	86.46617	21.91781	63.41463	26.66667	72.22222	
転職しながら自分の専門得意分野を形成してきた	度数	2	0	19	11	5	37
	%	1.503759	0	46.34146	36.66667	13.88889	
キャリア形成に結びつかない転職を経験してきた	度数	0	0	5	1	8	14
	%	0	0	12.19512	3.333333	22.22222	
先の見通しなく離職した経験がある	度数	0	1	14	4	7	26
	%	0	1.369863	34.14634	13.33333	19.44444	
一ヶ月以上の無業経験がある	度数	6	1	23	11	22	63
	%	4.511278	1.369863	56.09756	36.66667	61.11111	
パートやアルバイトだけで生活していた時期がある	度数	7	5	11	7	17	47
	%	5.263158	6.849315	26.82927	23.33333	47.22222	
多重回答者度数(100.0%)		133	73	41	30	36	313

目立つ特徴は以下の通りである。

- ①「正規・事務営業販売職他・転職無し」類型は、「特に大学での知識や技術を必要としない業務を経験してきた」が86.5%に達する。“OL”的な類型といえる。
- ②「正規・専門技術職・転職無し」は、「大学時代の専門知識・技術を生かせる業務を経験してきた」が81%に達する。“独占資格職”的な類型といえる。
- ③「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」は、「特に大学での知識や技術を必要としない業務」と「大学時代の専門知識・技術を生かせる業務」の比率は約6:4の比率で前者が多い。その代わりに、「一ヶ月以上の無業経験がある」56%、「転職しながら、自分の専門・得意分野を形成してきた」46%である。“キャリア・アップ”的な類型とい

える。

④「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」類型に比べると「非正規・専門技術職」は、「大学時代の専門知識・技術を生かせる業務を経験してきた」が30%弱多いが、逆に「一ヶ月以上の無業経験がある」は約20%少なく、さらに「転職しながら自分の専門・得意分野を形成してきた」は約10%少ない。“非常勤資格職”的な類型といえる。

⑤「非正規・事務営業販売職他」は「特に大学での知識や技術を必要としない業務を経験してきた」が「正規・事務営業販売職他・初職継続」類型に次いで72%であり、更に「一ヶ月以上の無業経験がある」が5類型中最多の61%、「パートやアルバイトだけで生活していた時期がある」が同じく最多の47%に達する。“パート・バイト”的な類型といえる。

### (3) 被説明変数；ライフコース

Q2. では択一形式でライフコースを聞いている。次がその結果である。度数の少ない「就職・結婚していない」「就職せず結婚」を「その他、あてはまらない」と統合して4カテゴリーとした。

表3 ライフコース類型とその度数分布

大卒から現在までの生き方	度数	有効%	ライフコース類型	度数	有効%
就職・結婚していない	6	1.786	就職し非婚、仕事継続	203	60.42
就職せず結婚	3	0.893	就職し、結婚・出産後退職	41	12.2
就職し、結婚せず仕事継続	203	60.42	結婚・出産後退職、その後再就職	16	4.762
就職し、結婚・出産退職	41	12.2	その他	76	22.62
就職し、結婚・出産退職後再就職	16	4.762	合計	336	100
その他、あてはまらない	67	19.94	システム欠損値	8	
合計	336	100	合計	344	
システム欠損値	8				
合計	344				

## 2. 分析の基本方針

### (1) ライフコースと職業キャリア

女性の職業キャリアには、結婚や出産などのライフコース・イベントが男性の場合よりも格段に大きな影響を与える。次の表4は職業キャリア類型とライフコース類型をクロス集計した結果を示したものである。ここにみられる主な特徴は以下の4点にまとめられる。

- ①「未婚で仕事継続中」コースで最も多いのは、「キャリアアップ”的職業キャリア類型である(46%)。
- ②「結婚・出産後退職」コースで最も多いのは“OL”的職業キャリア類型である(53%)。
- ③「結婚・出産後再就職」コースで最も多いのは“パート・バイト”的職業キャリア類型である(43%)。
- ④「その他」コースの比率で最も多いのは“OL”的職業キャリア類型である(45%)。

表4 ライフコースと職業キャリアの相互関連

職業キャリア	度数 構成比	職業キャリア5分類					合計
		正規・事務 営業販売 他・転職無	正規・専門 技術・ 転職無	正規・事務 営業販売 他&専門 技術・転職 有	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	
90年度入学世代							
就職し非婚、仕事継続	度数	8	2	17	6	4	37
	% (行計)	21.62162	5.405405	45.94595	16.21622	10.81081	100
	% (列計)	16	12.5	58.62069	37.5	16	27.20588
就職し、結婚・出産後退職	度数	19	2	4	3	8	36
	% (行計)	52.77778	5.555556	11.111111	8.333333	22.22222	100
	% (列計)	38	12.5	13.7931	18.75	32	26.47059
結婚・出産後退職、その後再就職	度数	1	1	2	4	6	14
	% (行計)	7.142857	7.142857	14.28571	28.57143	42.85714	100
	% (列計)	2	6.25	6.896552	25	24	10.29412
その他	度数	22	11	6	3	7	49
	% (行計)	44.89796	22.44898	12.2449	6.122449	14.28571	100
	% (列計)	44	68.75	20.68966	18.75	28	36.02941
合計	度数	50	16	29	16	25	136
	% (行計)	36.76471	11.76471	21.32353	11.76471	18.38235	100
	% (列計)	100	100	100	100	100	100
0102年度入学世代							
就職し非婚、仕事継続	度数	80	52	10	6	4	152
	% (行計)	52.63158	34.21053	6.578947	3.947368	2.631579	100
	% (列計)	96.38554	96.2963	100	50	57.14286	91.56627
就職し、結婚・出産後退職	度数	0	1	0	0	0	1
	% (行計)	0	100	0	0	0	100
	% (列計)	0	1.851852	0	0	0	0.60241
結婚・出産後退職、その後再就職	度数	0	0	0	1	0	1
	% (行計)	0	0	0	100	0	100
	% (列計)	0	0	0	8.333333	0	0.60241
その他	度数	3	1	0	5	3	12
	% (行計)	25	8.333333	0	41.66667	25	100
	% (列計)	3.614458	1.851852	0	41.66667	42.85714	7.228916
合計	度数	83	54	10	12	7	166
	% (行計)	50	32.53012	6.024096	7.228916	4.216867	100
	% (列計)	100	100	100	100	100	100

カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
90年度 Pearson のカイ2乗 入学世代 尤度比 線型と線型による連関 有効なケースの数	43.12451	12	2.15E-05
	40.87181	12	5.15E-05
	2.067367	1	0.150481
	136		
0102年度 Pearson のカイ2乗 入学世代 尤度比 線型と線型による連関 有効なケースの数	54.85903	12	1.92E-07
	32.98699	12	0.000973
	27.36193	1	1.69E-07
	166		

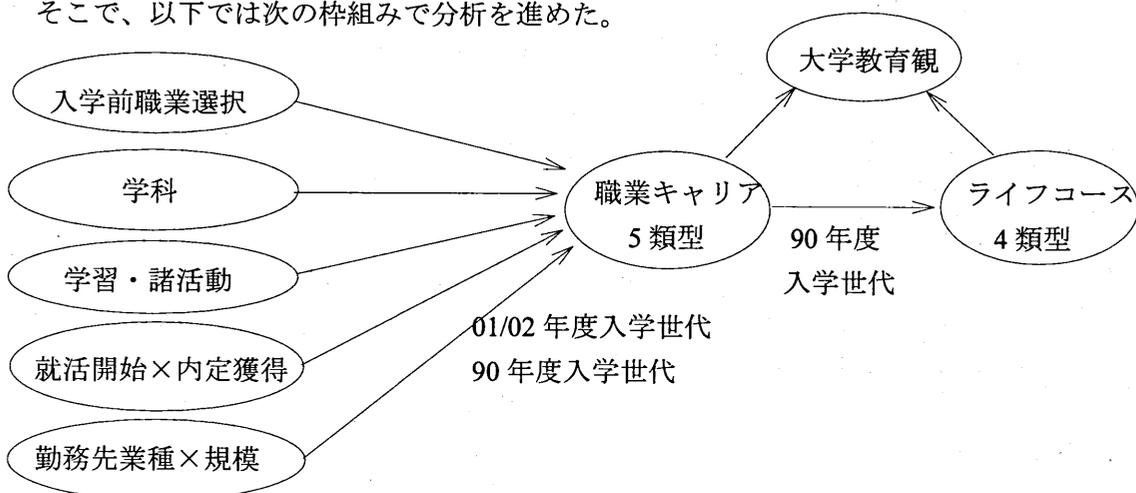
a 8セル(40.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.65です。

b 14セル(70.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.04です。

上の結果は90年度入学世代のものである。01/02年度入学世代はまだ卒業して日が浅く、結婚というライフイベントが少ないので、「就職して未婚、仕事継続」に92%が集中している。

## (2) 分析の基本枠組み

そこで、以下では次の枠組みで分析を進めた。



## 3. 説明諸変数の設定

(1) 学科 次表5は学科と職業キャリアの関連を示したものである。

表5 学科と職業キャリア

学科	度数 %	正規・事務 営業販売 他・転職 無	正規・専門 技術・転職 なし	正規・事務 営業販売 他・専門技術・ 転職あり	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
90年度入学世代							
現代社会	度数 %	11 42.30769	1 3.846154	10 38.46154	2 7.69231	2 7.69231	26 100
社会福祉	度数 %	13 39.39394	4 12.12121	7 21.21212	2 6.06061	7 21.2121	33 100
教育	度数 %	7 25	8 28.57143	6 21.42857	5 17.8571	2 7.14286	28 100
心理	度数 %	8 30.76923	2 7.692308	2 7.692308	4 15.3846	10 38.4615	26 100
文化	度数 %	11 45.83333	1 4.166667	4 16.66667	3 12.5	5 20.8333	24 100
合計	度数 %	50 36.49635	16 11.67883	29 21.16788	16 11.6788	26 18.9781	137 100
0102年度入学世代							
現代社会	度数 %	17 65.38462	2 7.692308	2 7.692308	2 7.69231	3 11.5385	26 100
社会福祉	度数 %	19 45.2381	17 40.47619	2 4.761905	3 7.14286	1 2.38095	42 100
教育	度数 %	8 18.18182	30 68.18182	2 4.545455	3 6.81818	1 2.27273	44 100
心理	度数 %	8 66.66667	2 16.66667	0 0	1 8.333333	1 8.333333	12 100
文化	度数 %	30 73.17073	2 4.878049	4 9.756098	3 7.31707	2 4.87805	41 100
合計	度数 %	82 49.69697	53 32.12121	10 6.060606	12 7.27273	8 4.84848	165 100

カイ2乗検定

入学世代	値	自由度	漸近有意確率(両側)
90年度	Pearson のカイ2乗 29.62119	16	0.02007
0102年度	Pearson のカイ2乗 55.32933	16	3.1E-06

カイ二乗値およびクラマー係数  $V(\sqrt{\text{カイ二乗} / n(t-1)}; s \times t \text{表で } s > t)$  はそれぞれ、90年度入学世代で 29.621、0.232、01/02年度入学世代で 55.329、0.290 であり（90年度は5%水準、01/02年度は1%水準で統計的に有意）、01/02年度入学世代のあいだで学科と職業キャリアの関連が強まっている。

内訳を見ると、90年度入学世代の間では、現社と文化、社福に“OL”的類型が多く、教育に“独占資格職”類型が多く、心理に“パート・バイト”類型が多かった。しかし、01/02年度入学世代の間では心理に“OL”的類型が増加し、社福に“独占資格職”類型が増加した結果、現社、心理、文化は“OL”的キャリア、教育、社福は“独占資格職”的キャリアという二分化が進んできている。この変化が年齢効果（結婚、出産などのライフコースイベントの効果）によるものか、世代効果（経済・景気、学卒労働市場の変動の効果）によるものかは重要なテーマであるが、今回の調査の標本構成並びに回収率の規模では分析しきれないテーマである。

なお、学科を現社、心理、文化と社福、教育に2分類して集計し直したのが次表6である。90年度入学世代では2学科タイプの卒業生のキャリアに差がないが、01/02年度入学世代では上で述べた差が開いて出ている。

表6 学科2分類と職業キャリア

学科	度数 %	正規・事務 営業販売 他・転職無 し	正規・専門 技術・転職 なし	正規・事務 営業販売 専門技術・ 転職あり	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
90年度入学世代							
現社心理	度数 %	30 39.47368	4 5.263158	16 21.05263	9 11.8421	17 22.3684	76 100
文化	度数 %	20 32.78689	12 19.67213	13 21.31148	7 11.4754	9 14.7541	61 100
社福教育	度数 %	20 32.78689	12 19.67213	13 21.31148	7 11.4754	9 14.7541	61 100
合計	度数 %	50 36.49635	16 11.67883	29 21.16788	16 11.6788	26 18.9781	137 100
01/02年度入学世代							
現社心理	度数 %	55 69.62025	6 7.594937	6 7.594937	6 7.59494	6 7.59494	79 100
文化	度数 %	27 31.39535	47 54.65116	4 4.651163	6 6.97674	2 2.32558	86 100
社福教育	度数 %	27 31.39535	47 54.65116	4 4.651163	6 6.97674	2 2.32558	86 100
合計	度数 %	82 49.69697	53 32.12121	10 6.060606	12 7.27273	8 4.84848	165 100

カイ二乗検定

入学世代	値	自由度	漸近有意確率(両側)
90年度	Pearson のカイ二乗 7.469086	4	0.11308
01/02年度	Pearson のカイ二乗 43.45921	4	8.3E-09

## (2) 入学前の職業選択と学科、職業キャリア

次表7は、「Q 8. 学部、学科の選択をしたとき、将来の職業についてはどの程度考えていましたか」に対する回答の分布である。5学科を「現社、心理、文化」と「社福、教育」に2分類し、選択肢を「はっきり希望があった」+「大体の方向は決めていた」=「考えていた」、「特に将来の職業は考えていなかった」=「特に考えていなかった」に2分類して再集計すると、現社、心理、文化に比べて社福、教育に将来の職業を考えて入学する人が多い傾向があり、その差が90年度入学世代から01/02年度入学世代にかけて開いてきていることが分かる。

表7 学部・学科選択前の将来の職業選択

		はっきりした希望があった	だいたい方向は決めていた	特に将来の職業は考えていなかった	合計		考えていた	特に考えてなかった	合計
						90年度入学世代			
現社	度数	4	5	20	29	現社心理	度数	29	53
	%	13.7931	17.24138	68.96552	100	文化	%	35.36585	64.63415
社福	度数	3	17	13	33	社福教育	度数	41	23
	%	9.090909	51.51515	39.39394	100	合計	%	64.0625	35.9375
教育	度数	10	11	10	31	0102年度入学世代			
	%	32.25806	35.48387	32.25806	100	現社心理	度数	41	47
心理	度数	3	10	16	29	文化	%	46.59091	53.40909
	%	10.34483	34.48276	55.17241	100	社福教育	度数	69	23
文化	度数	1	6	17	24	合計	%	75	25
	%	4.166667	25	70.83333	100	合計	度数	110	70
合計	度数	21	49	76	146		%	61.11111	38.88889
	%	14.38356	33.56164	52.05479	100	カイ2乗検定 Pearson のカイ乗 入学世代 値 自由度			
0102年度入学世代						90年度	11.86035	1	
現社	度数	3	5	20	28	0102年度	15.2745	1	
	%	10.71429	17.85714	71.42857	100	漸近有意確率(両側)			
社福	度数	6	27	12	45	90年度	0.000573		
	%	13.33333	60	26.66667	100	0102年度	9.3E-05		
教育	度数	20	16	11	47				
	%	42.55319	34.04255	23.40426	100				
心理	度数	2	7	6	15				
	%	13.33333	46.66667	40	100				
文化	度数	5	19	21	45				
	%	11.11111	42.22222	46.66667	100				
合計	度数	36	74	70	180				
	%	20	41.11111	38.88889	100				

カイ2乗検定 Pearson のカイ乗  
 入学世代 値 自由度 漸近有意確率(両側)  
 90年度 22.266 8 0.004446  
 0102年度 37.51187 8 9.26E-06

表8 入学前の職業選択と卒業後のキャリア

		考えていた	特に考えてなかった	合計
90年度入学世代				
正規・事務営業販売 他・転職なし	度数	23	27	50
	%	36.50794	36.9863	36.76471
正規・専門技術・転職 なし	度数	10	6	16
	%	15.87302	8.219178	11.76471
正規・事務営業販売 &専門技術・転職有	度数	12	16	28
	%	19.04762	21.91781	20.58824
非正規・専門技術	度数	9	7	16
	%	14.28571	9.589041	11.76471
非正規・事務営業 販売他	度数	9	17	26
	%	14.28571	23.28767	19.11765
合計	度数	63	73	136
	%	100	100	100

カイ2乗検定 Pearson のカイ乗  
 入学世代 値 自由度 漸近有意確率(両側)  
 90年度 3.888697 4 0.421279

入学前の職業選択2分類と、卒業後の職業キャリアの関連をみると、左の表8が示すように、90年度入学世代のあいだでは統計的に有意な関連はみられなかったが、01/02年度入学世代になると、「特に考えてなかった」層に“OL”的キャリアタイプが多く、「考えていた」層に“資格職”キャリアタイプが多いという差が、統計的に有意な水準に達している。

表8 入学前の職業選択と卒業後のキャリア (続)

		考えていた	特に考えて なかった	合計
0102年度入学世代				
正規・事務営業販売 他・転職なし	度数	39	44	83
	%	39	66.66667	50
正規・専門技術・転職 なし	度数	44	9	53
	%	44	13.63636	31.92771
正規・事務営業販売 &専門技術・転職有	度数	6	4	10
	%	6	6.060606	6.024096
非正規・専門技術	度数	8	4	12
	%	8	6.060606	7.228916
非正規・事務営業 販売他	度数	3	5	8
	%	3	7.575758	4.819277
合計	度数	100	66	166
	%	100	100	100

カイ2乗検定 Pearson のカイ2乗  
 入学世代 値 自由度 漸近有意確率(両側)  
 0102年度 19.50202 4 0.000626

(3) 就職活動と学科、職業キャリア

次表9は、就職活動の開始時期と内定獲得時期を聞いたQ10の結果を、学科別に示したものである

表9 就活開始と内定獲得の状況

		現社	社福	教育	心理	文化	合計
90年度入学世代							
3年開始&4年前期 まで獲得	度数	6	8	3	7	7	31
	%	28.57	30.77	18.75	38.89	33.33	30.39
3年開始&4年後期 獲得	度数	4	1	3	3	2	13
	%	19.05	3.846	18.75	16.67	9.524	12.75
4年開始&4年前期 獲得	度数	6	9	7	6	12	40
	%	28.57	34.62	43.75	33.33	57.14	39.22
4年開始&4年後期 獲得	度数	5	8	3	2	0	18
	%	23.81	30.77	18.75	11.11	0	17.65
合計	度数	21	26	16	18	21	102
	%	100	100	100	100	100	100
0102年度入学世代							
3年開始&4年前期 まで獲得	度数	15	11	7	7	30	70
	%	75	31.43	41.18	70	78.95	58.33
3年開始&4年後期 獲得	度数	4	9	4	0	6	23
	%	20	25.71	23.53	0	15.79	19.17
4年開始&4年前期 獲得	度数	1	4	1	1	1	8
	%	5	11.43	5.882	10	2.632	6.667
4年開始&4年後期 獲得	度数	0	11	5	2	1	19
	%	0	31.43	29.41	20	2.632	15.83
合計	度数	20	35	17	10	38	120
	%	100	100	100	100	100	100

カイ2乗検定  
 入学世代 値 自由度 漸近有意確率(両側)  
 90年度 Pearson のカイ2乗 14.19 12 0.289  
 0102年度 Pearson のカイ2乗 29.46 12 0.003

表9 就活開始と内定獲得の状況 (続)

就活開始と内定獲得		現社心理	社福教育	合計	現社心理	社福教育	合計
		文化			文化		
		90年度入学世代			0102年度入学世代		
3年開始&4年前期 まで獲得	度数	20	11	31	52	18	70
	%	33.33333	26.19048	30.39216	76.47059	34.61538	58.33333
3年開始&4年後期 獲得	度数	9	4	13	10	13	23
	%	15	9.52381	12.7451	14.70588	25	19.16667
4年開始&4年前期 獲得	度数	24	16	40	3	5	8
	%	40	38.09524	39.21569	4.411765	9.615385	6.666667
4年開始&4年後期 獲得	度数	7	11	18	3	16	19
	%	11.66667	26.19048	17.64706	4.411765	30.76923	15.83333
合計	度数	60	42	102	68	52	120
	%	100	100	100	100	100	100

Pearson のカ<sup>2</sup>乗 値 3.972097 漸近有意確率(両側) 0.264493

Pearson のカ<sup>2</sup>乗 値 24.60441 漸近有意確率(両側) 1.87E-05

90 年度入学世代の場合には、就活開始&内定獲得時期に統計的に有意な差はなかった。だが 01/02 年度になると、現社、心理、文化で「3年開始&4年前期まで獲得」の比率が7~8割に達するのに社福、教育では3~4割にとどまり、逆に「4年開始&4年後期獲得」が3割に達するという差が、1%水準で統計的に有意である。

また、この就活状況と卒業後の職業キャリアとの関連は、表10が示すように、90年度入学学世代では統計的に有意な関連はなかったが、01/02年度になると、「3年開始&4年前期まで獲得」層に“OL”的キャリア類型が82%、「4年開始4年後期獲得」層に“資格職”キャリア類型が53%という差が、1%水準で統計的に有意に達している。

表10 就活と職業キャリア

90年度入学世代		3年開	3年開始	4年開始	4年開始	合計
		4年前 まで獲	4年後期 獲得	4年前期 獲得	4年後期 獲得	
正規・事務営業 販売他・転職なし	度数	14	5	19	6	44
	%	46.67	41.667	51.351	35.294	45.833
正規・専門技術・ 転職なし	度数	2	0	3	1	6
	%	6.667	0	8.1081	5.8824	6.25
正規・事務営業販売他 &専門技術・転職有	度数	7	1	6	3	17
	%	23.33	8.3333	16.216	17.647	17.708
非正規・専門技術	度数	1	3	4	3	11
	%	3.333	25	10.811	17.647	11.458
非正規・事務営業 販売他	度数	6	3	5	4	18
	%	20	25	13.514	23.529	18.75
合計	度数	30	12	37	17	96
	%	100	100	100	100	100

Pearson のカ<sup>2</sup>乗 値 8.106216 自由度 12 漸近有意確率(両側) 0.78

表 10 就活と職業キャリア (続)

0102年度入学世代		3年開始 4年前期 まで獲得	3年開始 4年後期 獲得	4年開始 4年前期 獲得	4年開始 4年後期 獲得	合計
正規・事務営業 販売他・転職なし	度数 %	56 82.353	9 39.13	3 37.5	3 15.7895	71 60.1695
正規・専門技術・ 転職なし	度数 %	8 11.765	10 43.478	4 50	10 52.6316	32 27.1186
正規・事務営業販売他 &専門技術・転職有	度数 %	3 4.4118	0 0	0 0	2 10.5263	5 4.23729
非正規・専門技術	度数 %	1 1.4706	2 8.6957	0 0	3 15.7895	6 5.08475
非正規・事務営業 販売他	度数 %	0 0	2 8.6957	1 12.5	1 5.26316	4 3.38983
合計	度数 %	68 100	23 100	8 100	19 100	118 100

Pearson のカ<sup>2</sup>乗  
値 自由度 漸近有意確率 (両側)  
44.93013 12 1E-05

(4) 学習、諸活動に対する評価の学科差

調査票 Q 9. は、大学時代の学習・諸活動 9 項目について、大学時代に「充実していた」か「充実してなかった」か、職業生活に「役立っている」か「役立っていない」かを聞いている。次表 11 は、「充実していた」&「役立っている」= 1、「充実してなかった」&「役立っていない」= 2、「充実していなかった」&「役立っている」= 3、「充実していなかった」&「役立っていない」= 4として、9項目それぞれに対する学科毎の評価を示したものである。これをまとめると、次のようになる。

表11の要約表	90年度入学世代			01/02年度入学世代		
	有意差 5%水準	クラマーV	「充実&有用」 最高の学科	有意差 5%水準	クラマーV	「充実&有用」 最高の学科
a. 一般教養科目	×			×		
b. 語学	×			○	0.322	文化20.0%
c. 専門科目	○	0.308	社福72.4%	○	0.254	教育81.4%
d. 実験、実習、卒論	○	0.241	社福65.5%	○	0.232	教育81.0%
e. 資格取得	×			○	0.285	教育78.6%
f. ダブルスクール	×			×		
g. サークル・部	×			○	0.26	心理85.7%
h. 友人関係	×			×		
i. 副専攻				×		

90年度入学世代、01/02年度入学世代ともに、学科間で評価に有意差の出るのは専門教育関連であったが、「大学時代に充実&職業生活に有用」という評価を受けていたのが90年度入学世代のあいだでは社会福祉学科だったのに対して、01/02年度入学世代のあいだでは教育学科へと、主役が交代している。

表 1 1 大学時代の学習・活動の評価

90年度入学者世代							01/02年度入学者世代								
専門科目		学科 カイ二乗39.276(0.000)					語学		学科 カイ二乗48.840(0.000)						
クラーマーV0.30		現社	社福	教育	心理	文化	合計	クラーマーV0.32		現社	社福	教育	心理	文化	合計
充実 &有用	度数 %	7 26.9	21 72.4	17 54.8	17 60.7	4 16.7	66 47.8	充実 &有用	度数 %	3 12	2 4.88	5 13.2	2 15.4	8 20	20 12.7
充実 but無用	度数 %	10 38.5	6 20.7	11 35.5	11 39.3	8 33.3	46 33.3	充実 but無用	度数 %	7 28	7 17.1	1 2.63	8 61.5	22 55	45 28.7
非充実 but有用	度数 %	1 3.85	0 0	0 0	0 0	1 4.17	2 1.45	非充実 but有用	度数 %	2 8	4 9.76	3 7.89	1 7.69	3 7.5	13 8.28
非充実 &無用	度数 %	8 30.8	2 6.9	3 9.68	0 0	11 45.8	24 17.4	非充実 &無用	度数 %	13 52	28 68.3	29 76.3	2 15.4	7 18	79 50.3
合計	度数 %	26 100	29 100	31 100	28 100	24 100	138 100	合計	度数 %	25 100	41 100	38 100	13 100	40 100	157 100

実験、実習、卒業							専門科目								
クラーマーV0.24		学科 カイ二乗23.172(0.026)					クラーマーV0.25		学科 カイ二乗31.458(0.002)						
クラーマーV0.24		現社	社福	教育	心理	文化	合計	クラーマーV0.25		現社	社福	教育	心理	文化	合計
充実 &有用	度数 %	7 30.4	19 65.5	11 36.7	14 51.9	8 33.3	59 44.4	充実 &有用	度数 %	11 44	28 65.1	35 81.4	6 46.2	14 37	94 58
充実 but無用	度数 %	7 30.4	8 27.6	12 40	12 44.4	6 25	45 33.8	充実 but無用	度数 %	10 40	9 20.9	6 14	7 53.8	20 53	52 32.1
非充実 but有用	度数 %	1 4.35	1 3.45	1 3.33	0 0	2 8.33	5 3.76	非充実 but有用	度数 %	0 0	3 6.98	0 0	0 0	1 2.6	4 2.47
非充実 &無用	度数 %	8 34.8	1 3.45	6 20	1 3.7	8 33.3	24 18	非充実 &無用	度数 %	4 16	3 6.98	2 4.65	0 0	3 7.9	12 7.41
合計	度数 %	23 100	29 100	30 100	27 100	24 100	133 100	合計	度数 %	25 100	43 100	43 100	13 100	38 100	162 100

実験、実習、卒業							
クラーマーV0.23		学科 カイ二乗26.332(0.01)					
クラーマーV0.23		現社	社福	教育	心理	文化	合計
充実 &有用	度数 %	13 50	31 70.5	34 81	6 46.2	13 34	97 59.5
充実 but無用	度数 %	10 38.5	7 15.9	6 14.3	5 38.5	17 45	45 27.6
非充実 but有用	度数 %	1 3.85	2 4.55	0 0	1 7.69	1 2.6	5 3.07
非充実 &無用	度数 %	2 7.69	4 9.09	2 4.76	1 7.69	7 18	16 9.82
合計	度数 %	26 100	44 100	42 100	13 100	38 100	163 100

01/02年度入学者世代															
サークル、部活		学科 カイ二乗21.840(0.039)					資格取得		学科 カイ二乗34.544(0.001)						
クラーマーV0.26		現社	社福	教育	心理	文化	合計	クラーマーV0.28		現社	社福	教育	心理	文化	合計
充実 &有用	度数 %	7 38.9	11 37.9	20 62.5	6 85.7	14 63.6	58 53.7	充実 &有用	度数 %	12 75	16 40	33 78.6	4 40	14 41	79 55.6
充実 but無用	度数 %	5 27.8	5 17.2	5 15.6	0 0	3 13.6	18 16.7	充実 but無用	度数 %	1 6.25	7 17.5	4 9.52	0 0	10 29	22 15.5
非充実 but有用	度数 %	0 0	2 6.9	5 15.6	0 0	0 0	7 6.48	非充実 but有用	度数 %	0 0	7 17.5	0 0	1 10	1 2.9	9 6.34
非充実 &無用	度数 %	6 33.3	11 37.9	2 6.25	1 14.3	5 22.7	25 23.1	非充実 &無用	度数 %	3 18.8	10 25	5 11.9	5 50	9 26	32 22.5
合計	度数 %	18 100	29 100	32 100	7 100	22 100	108 100	合計	度数 %	16 100	40 100	42 100	10 100	34 100	142 100

(5) 学習・諸活動に対する評価と職業キャリアの関連

次表 1 2 は、学習・諸活動に対する充実 or 有用の評価と卒業後の職業キャリアとの関連

を示したものである。これらをまとめたのが表12要約表である。

表12の要約表	90年度入学世代			01/02年度入学世代		
	有意差 5%水準	クラマー V係数	「有実&有用」 と最密接の キャリア	有意差 5%水準	クラマー V係数	「有実&有用」 と最密接の キャリア
a. 一般教養科目	○	0.239	非正規事務46.2%	×		
b. 語学						
c. 専門科目				○	0.212	正規専門78.4%
d. 実験、実習、卒論				○	0.243	正規転職有77.8%
e. 資格取得	○	0.4	非正規専門77.8%	○	0.234	正規転職有66.7%
f. ダブルスクール				○	0.33	正規転職有66.7%
g. サークル・部活動				○	0.276	正規専門64.1%
h. 友人関係	○	0.242	正規・専門技術 66.70%			
i. 副専攻						

90年度入学世代に比べて01/02入学世代で、卒業後の職業キャリアと統計的に有意な関連を有する学習・諸活動が広がっていることが分かる。そのなかでも、実験、実習、実技、資格取得、ダブルスクールなどは「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」と関連が深く、専門科目やサークル・部活動は「正規・専門技術職・転職無し」と関連が深い。

#### (6) 勤務先の業種・規模と学科、職業キャリア

Q3(3)は勤務先の業種を、Q3(4)は勤務先の規模を聞いている。この2つを組み合わせて作った4カテゴリーの学科別構成比を示したのが表13である。90年度入学世代も01/02年度入学世代も、勤務先の業種・規模には統計的に5%水準で有意な学科差があり、その差は01/02年度入学世代ほど大きくなっている。

90年度入学世代では文化学科から「製造…商社金融…1000人以上」への就職(52.4%)、及び、教育学科から「教育公務」の就職(62.1%)が突出していたが、01/02年度では文化学科から「製造…商社金融…1000人以上」への就職が突出しなくなった(52.4%→37.5%)代わりに、教育学科から「教育公務」の就職が一層きわだって突出するようになった(62.1%→76.1%)。このことにより、学科と勤務先業種・規模の関連が90年度入学世代よりも01/02年度入学世代において強まる結果となっている。

これから行う多変量解析(ロジスティック回帰分析)においては、サンプル数が小さくて最終解が求められないことが多いので、学科を二分類して分析を実行する。学科を二分類しても、今述べた入学年度間の変化は明確に現れている。

表14は、勤務先業種・規模と職業キャリアの関連を示したものである。90年度入学世代では各業種・規模類型の中で「転職有り」や「非正規」キャリア類型へのバラツキが結構大きかったが、01/02年度入学世代では業種・規模類型の全てにおいて「正規」キャリアへの集中化が進み、「製造…商社金融…1,000人以上」では“OL”型キャリアが72%から97%に増加し、「教育公務」では“独占資格職”型キャリアが31%から60%に増加している。この結果、業種・規模と職業キャリアの関連性係数(クラマーのV)も0.34から0.38へと僅かに上昇している。

90年度入学世代と01/02年度入学世代のこのような差が、年齢効果によるものか世代効果(景気と労働市場の変動)によるものかは、既に述べたように、本調査の標本構成と標本規模では分析しきれない。

表12 大学時代の学習・活動の評価と卒業後の職業キャリア

90年度入学

		正規・事務 営業販売 他・転職無	正規・専門 技術・転職 無	正規・事務 営業販売 他&専門技 術・転職有	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
一般教養		ピアソンのカイニ乗22.048(0.037)クラマーV0.239					
充実&有用	度数	19	6	12	9	12	58
	%	40.42553	37.5	50	56.25	46.1538	44.96
充実but無用	度数	16	0	5	2	8	31
	%	34.04255	0	20.83333	12.5	30.7692	24.03
非充実but有用	度数	4	0	2	2	1	9
	%	8.510638	0	8.333333	12.5	3.84615	6.977
非充実&無用	度数	8	10	5	3	5	31
	%	17.02128	62.5	20.83333	18.75	19.2308	24.03
合計	度数	47	16	24	16	26	129
	%	100	100	100	100	100	100
資格取得		ピアソンのカイニ乗38.925(0.000)クラマーV0.400					
充実&有用	度数	7	7	7	7	1	29
	%	23.33333	58.33333	50	77.7778	6.25	35.8
充実but無用	度数	7	0	1	1	1	10
	%	23.33333	0	7.142857	11.1111	6.25	12.35
非充実but有用	度数	0	3	0	0	1	4
	%	0	25	0	0	6.25	4.938
非充実&無用	度数	16	2	6	1	13	38
	%	53.33333	16.66667	42.85714	11.1111	81.25	46.91
合計	度数	30	12	14	9	16	81
	%	100	100	100	100	100	100
友人関係		ピアソンのカイニ乗21.990(0.038)クラマーV0.242					
充実&有用	度数	30	10	13	12	15	80
	%	65.21739	66.66667	56.52174	75	60	64
充実but無用	度数	15	4	10	1	5	35
	%	32.6087	26.66667	43.47826	6.25	20	28
非充実but有用	度数	0	0	0	0	2	2
	%	0	0	0	0	8	1.6
非充実&無用	度数	1	1	0	3	3	8
	%	2.173913	6.666667	0	18.75	12	6.4
合計	度数	46	15	23	16	25	125
	%	100	100	100	100	100	100

01/02年度

		正規・事務 営業販売 他・転職無	正規・専門 技術・転職 無	正規・事務 営業販売 他&専門技 術・転職有	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
専門科目		ピアソンのカイニ乗22.077(0.037)クラマーV0.217					
充実&有用	度数	32	40	7	6	5	90
	%	42.10526	78.43137	70	50	62.5	57.32
充実but無用	度数	35	6	3	4	2	50
	%	46.05263	11.76471	30	33.3333	25	31.85
非充実but有用	度数	2	2	0	1	0	5
	%	2.631579	3.921569	0	8.33333	0	3.185
非充実&無用	度数	7	3	0	1	1	12
	%	9.210526	5.882353	0	8.33333	12.5	7.643
合計	度数	76	51	10	12	8	157
	%	100	100	100	100	100	100

表12 (続)

## 01/02年度

		正規・事務 営業販売 他・転職無	正規・専門 技術・転職 無	正規・事務 営業販売 他&専門技 術・転職有	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
実験、実習、卒論		ピアソンのカイニ乗28.003(0.006)クラマーV0.243					
充実&有用	度数	33	39	7	9	5	93
	%	41.77215	78	77.77778	75	62.5	58.86
充実but無用	度数	31	5	1	2	3	42
	%	39.24051	10	11.11111	16.6667	37.5	26.58
非充実but有用	度数	2	3	1	0	0	6
	%	2.531646	6	11.11111	0	0	3.797
非充実&無用	度数	13	3	0	1	0	17
	%	16.4557	6	0	8.33333	0	10.76
合計	度数	79	50	9	12	8	158
	%	100	100	100	100	100	100
資格取得		ピアソンのカイニ乗22.747(0.030)クラマーV0.234					
充実&有用	度数	27	36	6	6	1	76
	%	40.29851	75	66.66667	54.5455	33.3333	55.07
充実but無用	度数	16	4	0	1	1	22
	%	23.8806	8.333333	0	9.09091	33.3333	15.94
非充実but有用	度数	3	4	1	0	0	8
	%	4.477612	8.333333	11.11111	0	0	5.797
非充実&無用	度数	21	4	2	4	1	32
	%	31.34328	8.333333	22.22222	36.3636	33.3333	23.19
合計	度数	67	48	9	11	3	138
	%	100	100	100	100	100	100
ダブルスクール		ピアソンのカイニ乗28.404(0.005)クラマーV0.330					
充実&有用	度数	19	15	4	3	1	42
	%	41.30435	60	66.66667	60	20	48.28
充実but無用	度数	6	3	1	0	0	10
	%	13.04348	12	16.66667	0	0	11.49
非充実but有用	度数	3	0	0	0	3	6
	%	6.521739	0	0	0	60	6.897
非充実&無用	度数	18	7	1	2	1	29
	%	39.13043	28	16.66667	40	20	33.33
合計	度数	46	25	6	5	5	87
	%	100	100	100	100	100	100
サークル・部活動		ピアソンのカイニ乗24.259(0.019)クラマーV0.276					
充実&有用	度数	24	25	2	2	3	56
	%	48.97959	64.10256	28.57143	33.3333	60	52.83
充実but無用	度数	7	6	2	1	2	18
	%	14.28571	15.38462	28.57143	16.6667	40	16.98
非充実but有用	度数	1	6	0	0	0	7
	%	2.040816	15.38462	0	0	0	6.604
非充実&無用	度数	17	2	3	3	0	25
	%	34.69388	5.128205	42.85714	50	0	23.58
合計	度数	49	39	7	6	5	106
	%	100	100	100	100	100	100

表13 勤務先の業種・規模と学科

		現社	社福	教育	心理	文化	合計
90年度入学世代							
製造運輸通信商社金融	度数	8	2	2	6	11	29
マスコミ×1000人以上	%	27.59	7.143	6.897	26.09	52.38	22.31
製造運輸通信商社金融	度数	6	5	4	1	3	19
マスコミ×1000人未満	%	20.69	17.86	13.79	4.348	14.29	14.62
教育公務	度数	6	8	18	6	2	40
	%	20.69	28.57	62.07	26.09	9.524	30.77
百貨店小売り飲食店	度数	9	13	5	10	5	42
他サービス	%	31.03	46.43	17.24	43.48	23.81	32.31
合計	度数	29	28	29	23	21	130
	%	100	100	100	100	100	100
0102年度入学世代							
製造運輸通信商社金融	度数	7	5	4	2	15	33
マスコミ×1000人以上	%	28	12.2	8.696	16.67	37.5	20.12
製造運輸通信商社金融	度数	2	6	5	3	9	25
マスコミ×1000人未満	%	8	14.63	10.87	25	22.5	15.24
教育公務	度数	8	10	35	1	2	56
	%	32	24.39	76.09	8.333	5	34.15
百貨店小売り飲食店	度数	8	20	2	6	14	50
他サービス	%	32	48.78	4.348	50	35	30.49
合計	度数	25	41	46	12	40	164
	%	100	100	100	100	100	100

入学世代 値 漸近有意確率(両側)

90年度 Pearson のカ<sup>2</sup>乗 36.22 3E-04

Cramer の V 0.305 3E-04

0102年度 Pearson のカ<sup>2</sup>乗 68.45 6E-10

Cramer の V 0.373 6E-10

		現社 心理 文化	社福 教育	合計
90年度入学世代				
製造運輸通信商社金融	度数	25	4	29
マスコミ×1000人以上	%	34.25	7.018	22.31
製造運輸通信商社金融	度数	10	9	19
マスコミ×1000人未満	%	13.7	15.79	14.62
教育公務	度数	14	26	40
	%	19.18	45.61	30.77
百貨店小売り飲食店	度数	24	18	42
他サービス	%	32.88	31.58	32.31
合計	度数	73	57	130
	%	100	100	100
0102年度入学世代				
製造運輸通信商社金融	度数	24	9	33
マスコミ×1000人以上	%	31.17	10.34	20.12
製造運輸通信商社金融	度数	14	11	25
マスコミ×1000人未満	%	18.18	12.64	15.24
教育公務	度数	11	45	56
	%	14.29	51.72	34.15
百貨店小売り飲食店	度数	28	22	50
他サービス	%	36.36	25.29	30.49
合計	度数	77	87	164
	%	100	100	100

90年度 Pearson のカ<sup>2</sup>乗 18.02 3 4E-04

Cramer の V 0.372 4E-04

0102年度 Pearson のカ<sup>2</sup>乗 28.04 3 4E-06

Cramer の V 0.413 4E-06

表14 勤務先の業種・規模と職業キャリア

		正規・事務 営業販売 他・転職無	正規・専門 技術・転職 無	正規・事務 営業販売 &専門技術 ・転職あり	非正規・ 専門技術	非正規・ 事務営業 販売他	合計
90年度入学世代							
製造運輸通信商社金融 マスコミ×1000人以上	度数 %	21 72.41379	1 3.448276	4 13.7931	0 0	3 10.34483	29 100
製造運輸通信商社金融 マスコミ×1000人未満	度数 %	9 50	2 11.11111	5 27.77778	1 5.555556	1 5.555556	18 100
教育公務	度数 %	7 19.44444	11 30.55556	6 16.66667	4 11.11111	8 22.22222	36 100
百貨店小売り飲食店 他サービス	度数 %	10 25	1 2.5	12 30	6 15	11 27.5	40 100
合計	度数 %	47 38.21138	15 12.19512	27 21.95122	11 8.943089	23 18.69919	123 100
0102年度入学世代							
製造運輸通信商社金融 マスコミ×1000人以上	度数 %	32 96.9697	1 3.030303	0 0	0 0	0 0	33 100
製造運輸通信商社金融 マスコミ×1000人未満	度数 %	13 56.52174	6 26.08696	4 17.3913	0 0	0 0	23 100
教育公務	度数 %	9 16.36364	33 60	4 7.272727	7 12.72727	2 3.636364	55 100
百貨店小売り飲食店 他サービス	度数 %	27 54	11 22	2 4	5 10	5 10	50 100
合計	度数 %	81 50.31056	51 31.67702	10 6.21118	12 7.453416	7 4.347826	161 100

カイ2乗検定

入学世代	値	自由度	漸近有意確率(両側)
90年度 Pearson のカイ2乗	41.64093	12	3.83E-05
Cramer の V	0.335929		3.83E-05
0102年度 Pearson のカイ2乗	71.37778	12	1.77E-10
Cramer の V	0.384422		1.77E-10

4. 職業キャリアの規定要因分析

「2(2)分析の基本枠組み」に掲げた入学前職業選択、学科、学習・諸活動、就活開始×内定獲得、勤務先業種×規模の説明諸変数について、それぞれが職業キャリア(ならびに学科)とどのような関連を持っているかをみてきた。

最後に、これら説明諸変数が職業キャリアに対して持っている影響力を総合的に比べるために、ロジスティック回帰分析を行った。従属変数である「職業キャリア」も、独立変数である入学前職業選択、学科、就活、学習・諸活動、勤務先業種・規模も、すべて離散変量である。

質問紙で測定した学習・諸活動は「一般教養科目」「語学」「専門科目」「実験、実習、卒論」「資格取得」「ダブルスクール」「サークル・部活動」「友人関係」「副専攻」の9項目だが、少ないサンプル数でロジスティック回帰分析を行う関係で、分析に使う変数を絞り込む必要がある。そこで、表11、表12の要約表で90年度入学世代、01/02年度入学

世代の両方で、学科並びに職業キャリアと有意な関連を示していた「専門科目」と「資格取得」を分析に使用した。

### (1). 使用した変数

#### 1) 従属変数＝職業キャリアダミー

キャリア1 ; 「正規、事務営業販売職他、転職なし」 = 1 / 「それ以外」 = 0

キャリア2 ; 「正規、専門技術、転職なし」 = 1 / 「それ以外」 = 0

キャリア3 ; 「正規、事務営業販売&専門技術、転職あり」 = 1 / 「それ以外」 = 0

キャリア4 ; 「非正規、専門技術」 = 1 / 「それ以外」 = 0

キャリア5 ; 「非正規、事務営業販売職他」 = 1 / 「それ以外」 = 0

#### 2) 独立変数

##### ①入学前職業選択ダミー

選択1 ; 「考えていた」 = 1 / 「それ以外」 = 0

選択2 (基準0r参照変数) ; 「特に考えていなかった」 = 1 / 「それ以外」 = 0

##### ②学科ダミー

学科1 ; 「現社、心理、文化」 = 1 / 「それ以外」 = 0

学科2 ; (基準変数) ; 「社福、教育」 = 1 / 「それ以外」 = 0

##### ③就活ダミー

就活1 ; 「3年開始4年前期まで獲得」 = 1 / 「それ以外」 = 0

就活2 ; 「3年開始4年前期獲得」 = 1 / 「それ以外」 = 0

就活3 ; 「4年開始4年前期獲得」 = 1 / 「それ以外」 = 0

就活4 (基準変数) ; 「4年開始4年後期獲得」 = 1 / 「それ以外」

##### ④学習・諸活動「専門科目」ダミー

専門1 ; 「充実していた&役立っている」 = 1 / 「それ以外」 = 0

専門2 ; 「充実していた&役立ってない」 = 1 / 「それ以外」 = 0

専門3 ; (基準変数) 「充実してなかった」 = 1 / 「それ以外」 = 0

##### ⑤学習・諸活動「資格取得」ダミー

資格1 ; 「充実していた&役立っている」 = 1 / 「それ以外」 = 0

資格2 ; 「充実していた&役立ってない」 = 1 / 「それ以外」 = 0

資格3 ; (基準変数) 「充実してなかった」 = 1 / 「それ以外」 = 0

##### ⑥勤務先業種・規模ダミー

業種規模1 ; 「製造、運輸、通信、商社、金融、マスコミ等1,000人以上」 = 1 / 「それ以外」 = 0

業種規模2 ; 「製造、運有、通信、商社、金融、マスコミ等1,000人未満」 = 1 / 「それ以外」 = 0

業種規模3 ; 「教育、公務(国家、地方)」 = 1 / 「それ以外」 = 0

業種規模4 (基準変数) ; 「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」 = 1 / 「それ以外」 = 0

### (2) ロジスティック回帰分析という技法と、その分析結果

ロジスティック回帰分析は、離散変量の測定値(質問項目に対する個々の選択肢)をダミー変数(「あてはまる」 = 1 / 「当てはまらない」)に換算して、離散変量である従属

変数に対する複数の離散変量同士の影響力を相互に比較する技法である。従属変数を構成する複数のダミー変数を一括して分析に投入できる多項ロジスティック分析と、個々のダミー変数（つまり選択肢）を分析対象とする二項ロジスティック分析があるが、本研究ではサンプル数の関係で二項ロジスティック分析を行った。

その結果は、たとえば次のように表示される。これは 90 年度入学世代の計算結果である。この表で「定数」の行は、次のことを物語っている。基準変数（業種規模 4）の人々の間では、キャリア 1「である」人数の「でない」人数に対する比（＝オッズ）は、業種規模 4 以外の人々のあいだのキャリア 1「である」：「でない」比（＝オッズ）にくらべて 0.3333 倍（オッズ比）である。つまり、このオッズ比は業種規模 4 がキャリア 1 を生む効き目のことである。（※ここで  $0.3333$  のロジット自然対数  $\ln 0.3333 = -1.09861 = \text{係数 } B$  である。）それに対して、勤務先が業種規模 1「である」人々の間では、そのオッズ比が  $0.3333 \times 7.875$ （ここで  $7.875$  のロジット自然対数  $\ln 7.875 = 2.063693 = \text{係数 } B$ ） $= 2.65$  になる。業種規模 1 がキャリア 1 を生む効き目は業種規模 4 の効き目に比べて 7.88 倍だということである。独立変数（この場合、業種・規模）の  $B$  係数がプラスならば、 $\text{Exp}(B) > 1$  で、その変数のオッズ比は定数（基準変数）より大、マイナスならば小になる。

(3) 結果 1 ; 独立変数 = 「勤務先業種・規模」の場合

従属変数 = キャリア 1 (90 年度入学世代)

方程式中の変数	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp (B)
業種規模 1	2.063693	0.55313	13.91991	1	0.000191	7.875
業種規模 2	1.098612	0.596285	3.394544	1	0.065412	3
業種規模 3	-0.32277	0.557381	0.335345	1	0.562529	0.724138
定数	-1.09861	0.365148	9.052117	1	0.002624	0.333333

次表 15 から、以下のことが分かった。サンプル数の制約の関係から、90 年度入学世代と 01/02 年度入学世代を比較できるのは、職業キャリア 1 と 2（いわゆる安定したキャリア）に限定された。

- ① 90 年度入学世代の場合、安定したキャリアを得る主役は教育・公務の資格職であった。  
 (ア)「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」の人々の間で、キャリア 2 のオッズ比は 0.03 であるが、「教育・公務の資格職」の人々の間では、そのオッズ比は 17.2 倍 である。  
 (イ)「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」に勤務する人々のあいだで、キャリア 1 オッズ比は 0.33 であるが、「製造…商社金融保険等の大企業」に勤務する人々の間では、それが 7.9 倍 だった。
- ② 01/02 年度入学世代では、安定したキャリアを得る主役が「教育、公務」の資格職から大企業 OL へと交代した。  
 (ア)「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」に勤務する人々のあいだで、キャリア 2 オッズ比は 0.28 であるが、「教育・公務の資格職」に勤務する人々のあいだでは、そのオッズ比は 5.3 倍 である。  
 (イ)「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」に勤務する人々のあいだで、キャリア 1 オッズ比は 1.17 であるが、「製造…商社金融保険等の大企業」に勤務する人々の間では、それが 27.3 倍 になる。

表15 職業キャリアに対する「勤務先業種・規模」の影響

方程式中の変数=独立変数

業種規模ダミー1=「製造、運輸、通信、電気、ガス、商社、卸売、金融、保険、マスコミ等、1,000人以上」

業種規模ダミー2=「製造、運輸、通信、電気、ガス、商社、卸売、金融、保険、マスコミ等、1,000人未満」

業種規模ダミー3=「教育、公務(国家、地方)」

定数(参照変数)=「百貨店、小売り、飲食店、その他サービス」

90年度入学世代

01/02年度入学世代

従属変数=職業キャリアダミー1「正規、事務営業販売職、転職無し」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
業種規模ダミー1	2.0637	0.00019	7.875	業種規模ダミー1	3.305393	0.001719	27.259259
業種規模ダミー2	1.0986	0.06541		業種規模ダミー2	0.102022	0.840641	1.1074074
業種規模ダミー3	-0.323	0.56253	0.72413793	業種規模ダミー3	-1.79176	0.000105	0.1666667
定数	-1.099	0.00262	0.33333333	定数	0.160343	0.572019	1.173913
Nagelkerke R 2 乗		0.24138	反復回数 4	Nagelkerke R 2 乗	0.441334		反復回数 6

従属変数=職業キャリアダミー2「正規、専門技術職、転職無し」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
業種規模ダミー1	0.3314	0.81748	1.39285706	業種規模ダミー1	-2.20007	0.04002	0.1107955
業種規模ダミー2	1.5841	0.20874	4.87499972	業種規模ダミー2	0.224212	0.701443	1.2513369
業種規模ダミー3	2.8426	0.00821	17.159999	業種規模ダミー3	1.671131	0.000139	5.3181818
定数	-3.664	0.0003	0.02564103	定数	-1.26567	0.000209	0.2820513
Nagelkerke R 2 乗	0.2369		反復回数 6	Nagelkerke R 2 乗	0.301476		反復回数 6

従属変数=職業キャリアダミー3「正規、事務営業販売職&専門技術職、転職あり」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
業種規模ダミー1	-0.985	0.12343	0.37333334	業種規模ダミー1	-18.0248	0.997944	1.486E-08
業種規模ダミー2	-0.108	0.86346	0.8974359	業種規模ダミー2	1.619909	0.074241	5.0526316
業種規模ダミー3	-0.762	0.17724	0.46666667	業種規模ダミー3	0.632523	0.476809	1.8823529
定数	-0.847	0.01406	0.42857143	定数	-3.17805	1.06E-05	0.0416667
Nagelkerke R 2 乗	0.0445		反復回数 4	Nagelkerke R 2 乗	0.133803		最終解到達不能

従属変数=職業キャリアダミー4「非正規・専門技術職」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
業種規模ダミー1	-19.47	0.99792	3.5077E-09	業種規模ダミー1	-19.0057	0.997833	5.571E-09
業種規模ダミー2	-1.099	0.32674	0.33333333	業種規模ダミー2	-19.0057	0.998191	5.571E-09
業種規模ダミー3	-0.345	0.61769	0.70833333	業種規模ダミー3	0.271934	0.661573	1.3125
定数	-1.735	9E-05	0.17647059	定数	-2.19722	3.15E-06	0.1111111
Nagelkerke R 2 乗	0.1298		最終解到達不能	Nagelkerke R 2 乗	0.15989		最終解到達不能

従属変数=職業キャリアダミー5「非正規・事務営業販売職」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
業種規模ダミー1	-1.19	0.09145	0.3041958	業種規模ダミー1	-19.0057	0.997833	5.571E-09
業種規模ダミー2	-1.864	0.08676	0.15508026	業種規模ダミー2	-19.0057	0.998191	5.571E-09
業種規模ダミー3	-0.283	0.59628	0.75324675	業種規模ダミー3	-1.07992	0.209676	0.3396226
定数	-0.969	0.00619	0.37931034	定数	-2.19722	3.15E-06	0.1111111
Nagelkerke R 2 乗	0.081		反復回数 5	Nagelkerke R 2 乗	0.15917		最終解到達不能

(4) 結果2 ; 独立変数=学科、業種規模の場合

③安定したキャリアの主役が、90年度入学世代の教育・公務の資格職から、01/02年度入学世代の大企業OLに交代していることは、相変わらずである。しかしそれと同時に、01/02年度では、学科も影響を持つようになっている。「現社、心理、文化」は「キャリア1」(=大企業OLキャリア)のオッズ比を2.8倍高め、「社福、教育」は「キャリア2」(=教育、公務の資格職)のオッズ比をExp(+2.34758)=10.46倍高める効果のみせている。

表16 職業キャリアに対する「業種・規模」、「学科」の影響

90年度入学世代				01/02年度入学世代			
従属変数=職業キャリアダミー1「正規、事務営業販売職、転職無し」							
方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
現社、心理、文化	-0.179	0.69213	0.83585642	現社、心理、文化	1.035852	0.011616	2.8175055
業種規模ダミー1	2.118	0.00021	8.31445579	業種規模ダミー1	3.178554	0.002788	24.012005
業種規模ダミー2	1.0871	0.06875	2.96573454	業種規模ダミー2	0.068195	0.896879	1.0705738
業種規模ダミー3	-0.361	0.52336	0.69668254	業種規模ダミー3	-1.52143	0.001695	0.2183989
定数	-0.997	0.02435	0.36880932	定数	-0.37664	0.313621	0.6861617
Nagelkerke R 2 乗 0.2428 反復回数 4				Nagelkerke R 2 乗 0.474722 反復回数 6			

従属変数=職業キャリアダミー2「正規、専門技術職、転職無し」							
方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
現社、心理、文化	-0.992	0.14012	0.37090211	現社、心理、文化	-2.34758	1.21E-05	0.0956
業種規模ダミー1	0.6656	0.64894	1.94558942	業種規模ダミー1	-1.92348	0.082683	0.146098
業種規模ダミー2	1.531	0.22715	4.62295197	業種規模ダミー2	0.379038	0.566836	1.4608787
業種規模ダミー3	2.6989	0.01263	14.8640662	業種規模ダミー3	1.282367	0.009739	3.6051631
定数	-3.209	0.00207	0.04041314	定数	-0.41722	0.308619	0.6588763
Nagelkerke R 2 乗 0.2683 反復回数 6				Nagelkerke R 2 乗 0.465628 反復回数 6			

従属変数=職業キャリアダミー3「正規、事務営業販売職&専門技術職、転職あり」							
方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
現社、心理、文化	-0.003	0.99439	0.99669908	現社、心理、文化	0.95071	0.197666	2.5875449
業種規模ダミー1	-0.984	0.1321	0.37368795	業種規模ダミー1	-18.1499	0.997943	1.311E-08
業種規模ダミー2	-0.108	0.86336	0.89721331	業種規模ダミー2	1.628836	0.075058	5.0979397
業種規模ダミー3	-0.763	0.18366	0.46633662	業種規模ダミー3	0.990733	0.293735	2.6932077
定数	-0.845	0.05376	0.42938676	定数	-3.79559	3.53E-05	0.0224697
Nagelkerke R 2 乗 0.0445 反復回数 4				Nagelkerke R 2 乗 0.158684 最終解到達不能			

従属変数=職業キャリアダミー4「非正規・専門技術職」							
方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
現社、心理、文化	-0.621	0.36291	0.53722846	現社、心理、文化	0.810878	0.232645	2.2498818
業種規模ダミー1	-19.28	0.99793	4.251E-09	業種規模ダミー1	-19.1294	0.997836	4.923E-09
業種規模ダミー2	-1.154	0.30517	0.3152456	業種規模ダミー2	-19.018	0.998172	5.503E-09
業種規模ダミー3	-0.478	0.50035	0.62010348	業種規模ダミー3	0.571007	0.405731	1.7700486
定数	-1.411	0.01009	0.24400363	定数	-2.70002	7.53E-05	0.0672042
Nagelkerke R 2 乗 0.1442 最終解到達不能				Nagelkerke R 2 乗 0.179433 最終解到達不能			

従属変数=職業キャリアダミー5「非正規・事務営業販売職」							
方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
現社、心理、文化	1.2777	0.02149	3.58837429	現社、心理、文化	1.304084	0.15744	3.6843126
業種規模ダミー1	-1.527	0.03505	0.21712496	業種規模ダミー1	-19.1732	0.997815	4.712E-09
業種規模ダミー2	-1.849	0.09308	0.15741968	業種規模ダミー2	-19.0096	0.998152	5.549E-09
業種規模ダミー3	-0.021	0.97027	0.97916377	業種規模ダミー3	-0.61455	0.507582	0.5408839
定数	-1.797	0.00094	0.16586126	定数	-3.07481	0.000456	0.0461986
Nagelkerke R 2 乗 0.1519 反復回数 6				Nagelkerke R 2 乗 0.203779 最終解到達不能			

表17 職業キャリアに対する「勤務先業種・規模」「入学前職業選択」「学科」「専門科目」「資格取得」「就活」の影響

方程式中の変数＝独立変数

職業選択ダミー1＝「入学前に将来の職業のことを考えていた」

学科ダミー1＝「現社、心理、文化」

就活ダミー1＝「3年開始4年前期まで内定獲得」

就活ダミー2＝「3年開始4年後期に内定獲得」

就活ダミー3＝「4年開始4年前期に内定獲得」

専門科目ダミー1＝「専門科目が充実していた&職業生活に役立っている」

専門科目ダミー2＝「専門科目が充実していた&職業生活に役立っていない」

資格取得ダミー1＝「資格取得が充実していた&職業生活に役立っている」

資格取得ダミー2＝「資格取得が充実していた&職業生活に役立っていない」

業種規模ダミー1＝「製造、運輸、通信、電気、ガス、商社、卸売、金融、保険、マスコミ等、1,000人以

業種規模ダミー2＝「製造、運輸、通信、電気、ガス、商社、卸売、金融、保険、マスコミ等、1,000人未

業種規模ダミー3＝「教育、公務(国家、地方)」

定数(参照変数)＝「学科ダミー2(社福、教育)」or「就活ダミー4(考えていなかった)」or

「専門科目ダミー3(充実していなかった)」or「資格取得ダミー3(充実していなかった)

or「業種規模ダミー4(百貨店、小売り、飲食店、その他サービス)」

90年度入学

01/02年度入学

従属変数＝職業キャリアダミー1「正規、事務営業販売職他、転職無し」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業選択ダミー1	0.48514	0.6614	1.6244	職業選択ダミー1	-1.49913	0.02857	0.223324
学科ダミー1	-0.4419	0.70494	0.6428	学科ダミー1	0.677492	0.32885	1.968934
就活ダミー1	-1.9409	0.19293	0.14358	就活ダミー1	1.846076	0.04101	6.334912
就活ダミー2	-0.4204	0.7806	0.6568	就活ダミー2	1.32314	0.1693	3.755195
就活ダミー3	-0.9153	0.52753	0.4004	就活ダミー3	1.066442	0.41152	2.905024
専門科目ダミー1	-0.6174	0.70247	0.53932	専門科目ダミー1	1.271848	0.25961	3.567438
専門科目ダミー2	0.02048	0.97642	1.02069	専門科目ダミー2	0.393731	0.41538	1.482501
資格取得ダミー1	-0.444	0.66591	0.64145	資格取得ダミー1	-0.06049	0.92883	0.941305
資格取得ダミー2	-0.1994	0.89907	0.81918	資格取得ダミー2	0.382182	0.6745	1.465479
業種規模ダミー1	3.07107	0.04586	21.5651	業種規模ダミー1	2.167124	0.07427	8.733135
業種規模ダミー2	1.50723	0.24444	4.51421	業種規模ダミー2	-0.10545	0.89095	0.899921
業種規模ダミー3	0.27355	0.83622	1.31462	業種規模ダミー3	-1.54452	0.06537	0.213414
定数	0.70128	0.77871	2.01633	定数	-1.192	0.34493	0.303614
Nagelkerke R 2 乗	0.32852	反復回数	5	Nagelkerke R 2 乗	0.507065	反復回数	6

従属変数＝職業キャリアダミー2「正規、専門技術職、転職無し」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業選択ダミー1	-10.196	0.99941	3.7E-05	職業選択ダミー1	1.545688	0.05478	4.691198
学科ダミー1	-10.344	0.99976	3.2E-05	学科ダミー1	-2.2561	0.01208	0.104758
就活ダミー1	8.66493	0.99965	5796.06	就活ダミー1	0.14451	0.86653	1.155473
就活ダミー2	10.43	0.99986	33859.2	就活ダミー2	-0.17748	0.83531	0.837374
就活ダミー3	8.05997	0.99968	3165.21	就活ダミー3	1.45818	0.32425	4.298131
専門科目ダミー1	17.0599	0.9998	2.6E+07	専門科目ダミー1	0.894641	0.5131	2.446457
専門科目ダミー2	-1.5389	0.99997	0.21462	専門科目ダミー2	0.20465	0.70453	1.227095
資格取得ダミー1	-9.5078	0.99945	7.4E-05	資格取得ダミー1	0.632904	0.41134	1.883071
資格取得ダミー2	-0.3319	0.99999	0.71753	資格取得ダミー2	-0.03795	0.96843	0.962762
業種規模ダミー1	10.7681	0.99981	47479.7	業種規模ダミー1	-1.7916	0.16856	0.166694
業種規模ダミー2	19.358	0.99917	2.6E+08	業種規模ダミー2	-0.02382	0.97942	0.976458
業種規模ダミー3	8.55673	0.99951	5201.63	業種規模ダミー3	-0.0398	0.96183	0.960979
定数	-34.584	0.99963	9.6E-16	定数	-2.11607	0.1667	0.120504
Nagelkerke R 2 乗	0.64018	最終解到達不能		Nagelkerke R 2 乗	0.47509	反復回数	6

表17 (続)

従属変数=職業キャリアダミー3「正規、事務営業販売職&専門技術職、転職有り」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業選択ダミー1	34.1864	0.99626	7E+14	職業選択ダミー1	-0.05549	0.98386	0.946017
学科ダミー1	35.2115	0.99694	2E+15	学科ダミー1	17.27725	0.99654	31872328
就活ダミー1	20.4727	0.99888	7.8E+08	就活ダミー1	-18.2909	0.99634	1.14E-08
就活ダミー2	-33.728	0.99873	2.2E-15	就活ダミー2	-36.4802	0.99622	1.44E-16
就活ダミー3	2.78262	0.99986	16.1613	就活ダミー3	-37.8665	0.99764	3.59E-17
専門科目ダミー1	61.6414	0.99713	5.9E+26	専門科目ダミー1	-10.8511	0.9979	1.94E-05
専門科目ダミー2	26.0681	0.99611	2.1E+11	専門科目ダミー2	-9.83746	0.99809	5.34E-05
資格取得ダミー1	34.528	0.99654	9.9E+14	資格取得ダミー1	-2.42944	0.11758	0.088086
資格取得ダミー2	33.5335	0.99825	3.7E+14	資格取得ダミー2	-2.16245	0.99979	0.115043
業種規模ダミー1	-69.841	0.99563	4.7E-31	業種規模ダミー1	16.10171	0.9987	9837510
業種規模ダミー2	-70.966	0.99639	1.5E-31	業種規模ダミー2	36.06364	0.9955	4.59E+15
業種規模ダミー3	-34.63	0.99664	9.1E-16	業種規模ダミー3	35.85061	0.99553	3.71E+15
定数	-116.2	0.99639	3.4E-51	定数	-24.4492	0.99743	2.41E-11
Nagelkerke R 2 乗 0.74878 最終解到達不能				Nagelkerke R 2 乗 0.677495 最終解到達不能			

従属変数=職業キャリアダミー4「非正規、専門技術職」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業選択ダミー1	-35.18	0.99698	5.3E-16	職業選択ダミー1	0.676574	0.6608	1.967127
学科ダミー1	-70.356	0.99574	2.8E-31	学科ダミー1	3.394539	0.10051	29.80091
就活ダミー1	-67.269	0.99885	6.1E-30	就活ダミー1	-4.42914	0.06781	0.011925
就活ダミー2	-16.006	0.99952	1.1E-07	就活ダミー2	-2.28392	0.26042	0.101884
就活ダミー3	-33.658	0.99903	2.4E-15	就活ダミー3	-18.7515	0.99881	7.18E-09
専門科目ダミー1	37.5458	0.99918	2E+16	専門科目ダミー1	-2.86156	0.34261	0.057179
専門科目ダミー2	2.79075	0.99987	16.2933	専門科目ダミー2	0.102209	0.92568	1.107615
資格取得ダミー1	37.918	0.99882	2.9E+16	資格取得ダミー1	-1.75988	0.24627	0.172065
資格取得ダミー2	39.011	0.99854	8.8E+16	資格取得ダミー2	-18.3298	0.998	1.1E-08
業種規模ダミー1	65.0759	0.99865	1.8E+28	業種規模ダミー1	-18.9412	0.99796	5.94E-09
業種規模ダミー2	32.5114	0.99894	1.3E+14	業種規模ダミー2	-20.1222	0.99782	1.82E-09
業種規模ダミー3	1.61172	0.99995	5.0114	業種規模ダミー3	0.743765	0.64784	2.103841
定数	-24.279	0.99948	2.9E-11	定数	-0.11946	0.969	0.887401
Nagelkerke R 2 乗 0.92186 最終解到達不能				Nagelkerke R 2 乗 0.653873 最終解到達不能			

従属変数=職業キャリアダミー5「非正規、事務営業販売職他」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業選択ダミー1	-0.3219	0.85065	0.72477	職業選択ダミー1	16.32153	0.99908	12256049
学科ダミー1	19.9443	0.99817	4.6E+08	学科ダミー1	-0.13168	1	0.876618
就活ダミー1	37.9894	0.99804	3.2E+16	就活ダミー1	-0.44108	0.99997	0.643343
就活ダミー2	37.1711	0.99808	1.4E+16	就活ダミー2	2.486461	0.99986	12.01867
就活ダミー3	36.3742	0.99812	6.3E+15	就活ダミー3	0.332744	0.99999	1.394791
専門科目ダミー1	-0.3857	0.87766	0.67998	専門科目ダミー1	-26.8153	0.99883	2.26E-12
専門科目ダミー2	-0.3697	0.67169	0.69093	専門科目ダミー2	-8.6856	0.99907	0.000169
資格取得ダミー1	-1.1691	0.52549	0.31066	資格取得ダミー1	1.240989	0.99992	3.459032
資格取得ダミー2	-18.426	0.99897	9.9E-09	資格取得ダミー2	18.28632	0.99895	87427871
業種規模ダミー1	-2.6443	0.20498	0.07105	業種規模ダミー1	-16.7493	0.99925	5.32E-08
業種規模ダミー2	-1.0697	0.62597	0.34311	業種規模ダミー2	-19.1615	0.99932	4.77E-09
業種規模ダミー3	18.1994	0.99833	8E+07	業種規模ダミー3	15.68899	0.99944	6510918
定数	-55.498	0.99795	7.9E-25	定数	-27.1147	0.99935	1.68E-12
Nagelkerke R 2 乗 0.42614 最終解到達不能				Nagelkerke R 2 乗 0.115925 最終解到達不能			

(5) 結果3 ; 独立変数に職業選択、専門科目、資格取得、就活を加えた場合  
結果は上の表17のとおりである。ここから次のことが読み取れる。

④ 上述した学科の影響力は、独立変数にさらに、入学前職業選択、就活、専門科目、資格

取得を加えると消えた。

(ウ) キャリア1に対して、「業種規模ダミー1 (大企業)」はかろうじて 10 %水準で有意な影響力(「正規、事務…、転職無し」のオッズ比を 8.7 倍高める)を持っているが、「学科ダミー1 (現社、心理、文化)」は統計的に有意な影響力を失い、代わって、「職業選択ダミー2」と「就活ダミー1」が 5 %水準で統計的に有意な影響力を示した。「職業選択ダミー2 (入学前に将来の職業を特に考えていなかった)」は、キャリア1「(正規、事務…、転職無し)」のオッズ比を 4.48 倍高め、「就活ダミー1 (3年開始4年前期まで内定獲得)」はキャリアダミー1のオッズ比を 6.3 倍高める効果を示している。

(エ) つまり、キャリア1に対する「現社、心理、文化」の効果とみえたものは、とりたてて学科の教育の成果であるというよりも、受験生達が入学前から大企業OLをめざし、3年次からの活発な就活をくり広げた結果の産物であるといえる。バブル不況から回復し始めた時代の雰囲気は現社、心理、文化だけでなく社福、教育の学生にも広まった結果、「学科ダミー1 (現社、心理、文化)」が統計的に有意な効果を示さなくなった、といえる。

⑤これに比べて、キャリア2に対する「学科」の独自の影響は残存している。

(オ)「キャリア2 (正規、専門技術職、転職無し)」を従属変数とし、学科と業種規模を独立変数とする回帰分析によれば、「学科1 (現社、心理、文化)」はキャリア2のオッズ比を 0.0956 倍低下させ、「学科ダミー2 (社福、教育)」はオッズ比を 10.46 倍高める。また、「業種規模ダミー3 (教育、公務 (国家、地方))」はキャリア2のオッズ比を 3.6 倍高める。

(カ)しかし、独立変数にさらに「入学前職業選択」「就活」「専門科目」「資格取得」を同時に独立変数に投入すると、「業種規模ダミー3」は統計的に有意な効果を失い、「職業選択ダミー1 (入学前から考えていた)」がオッズ比を 4.69 倍高め、「学科ダミー1 (現社、心理、文化)」がオッズ比を 0.105 倍低下させる効果を、逆に「学科ダミー2 (社福、教育)」はオッズ比を 9.55 倍高める効果を示す。

(キ)つまり、入学前から資格専門職をめざす学生の受け皿になることによって、社福教育は卒業生にキャリア2をたどらせる効果を保っているといえる。

## 5. 90年度入学世代のライフコースと職業キャリア

表18から以下のことが分かる。

①職業キャリア3 (正規、事務営業販売&専門技術、転職有り)はライフコース1 (未婚、仕事継続)の出現確率を高め、職業キャリア1 (正規、事務営業販売職他、転職無し)はライフコース3 (結婚出産退職、その後再就職)の確率を低め、職業キャリア2 (正規、専門技術職、転職無し)はライフコース4 (その他の類型)の確率を高める。

②ライフコースが職業キャリアの影響を受けることは、「2-(2)分析の基本枠組み」の想定通りであったが、その他にライフコースは学科からも影響を受けている。ライフコース1 (未婚、仕事継続)は学科ダミー1 (現社、心理、文化)によって出現確率を高められるのに対して学科ダミー2 (社福、教育)によって低められ、逆にライフコース4 (その他の類型)は学科ダミー1 (現社、心理、文化)によって出現確率を低められるの似対して学科ダミー2 (社福、教育)によって確率を高められている。

表18 90年度入学世代のライフコースと職業キャリア、学科

方程式中の変数＝独立変数

職業キャリアダミー1＝「正規、事務営業販売職他、転職無し」

職業キャリアダミー2＝「正規、専門技術職、転職無し」

職業キャリアダミー3＝「正規、事務営業販売職他&専門技術職、転職有り」

職業キャリアダミー4＝「非正規、専門技術職」

学科ダミー1＝「現社、心理、文化」

定数(参照変数)＝「職業キャリアダミー4(非正規、事務営業販売職他)」or「社福、教育」

従属変数＝ライフコース1「就職し、未婚、仕事継続」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業キャリアダミー1	-2E-16	1	1	学科ダミー1	1.0641	0.02275	2.89827
職業キャリアダミー2	-0.288	0.757628	0.75	職業キャリアダミー1	0.0381	0.95514	1.03884
職業キャリアダミー3	2.0065	0.00248	7.4375	職業キャリアダミー2	0.1276	0.894563	1.13611
職業キャリアダミー4	1.1474	0.12665	3.15	職業キャリアダミー3	2.2076	0.001363	9.0938
定数	-1.658	0.002369	0.19048	職業キャリアダミー4	1.2769	0.097718	3.5854
Nagelkerke R 2 乗	0.2046	反復回数 5		定数	-2.424	0.000272	0.08856
				Nagelkerke R 2 乗	0.2546	反復回数 5	

従属変数＝ライフコース2「就職し、結婚・出産後退職」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業キャリアダミー1	0.2642	0.610251	1.30242	学科ダミー1	0.5377	0.204778	1.71198
職業キャリアダミー2	-1.192	0.170136	0.30357	職業キャリアダミー1	0.2894	0.579769	1.33558
職業キャリアダミー3	-1.079	0.117058	0.34	職業キャリアダミー2	-0.991	0.263297	0.3712
職業キャリアダミー4	-0.713	0.355231	0.49038	職業キャリアダミー3	-1.044	0.131252	0.35188
定数	-0.754	0.078733	0.47059	職業キャリアダミー4	-0.681	0.380085	0.50635
Nagelkerke R 2 乗	0.0902	反復回数 5		定数	-1.11	0.03302	0.32944
				Nagelkerke R 2 乗	0.1067	反復回数 5	

従属変数＝ライフコース3「結婚・出産後退職、後再就職」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業キャリアダミー1	-2.739	0.013889	0.06463	学科ダミー1	-0.016	0.978749	0.98381
職業キャリアダミー2	-1.555	0.170196	0.21111	職業キャリアダミー1	-2.74	0.013891	0.06458
職業キャリアダミー3	-1.45	0.095455	0.23457	職業キャリアダミー2	-1.562	0.177822	0.20977
職業キャリアダミー4	0.0541	0.942021	1.05556	職業キャリアダミー3	-1.451	0.095786	0.23423
定数	-1.153	0.013838	0.31579	職業キャリアダミー4	0.0528	0.943491	1.05422
Nagelkerke R 2 乗	0.185	反復回数 7		定数	-1.142	0.061143	0.3191
				Nagelkerke R 2 乗	0.185	反復回数 7	

従属変数＝ライフコース4「その他」

方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)	方程式中の変数	B	有意確率	Exp (B)
職業キャリアダミー1	0.7033	0.183484	2.02041	学科ダミー1	-1.299	0.001321	0.27281
職業キャリアダミー2	1.7329	0.013238	5.65714	職業キャリアダミー1	0.716	0.195948	2.04617
職業キャリアダミー3	-0.399	0.532194	0.67081	職業キャリアダミー2	1.355	0.064709	3.87664
職業キャリアダミー4	-0.522	0.503544	0.59341	職業キャリアダミー3	-0.555	0.405039	0.57392
定数	-0.944	0.03398	0.38889	職業キャリアダミー4	-0.671	0.407315	0.51094
Nagelkerke R 2 乗	0.14	反復回数 4		定数	-0.194	0.703522	0.82358
				Nagelkerke R 2 乗	0.2342	反復回数 4	

この効果がどの程度、学科独自の効果なのかは、学科×職業キャリアの「交絡項」を独立変数に投入して回帰分析を続ける必要があるが、表6にみるように学科2分類×職業キャリア5分類のクロス表では一個一個のセルの度数が小さくなり、回帰分析で最終解が求められない確率が高い。学科が職業キャリアを経由しないでライフコースに独自の与える影響力を探り出すことは、残された課題である。

## Ⅱ. 卒業生の大学教育観と職業キャリア、ライフコース

### 1. 90年度入学世代の大学教育観と職業キャリア、ライフコース

#### (1) 大学教育観の因子分析

調査票の Q 1 1。は大学教育のあり方について、a～j の 10 個の意見を挙げ、それぞれに対する態度を「1. そう思う」～「5. そう思わない」の 5 段階で聞いている。1. ～ 5. のウェイトを逆転させて、因子分析を実行した結果が、次表 1 9 である。

表 1 9 大学教育観の因子分析結果

#### 90年度入学世代

説明された分散の合計(a)									
因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	2.2928	22.9279	22.928	2.2928	22.9279	22.928	1.71902	17.1902	17.19
2	1.6698	16.6984	39.626	1.6698	16.6984	39.626	1.6339	16.339	33.529
3	1.1454	11.4543	51.081	1.1454	11.4543	51.081	1.61766	16.1766	49.706
4	1.1003	11.0028	62.083	1.1003	11.0028	62.083	1.23777	12.3777	62.083
5	0.9073	9.07261	71.156						
6	0.7518	7.51827	78.674						
7	0.6421	6.4209	85.095						
8	0.575	5.74998	90.845						
9	0.5229	5.22899	96.074						
10	0.3926	3.92576	100						

因子抽出法: 主成分分析

#### 回転後因子負荷量

質問項目	因子			
	1	2	3	4
勉強よりサークル・友人関係が役立つ	0.19886	0.1861	0.3333	-0.699
実務的・応用的な教育を行うべき	-0.1885	0.7428	-0.1516	-0.0473
論理的・体系的な考え方を訓練すべき	0.72351	0.2066	0.0798	-0.0346
人文社会科学の一般的教養を養うべき	0.75013	-0.061	-0.4738	-0.0717
発表や論文の表現技法を鍛えるべき	0.54419	0.1077	0.23835	0.37835
家庭役割を重視した教育をすべき	0.05136	-0.15	-0.8081	0.15292
専門職として自立できる教育をすべき	0.3494	0.6612	0.17457	0.12296
企業社会でキャリアを積める教育をすべき	0.31708	0.6537	0.00819	0.10173
職業、家庭だけでなく社会活動を視野に	0.17927	0.2673	0.08281	0.7394
特に女子を意識した教育の必要はない	0.06506	-0.176	0.71098	0.04261

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a 8 回の反復で回転が収束しました。

4 つの因子が抽出され、回答者の態度のバラツキの 62 % を説明している。「人文社会科学の一般的教養を養うべき」「発表や論文の表現技法を鍛えるべき」「論理的・体系的な考え方を訓練すべき」などは、第 1 因子に対して高い因子負荷量を持っている。この第 1 因子は<知的生産体験重視>因子といえる。第 2 因子に高い因子負荷量を持っているのは、「実務的・応用的な教育を行うべき」「専門職として自立できる教育をすべき」「企業社会でキャリアを積める教育をすべき」などである。この第 2 因子は<実務実践専門教育

重視>因子といえる。第3因子に対しては、「家庭役割を重視した教育をすべき」がマイナスの高い因子負荷量を持つ一方で、「特に女子を意識した教育の必要はない」がプラスの高い因子負荷量を持っている。第4因子は<脱女子教育>因子といえる。第4因子に対しては、「勉強よりサークル・友人関係が役立つ」がマイナスの高い因子負荷量を持つ一方で、「職業、家庭だけでなく、社会活動を視野に入れるべき」が高い因子負荷量を持っている。第4因子は、私的な親密空間における人間関係能力よりも公的な社会空間への参加を重視する<公共性・社会性重視>因子といえる。因子分析では、調査対象者一人一人がa~jの10個の質問に対して与えた反応(1点~5点)を、各人が4つの因子に対して持っている得点Xから予測するための予測式

$$Y = A1 X1 + A2 X2 + A3 X3 + A4 X4 + B$$

を索出するとともに、同時に、回答者各人が因子X1、X2、X3、X4に対して持っている得点(因子得点)を計算してくれる。次表は、a~jの各質問項目にそのようにして計算された因子得点係数のリストである。回答者各人について算出された因子得点は、データファイルの中に保存されている。

表19(続)、各質問項目と対応する因子得点係数のリスト

因子得点係数行列				
基本モデル Y=A1X1+A2X2+A3X3+A4X4+B ※因子得点X1…X4は、回答者個々人に 算出される	因子X1 <知的生産 追体験重視> 因子	因子X2 <実務実践 専門教育 重視>因子	因子X3 <脱女子 教育>因子	因子X4 <公共性・ 社会性重視> 因子X4
Y(各質問に対する回答者個々人の回答)	係数A1	係数A2	係数A3	係数A4
勉強よりサークル・友人関係が役立つ	0.153168925	0.118262155	0.15144117	-0.59538781
実務的・応用的な教育を行うべき	-0.271111102	0.567474024	-0.1542166	-0.09137501
論理的・体系的な考え方を訓練すべき	0.434965159	-0.00625768	0.04024052	-0.09897751
人文社会科学の一般的教養を養うべき	0.503972346	-0.1541443	-0.2914101	-0.1491144
発表や論文の表現技法を鍛えるべき	0.305345404	-0.08159913	0.17327218	0.280903021
家庭役割を重視した教育をすべき	0.043226962	-0.06747604	-0.4874648	0.081298113
専門職として自立できる教育をすべき	0.086402006	0.365556031	0.0739904	0.035663581
企業社会でキャリアを積める教育をすべき	0.066871331	0.380532505	-0.0320309	0.009856826
職業、家庭だけでなく社会活動を視野に 特に女子を意識した教育の必要はない	0.003230279	0.086374633	0.08443764	0.591487868
	0.081786176	-0.18996814	0.46413981	0.09183539
因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法				

このリストから、次のことが予想できる。

- ①因子得点 X1 の得点が高い回答者ほど、「人文社会科学の一般的教養を養うべき」「発表や論文の表現技法を鍛えるべき」「論理的・体系的な考え方を訓練すべき」などの質問に高い(肯定的な)回答をする。
- ②因子得点 X2 の得点が高いほど、「実務的・応用的な教育を行うべき」「専門職として自立できる教育をすべき」「企業社会でキャリアを積める教育をすべき」などの質問に高い(肯定的な)回答をする。
- ③因子得点 X3 の得点が高いほど、「家庭役割を重視した教育をすべき」に対して低い(否定的な)回答をし、「特に女子を意識した教育の必要はない」に対して高い(肯定的な)回答をする。
- ④因子得点 X4 の得点が高いほど、「勉強よりサークル・友人関係が役立つ」に対して低い(否定的な)回答をし、「職業、家庭だけでなく社会活動を視野に入れるべき」に対し

て高い（肯定的な）回答をする。

(2) 職業キャリア、ライフコースによる大学教育観の違い

そこで、職業キャリア5類型グループ、ライフコース4類型グループが、この4つの因子に対してどのような平均得点を持っているかを比べることによって、職業キャリアやライフコースが大学教育観にどのように関連するかをみる事が出来る。それを示したのが、次の表20、表21である。

表20 ライフコースによる大学教育観の差一因子得点の分散分析結果一

90年度入学世代

記述統計							
因子	ライフコース	度数	平均値	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値
				下限	上限		
<知的生産 追体験重視> 因子得点	就職し非婚、仕事継続	201	-0.134	-0.282	0.013	-3.28	2.325
	就職し、結婚・出産後退職	41	0.0115	-0.285	0.308	-1.84	1.605
	結婚・出産後退職、その後再就職	16	-0.177	-0.788	0.433	-2.286	1.41
	その他	76	-0.261	-0.519	-0	-3.602	2.053
	合計	334	-0.147	-0.262	-0.03	-3.602	2.325
<実務実践 専門教育重視> 因子得点	就職し非婚、仕事継続	201	-0.065	-0.212	0.082	-3.153	2.232
	就職し、結婚・出産後退職	41	-0.032	-0.35	0.286	-2.98	1.785
	結婚・出産後退職、その後再就職	16	-0.059	-0.458	0.34	-1.503	1.113
	その他	76	0.1194	-0.093	0.332	-3.197	1.967
	合計	334	-0.019	-0.127	0.09	-3.197	2.232
<脱女子教育> 因子得点	就職し非婚、仕事継続	201	-0.007	-0.116	0.103	-1.833	2.233
	就職し、結婚・出産後退職	41	-0.346	-0.649	-0.04	-2.403	1.479
	結婚・出産後退職、その後再就職	16	-0.012	-0.558	0.533	-1.653	1.448
	その他	76	0.1269	-0.107	0.361	-2.699	2.738
	合計	334	-0.018	-0.114	0.077	-2.699	2.738
<公共性・ 社会性重視> 因子得点	就職し非婚、仕事継続	201	-0.031	-0.166	0.104	-3.627	2.083
	就職し、結婚・出産後退職	41	-0.094	-0.415	0.227	-3.749	1.748
	結婚・出産後退職、その後再就職	16	0.224	-0.281	0.729	-1.723	1.902
	その他	76	-0.123	-0.352	0.105	-3.717	1.677
	合計	334	-0.048	-0.153	0.058	-3.749	2.083

分散分析						
		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
<知的生産 追体験重視> 因子得点	グループ間	2.068293	3	0.689431	0.6069	0.61094
	グループ内	374.8838	330	1.136011		
	合計	376.9521	333			
<実務実践 専門教育重視> 因子得点	グループ間	1.914555	3	0.638185	0.6268	0.59816
	グループ内	336.0184	330	1.018238		
	合計	337.933	333			
<脱女子教育> 因子得点	グループ間	6.042859	3	2.014286	2.5941	0.05255
	グループ内	256.2389	330	0.776481		
	合計	262.2817	333			
<公共性・ 社会性重視> 因子得点	グループ間	1.760856	3	0.586952	0.6082	0.61012
	グループ内	318.4968	330	0.965142		
	合計	320.2577	333			

ライフコース間で因子得点の平均点に統計的な有意差（5%水準）がみられたのは<脱女子教育>因子のみであった。「結婚・出産後退職」のライフコースを辿っているグループが、<脱女子教育>という考え方に最も否定的である。

表 2 1 職業キャリアによる大学教育観の差一因子得点の分散分析結果一

90年度入学世代

記述統計							
因子	ライフコース	度数	平均値	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
				下限	上限		
<知的生産 追体験重視> 因子得点	正規・事務営業販売他・転職なし	135	-0.175	-0.342	-0.01	-2.375	2.325
	正規・専門技術・転職なし	71	-0.185	-0.442	0.072	-3.147	2.057
	正規・事務…&専門技術・転職あり	41	0.1709	-0.176	0.518	-3.28	1.931
	非正規・専門技術	30	0.1539	-0.342	0.65	-3.602	2.223
	非正規・事務営業販売他	36	-0.48	-0.819	-0.14	-2.409	1.485
	合計	313	-0.136	-0.255	-0.02	-3.602	2.325
<実務実践 専門教育重視> 因子得点	正規・事務営業販売他・転職なし	135	-0.174	-0.339	-0.01	-2.98	1.921
	正規・専門技術・転職なし	71	0.265	0.049	0.481	-2.542	1.863
	正規・事務…&専門技術・転職あり	41	-0.241	-0.664	0.182	-3.197	2.232
	非正規・専門技術	30	-0.029	-0.392	0.333	-2.283	1.967
	非正規・事務営業販売他	36	0.2574	-0.024	0.538	-1.967	1.768
	合計	313	-0.02	-0.133	0.093	-3.197	2.232
<脱女子教育> 因子得点	正規・事務営業販売他・転職なし	135	-0.084	-0.232	0.064	-2.403	2.433
	正規・専門技術・転職なし	71	-0.01	-0.184	0.165	-1.628	1.511
	正規・事務…&専門技術・転職あり	41	0.1506	-0.129	0.43	-1.833	1.53
	非正規・専門技術	30	0.1489	-0.251	0.548	-1.653	1.728
	非正規・事務営業販売他	36	-0.115	-0.439	0.209	-2.699	1.418
	合計	313	-0.018	-0.115	0.08	-2.699	2.433
<公共性・ 社会性重視> 因子得点	正規・事務営業販売他・転職なし	135	0.055	-0.1	0.21	-3.174	1.889
	正規・専門技術・転職なし	71	-0.117	-0.373	0.14	-3.717	1.897
	正規・事務…&専門技術・転職あり	41	-0.191	-0.51	0.129	-3.627	1.49
	非正規・専門技術	30	0.1718	-0.202	0.545	-1.876	2.083
	非正規・事務営業販売他	36	-0.355	-0.675	-0.03	-3.749	1.085
	合計	313	-0.052	-0.161	0.057	-3.749	2.083

分散分析						
		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
<知的生産 追体験重視> 因子得点	グループ間	11.03145	4	2.757863	2.4553	0.04581
	グループ内	345.9529	308	1.123224		
	合計	356.9843	312			
<実務実践 専門教育重視> 因子得点	グループ間	13.73785	4	3.434462	3.4333	0.00916
	グループ内	308.1	308	1.000325		
	合計	321.8379	312			
<脱女子教育> 因子得点	グループ間	2.930607	4	0.732652	0.9561	0.43186
	グループ内	236.0088	308	0.766262		
	合計	238.9394	312			
<公共性・ 社会性重視> 因子得点	グループ間	7.434474	4	1.858619	1.9426	0.10325
	グループ内	294.6779	308	0.956746		
	合計	302.1124	312			

これに対して、職業キャリア間では、<実務実践専門教育重視>因子得点の平均点に 1%水準で統計的な有意差がみられ、<知的生産追体験重視>因子得点の平均点に 5%水準の有意差が、さらに、<公共性、社会性重視>因子得点の平均点に 10%水準で有意差がみられる。

①<実務実践専門教育重視>因子得点が最も高いのは「正規、専門技術、転職無し」グル

ープで、それに「非正規、事務営業販売職他」グループが続いている。

②<知的生産体験重視>因子得点が最も高いのは「正規、事務営業…&専門技術、転職有り」グループで、それに「非正規、専門技術」グループが続いている。

③<公共性・社会性重視>因子得点が最も高いのは、「非正規、専門技術」グループである。

## 2.01/02年度入学世代の大学教育観と職業キャリア

### (1) 大学教育観の因子分析

次表22は、01/02年度入学世代の大学教育観を因子分析した結果である。

表22 大学教育観の因子分析結果

#### 01/02年度入学世代

説明された分散の合計(a)									
因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	2.085	20.8499	20.85	2.085	20.8499	20.85	1.71646	17.1646	17.165
2	1.4938	14.9377	35.788	1.4938	14.9377	35.788	1.64368	16.4368	33.601
3	1.1726	11.7259	47.513	1.1726	11.7259	47.513	1.23382	12.3382	45.94
4	1.115	11.1495	58.663	1.115	11.1495	58.663	1.16364	11.6364	57.576
5	1.0479	10.4792	69.142	1.0479	10.4792	69.142	1.15662	11.5662	69.142
6	0.8763	8.76282	77.905						
7	0.6679	6.67855	84.584						
8	0.6296	6.29611	90.88						
9	0.5423	5.42253	96.302						
10	0.3698	3.69777	100						

因子抽出法: 主成分分析

#### 回転後因子負荷量

質問項目	因子				
	1	2	3	4	5
勉強よりサークル・友人関係が役立つ	-0.0613	0.0456	0.85402	0.22973	-0.029
実務的・応用的な教育を行うべき	0.2824	-0.041	-0.0355	0.15501	0.7436
論理的・体系的な考え方を訓練すべき	0.08719	0.7811	0.05839	0.0406	0.3572
人文社会科学の一般的教養を養うべき	-0.0258	0.7868	-0.0102	-0.1201	-0.172
発表や論文の表現技法を鍛えるべき	0.25764	0.5925	0.12503	0.18937	-0.301
家庭役割を重視した教育をすべき	0.03455	-0.043	-0.1728	-0.7803	-0.037
専門職として自立できる教育をすべき	0.82936	-0.018	0.14597	-0.041	0.2366
企業社会でキャリアを積める教育をすべき	0.73912	0.1845	-0.2155	-0.119	0.041
職業、家庭だけでなく社会活動を視野に	0.56116	0.0941	0.07846	0.25765	-0.539
特に女子を意識した教育の必要はない	-0.0898	-0.121	-0.6167	0.58635	0.0738

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a 7回の反復で回転が収束しました。

5つの因子で、10個の質問に対する回答者の態度のバラツキの69%を説明している。

①第1因子に因子負荷量の高いのは「専門職として自立できる教育をすべき」「企業社会でキャリアを積める教育をすべき」である。<専門キャリア教育重視>因子といえる。

②第2因子に対しては、「人文社会科学の一般的教養を養うべき」「論理的・体系的な考え

方を訓練すべき」「発表や論文の表現技法を鍛えるべき」などの因子負荷量が高く、＜知的生産追体験重視＞因子といえる。

③第3因子に対しては「勉強よりサークル・友人関係が役立つ」がプラスの高い因子負荷量を持ち、「特に女子を意識した教育の必要はない」がマイナスの高い因子得点を持っている。＜女性性・社交性重視＞因子といえる。

④第4因子に対しては、「家庭役割を重視した教育をすべき」がマイナスの因子負荷量が高いのに対して「特に女子を意識した教育の必要はない」がプラスの因子負荷量が高い。＜脱女子教育＞因子といえる。

⑤第5因子に対しては、「実務的・応用的な教育を行うべき」がプラスの高い因子負荷量を持つのにに対して、「職業・家庭だけでなく社会活動を視野に入れるべき」がマイナスの高い因子負荷量を持っている。＜功利主義教育＞因子といえる。

表22 (続)、各質問項目と対応する因子得点係数のリスト

因子得点係数行列					
基本モデル Y=A1X1+A2X2+A3X3+A4X4+A5X5+ ※因子得点X1…X5は、回答者個々人に 算出される	因子X1 ＜専門 キャリア 教育重 視＞因子	因子X2 ＜知的 生産追 体験重 視＞因子	因子X3 ＜女性性 社交性 重視＞ 因子	因子X4 ＜脱女子 教育＞ 因子	因子X5 ＜功利 主義教 育＞因 子
Y(各質問に対する回答者個々人の回答)	係数A1	係数A2	係数A3	係数A4	係数A5
勉強よりサークル・友人関係が役立つ	-0.0435	-0.046	0.7007	0.18032	0.046511
実務的・応用的な教育を行うべき	0.13298	-0.013	0.02938	0.12651	0.634198
論理的・体系的な考え方を訓練すべき	-0.0802	0.52013	0.00117	0.0264	0.369461
人文社会科学の一般的教養を養うべき	-0.1168	0.51055	-0.0945	-0.1059	-0.09613
発表や論文の表現技法を鍛えるべき	0.09017	0.31864	0.02094	0.15574	-0.23202
家庭役割を重視した教育をすべき	0.03893	-0.0153	-0.1263	-0.6677	-0.0464
専門職として自立できる教育をすべき	0.5005	-0.1278	0.14454	-0.0498	0.1693
企業社会でキャリアを積める教育をすべき	0.42783	0.03945	-0.19	-0.1082	-0.01168
職業、家庭だけでなく社会活動を視野に 特に女子を意識した教育の必要はない	0.36223	-0.065	0.01048	0.21577	-0.4996
	-0.0511	-0.0056	-0.5096	0.51879	0.011028
因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法 成分得点					

このリストから、次のことが予想できる。

②因子得点 X1 の得点が高いほど、「専門職として自立できる教育をすべき」「企業社会でキャリアを積める教育をすべき」「社会活動を視野に入れるべき」に肯定的な回答をする。

①因子得点 X2 の得点が高いほど、「論理的・体系的な考え方を訓練すべき」「人文社会科学の一般的教養を養うべき」「発表や論文の表現技法を鍛えるべき」等に肯定的である。

③因子得点 X3 の得点が高いほど、「勉強よりサークル・友人関係が役立つ」に肯定的な回答をし、「特に女子を意識した教育の必要はない」に対して否定的な回答をする。

④因子得点 X4 の得点が高いほど、「特に女子を意識した教育の必要はない」、「職業、家庭だけでなく社会活動を視野に入れるべき」に対して肯定的な回答をする。

⑤因子得点 X5 の得点が高いほど、「実務的・応用的な教育を行うべき」に肯定的な回答をする一方で、「職業、家庭だけでなく社会活動を視野に入れるべき」に対しては否定的な回答をする。

(2) 職業キャリアによる大学教育観の違い

表23 職業キャリアによる大学教育観の差一因子得点の分散分析結果一

01/02年度

<職業キャリア5類型名称>

職業キャリア1; 正規・事務営業販売他・転職なし キャリア2; 正規・専門技術・転職なし

職業キャリア3; 正規・事務営業販売他&専門技術・転職あり

職業キャリア4; 非正規・専門技術

キャリア5; 非正規・事務営業販売他

記述統計							
大学教育観 因子	職業キャリア	度数	平均値	平均値の95%		最小値	最大値
				信頼区間 下限	上限		
<専門キャリア 教育重視> 因子得点	職業キャリア1	135	-0.14062	-0.325261	0.044031	-4.32985	1.926061
	職業キャリア2	71	0.181828	-0.053808	0.417464	-2.86848	1.994007
	職業キャリア3	41	-0.20887	-0.649391	0.231659	-3.15919	1.889595
	職業キャリア4	30	0.280487	-0.032956	0.59393	-1.71967	1.43645
	職業キャリア5	36	0.048733	-0.202912	0.300378	-1.63488	1.702641
	合計	313	-0.01427	-0.132728	0.10418	-4.32985	1.994007
<知的生産 追体験重視> 因子得点	職業キャリア1	135	0.103012	-0.056381	0.262406	-2.11124	1.863648
	職業キャリア2	71	0.020069	-0.219356	0.259494	-2.49732	1.701811
	職業キャリア3	41	0.319429	0.025104	0.613753	-2.77948	1.625759
	職業キャリア4	30	0.14994	-0.299172	0.599051	-2.84105	1.56614
	職業キャリア5	36	-0.26172	-0.554833	0.031387	-2.11183	1.29548
	合計	313	0.075094	-0.033804	0.183991	-2.84105	1.863648
<女性性・ 社交性重視> 因子得点	職業キャリア1	135	-0.0246	-0.181121	0.131927	-2.33435	2.009977
	職業キャリア2	71	0.12215	-0.138509	0.382809	-2.34918	2.30584
	職業キャリア3	41	0.11207	-0.198895	0.423035	-1.96107	2.518541
	職業キャリア4	30	0.000328	-0.387257	0.387912	-2.09218	2.791472
	職業キャリア5	36	0.153912	-0.180568	0.488392	-1.88634	1.830158
	合計	313	0.049513	-0.060304	0.15933	-2.34918	2.791472
<脱女子 教育> 因子得点	職業キャリア1	135	-0.0512	-0.224112	0.121712	-2.70059	2.687325
	職業キャリア2	71	0.03864	-0.181875	0.259155	-2.02735	1.821553
	職業キャリア3	41	0.138669	-0.214894	0.492232	-2.65885	2.16433
	職業キャリア4	30	0.106717	-0.439032	0.652466	-3.00545	2.493754
	職業キャリア5	36	-0.14509	-0.486831	0.196643	-2.32485	1.727102
	合計	313	-0.00161	-0.119274	0.116047	-3.00545	2.687325
<功利主義 教育> 因子得点	職業キャリア1	135	-0.13169	-0.292632	0.029252	-2.72186	2.600126
	職業キャリア2	71	0.237143	-0.005077	0.479362	-2.85428	3.455429
	職業キャリア3	41	0.020489	-0.268191	0.30917	-1.7036	2.582031
	職業キャリア4	30	-0.24401	-0.686137	0.198118	-2.84537	2.680426
	職業キャリア5	36	0.414892	0.1025503	0.727233	-1.24649	2.32178
	合計	313	0.024009	-0.087061	0.135079	-2.85428	3.455429
分散分析							
		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
<専門キャリア 教育重視> 因子得点	グループ間	9.187	4	2.2968043	2.051962	0.08705	
	グループ内	344.8	308	1.1193209			
	合計	353.9	312				
<知的生産 追体験重視> 因子得点	グループ間	7.02	4	1.7549932	1.850449	0.119072	
	グループ内	292.1	308	0.9484147			
	合計	299.1	312				
<女性性・ 社交性重視> 因子得点	グループ間	1.741	4	0.4353672	0.443339	0.777236	
	グループ内	302.5	308	0.982018			
	合計	304.2	312				
<脱女子 教育> 因子得点	グループ間	2.347	4	0.5867554	0.521016	0.720354	
	グループ内	346.9	308	1.1261755			
	合計	349.2	312				
<功利主義 教育> 因子得点	グループ間	14.15	4	3.5384679	3.669136	0.006165	
	グループ内	297	308	0.9643871			
	合計	311.2	312				

表23によれば、職業キャリア5類型の因子得点の平均値に5%水準で有意な差がみられたのが<功利主義教育>因子得点、10%水準で有意な差がみられたのが<専門キャリア教育重視>得点であった。

①<功利主義教育>観が最も強かったのが、キャリア類型5「非正規・事務営業販売職他」グループであり、それに次いだのがキャリア類型2「正規・専門技術職、転職無し」グループであった。

②<専門キャリア教育重視>観が最も強かったのは、キャリア類型4「非正規・専門技術職」グループキャリア類型2「正規・専門技術、転職無し」グループで、それに次いだのがキャリア類型2「正規・専門技術、転職無し」グループであった。

10%の有意水準にあと一步で及ばないが、<知的生産追体験重視>因子得点において、キャリア類型3「正規・事務営業販売職他&専門技術職、転職有り」グループの平均点が最も高く、キャリアグループ5「非正規・事務営業販売職他」の平均点が最も低かったことは、注目される(有意水準12%)。

総じて、キャリア類型3のグループ(正規雇用で転職経験あり)は、大学に「知的生産追体験」を期待する他は、社会に出てからのキャリアに有用なものを期待していないのが、特徴である。これに対して、キャリア類型2やキャリア類型4のグループ(正規あるいは非正規の専門技術職)やキャリア類型5のグループ(非正規の事務営業販売職)は大学教育に対して専門性、実用性を期待している。

## まとめと今後の課題

### 1. 職業キャリアとライフコースの類型(本文I-2。より)

①卒業生の職業キャリアは以下の5類型がみられた。

- 1 = 「正規・事務営業販売職他・転職なし」類型(“OL”型)
- 2 = 「正規・専門技術職・転職なし」(“独占資格職”型)
- 3 = 「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」(“キャリア・アップ”型)
- 4 = 「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」(“非常勤資格職”型)
- 5 = 「非正規・事務営業販売職他」(“パート・バイト”型)

また、結婚、家族生活を含めたライフコースには以下の4類型がみられた。

- 1 = 「就職し、未婚、仕事継続」
- 2 = 「就職し、結婚・出産後退職」
- 3 = 「就職誌、結婚・出産後に退職、その後再就職」
- 4 = 「その他」

	90年度 入学世代	01/02年度 入学世代		90年度 入学世代	01/02年度 入学世代
キャリア1	36.8	50	コース1	27.2	91.6
キャリア2	11.8	32.5	コース2	26.5	0.6
キャリア3	21.3	6	コース3	10.3	0.6
キャリア4	11.8	7.2	コース4	36	7.2
キャリア5	18.4	4.2			

## 2. 職業キャリアと説明諸変数のクロス表分析結果（本文1-3.より）

### （1）職業キャリアと学科

90年度入学世代の間では、現社と文化、社福に“OL”的類型が多く、教育に“独占資格職”類型が多く、心理に“パート・バイト”類型が多かった。しかし、01/02年度入学世代の間では心理に“OL”的類型が増加し、社福に“独占資格職”類型が増加した結果、現社、心理、文化は“OL”的キャリア、教育、社福は“独占資格職”的キャリアという二分化が進んできている。

### （2）入学前の職業選択と学科、職業キャリア

#### 2-1）入学前職業選択と学科

5学科を「現社、心理、文化」と「社福、教育」に2分類し、選択肢を「はっきり希望があった」＋「大体の方向は決めていた」＝「考えていた」、「特に将来の職業は考えていなかった」＝「特に考えていなかった」に2分類して再集計すると、現社、心理、文化に比べて社福、教育に将来の職業を考えて入学する人が多い傾向があり、その差が90年度入学世代から01/02年度入学世代にかけて開いてきていることが分かる。

#### 2-2）入学前職業選択と職業キャリア

入学前の職業選択2分類と、卒業後の職業キャリアの関連をみると、左の表8が示すように、90年度入学世代のあいだでは統計的に有意な関連はみられなかったが、01/02年度入学世代になると、「特に考えてなかった」層に“OL”的キャリアタイプが多く、「考えていた」層に“資格職”キャリアタイプが多いという差が、統計的に有意な水準に達している。

### （3）就職活動と学科、職業キャリア

#### 3-1）就職活動と学科

90年度入学世代の場合には、就活開始&内定獲得時期に統計的に有意な差はなかった。だが01/02年度になると、現社、心理、文化で「3年開始&4年前期まで獲得」の比率が7～8割に達するのに社福、教育では3～4割にとどまり、逆に「4年開始&4年後期獲得」が3割に達するという差が、1%水準で統計的に有意である。

#### 3-2）就職活動と職業キャリア

この就活状況と卒業後の職業キャリアとの関連は、90年度入学世代では統計的に有意な関連はなかったが、01/02年度になると、「3年開始&4年前期まで獲得」層に“OL”的キャリア類型が82%、「4年開始4年後期獲得」層に“資格職”キャリア類型が53%という差が、1%水準で統計的に有意に達している。

### （4）学習、諸活動に対する評価の学科差

90年度入学世代、01/02年度入学世代ともに、学科間で評価に有意差の出るのは専門教育関連であったが、「大学時代に充実&職業生活に有用」という評価を受けていたのが90年度入学世代のあいだでは社会福祉学科だったのに対して、01/02年度入学世代のあいだでは教育学科へと、主役が交代している。

### （5）学習、諸活動に対する評価と職業キャリア

90年度入学世代に比べて01/02年度入学世代で、卒業後の職業キャリアと統計的に有意な関連を有する学習・諸活動が広がっている。そのなかでも、実験、実習、実技、資格取得、ダブルスクールなどは「正規・事務営業販売職&専門技術職・転職有り」と関連が深く、

専門科目やサークル・部活動は「正規・専門技術職・転職無し」と関連が深い。

#### (6) 勤務先の業種・規模と学科、職業キャリア

##### 6-1) 勤務先の業種・規模と学科

90年度入学世代では文化学科から「製造…商社金融…1000人以上」への就職(52.4%)、及び、教育学科から「教育公務」の就職(62.1%)が突出していたが、01/02年度では文化学科から「製造…商社金融…1000人以上」への就職が突出しなくなった(52.4%→37.5%)代わりに、教育学科から「教育公務」の就職が一層きわだって突出するようになった(62.1%→76.1%)。このことにより、学科と勤務先業種・規模の関連が90年度入学世代よりも01/02年度入学世代において強まり、学科を二分類しても、「現社、心理、文化」に「製造…商社金融…1000人以上」が「社福、教育」よりも多く(31%対10%)、「社福、教育」には「現社、心理、文化」よりも「教育、公務」が多い(52%対14%)という差が明確である。

##### 6-2) 勤務先の業種・規模と職業キャリア

90年度入学世代では各業種・規模類型の中で「転職有り」や「非正規」キャリア類型へのバラツキが結構大きかったが、01/02年度入学世代では業種・規模類型の全てにおいて「正規」キャリアへの集中化が進み、「製造…商社金融…1,000人以上」では“OL”型キャリアが72%から97%に増加し、「教育公務」では“独占資格職”型キャリアが31%から60%に増加している。

### 3. 職業キャリアのロジスティック回帰分析結果(本文I-4.より)

#### (1) 分析結果

職業キャリア1「正規、事務営業販売職他、転職無し」、キャリア2「正規、専門技術職、転職無し」など、いわゆる安定したキャリアについては、勤務先の業種・規模類型が大きな影響力を持っていた。90年度入学世代では、安定したキャリアを産む源泉は「教育、公務」=主、「民間大企業」=従であったが、01/02年度入学世代では「教育、公務」=従、「民間大企業」=主へと逆転した。

大学教育に関わる諸変数のうち「学科」は、90年度には卒業生のキャリアと統計的に有意な関連をまったく示さないが、01/02年度になると、「現社、心理、文化」がキャリア1の確率を高め、「社福、教育」がキャリア2の確率を高める効果を見せるようになる。

しかし、大学教育に関わる諸変数を「学科」と一括して同時に投入して分析すると、キャリア1に対する「現社、心理、文化」の影響力は統計的に有意なものでなくなり、「入学前の職業選択」や「就活」の影響力が有意になる。景気回復にともなう大卒就職の持ち直しという時代の雰囲気の中での「OL就職志向」の高まりこそが陰の主役であり、その受け皿になった度合いが、社福、教育に比べて現社、心理、文化がやや高かった結果、見かけの上で、現社、心理、文化がキャリア1の確率を高めていたにすぎなかった。

また、01/02年度には、学科ダミー2「社福、教育」がキャリア2「正規、専門技術職、転職無し」の確率を高める効果を、入学前職業選択ダミー1「考えていた」をはるかに上回って、示している。これは、教育や社会福祉分野の資格職に対する根強い人気に、両学科が受け皿となったことによるものであり、学科教育の中味じたいによる影響でないことは、専門科目や資格取得の充実度&有用度に関する諸変数が統計的に有意な影響力をまったく示さないから推察できる。

## (2) 職業キャリア分析の今後の課題

以上述べたように、正規雇用の安定したキャリアは、結局、民間大企業と独占資格労働市場の雇用動向によって左右されている。それに対して、大学側の教育努力に直接・間接に関係する諸変数は、影響力が小さいかもしくは皆無である。卒業生の安定キャリアの構造的収斂に対して、われわれの学部教育はほぼ無力であるといえる。

ましてや、転職や非正規就業を通しての主体的なライフコースの形成に、何らかの積極的な関与をすることは、本調査のきっかけとなった副専攻制度にとどまらず、近年の諸キャリア教育の夢であるが、本調査にとってはそれらのキャリア（キャリア類型3, 4, 5）は、調査者側の把握や構造化の及ばない臨床的拡散に留まっている。臨床的拡散のなかから何らかの規則性を見だし、それと大学教育プログラムの関わりをつかむことが、有効なキャリア教育の前提である。だが、そのためには、より大規模な量的調査だけでなく、卒業生の多様なキャリアとライフコースに対する丁寧な質的調査の蓄積が必要である。

### 4. ライフコースの規定要因分析の結果と今後の課題（本文I-5. より）

キャリア3（正規、事務営業販売&専門技術、転職有り）はライフコース1（未婚、仕事継続）の出現確率を高め、キャリア1（正規、事務営業販売職他、転職無し）はライフコース3（結婚出産退職、その後再就職）の確率を低め、キャリア2（正規、専門技術職、転職無し）はライフコース4（その他の類型）の確率を高める。

ライフコースが職業キャリアの影響を受けることは予想通りであるが、その他にライフコースは学科からも影響を受けている。ライフコース1（未婚、仕事継続）は学科ダミー1（現社、心理、文化）によって出現確率を高められるのに対して学科ダミー2（社福、教育）によって低められ、逆にライフコース4（その他の類型）は学科ダミー1（現社、心理、文化）によって出現確率を低められるのに対して学科ダミー2（社福、教育）によって確率を高められている。この効果がどの程度に学科独自のものであるかを確かめるのは、今後の課題である。

### 5. 90年度入学世代の大学教育観と職業キャリア、ライフコース（本文II-1. より）

大学教育の在り方に関する10個の質問を因子分析した結果、<知的生産追体験重視><実務実践専門教育重視><脱女子教育><公共性・社会性重視>の4因子が抽出され、回答者の態度のバラツキの62%を説明していた。

ライフコースと大学教育観の関連をみるために、因子得点の分散分析を行った。その結果、ライフコース間で因子得点の平均点に統計的な有意差（5%水準）がみられたのは<脱女子教育>因子のみであった。「結婚・出産後退職」のライフコースを辿っているグループが、<脱女子教育>という考え方に最も否定的であった。

職業キャリアと大学教育観の関連も、同様の方法で分析した。職業キャリア間では、<実務実践専門教育重視>因子得点の平均点に1%水準で統計的な有意差がみられ、<知的生産追体験重視>因子得点の平均点に5%水準の有意差が、さらに、<公共性・社会性重視>因子得点の平均点に10%水準で有意差がみられた。

<実務実践専門教育重視>因子得点が高いのは「正規、専門技術、転職無し」グループで、それに「非正規、事務営業販売職他」グループが続いていた。<知的生産追体験重視>因子得点が高いのは「正規、事務営業…&専門技術、転職有り」グループで、それに「非正規、専門技術」グループが続いていた。<公共性・社会性重視>因子得点が

最も高かったのは、「非正規、専門技術」グループであった。

#### 6. 01/02年度入学世代の大学教育観と職業キャリア（本文Ⅱ-2.より）

＜専門キャリア教育重視＞＜知的生産追体験重視＞＜女性性・社交性重視＞＜脱女子教育＞＜功利主義教育＞の5因子が抽出され、10個の質問に対する回答者の態度のバラツキの69%を説明している。職業キャリア5類型の因子得点の平均値に5%水準で有意な差がみられたのが＜功利主義教育＞因子得点、10%水準で有意な差がみられたのが＜専門キャリア教育重視＞得点であった。

総じて、キャリア類型3のグループ（正規雇用で転職経験あり）は、大学に「知的生産追体験」を期待する他は、社会に出てからのキャリアに有用なものを期待していないのが、特徴である。これに対して、キャリア類型2やキャリア類型4のグループ（正規あるいは非正規の専門技術職）やキャリア類型5のグループ（非正規の事務営業販売職）は大学教育に対して専門性、実用性を期待している。

#### 7. 大学教育観分析の今後の課題

大学教育観、とりわけそれと職業キャリアとの関連を分析することに期待したのは、卒業生の職業キャリアに対する綿密な質的調査の助けを得る迂回路を経由する前に、大学教育カリキュラムのレリバンス（職業キャリアへの適合性）を高めるデータを得ることであった。しかしながら、そこでの分析結果に対して、リアリティーに基づいた適切な解釈をするためには、やはり卒業生の職業キャリアの実態について、より綿密な調査と洞察が必要であるといえる。今後の課題としたい。

注：「人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査」の配布・回収状況

学科	入学年度	発送数	不着数	回答数	回収率
教育	90年	133	25	83	0.25
	01年	95	7		
	02年	99	0		
	学科別合計	327	32		
現社	90年	115	21	58	0.2
	01年	90	7		
	02年	91	0		
	学科別合計	296	28		
社福	90年	88	3	79	0.28
	01年	94	4		
	02年	99	3		
	学科別合計	281	10		
心理	90年	68	0	46	0.39
	01年	25	2		
	02年	25	1		
	学科別合計	118	3		
文化	90年	98	15	70	0.21
	01年	101	6		
	02年	132	1		
	学科別合計	331	22		
学科不明				5	
合計		1353	95	341	0.25

注 2

## ロジスティック回帰分析結果表の見方

### 1. 定数(参照変数or基準変数)のExp(B)の意味

「業種・規模ダミー4」×「職業キャリアダミー1」のクロス集計表		職業キャリアダミー1 (正規・事務販売営業職 他、転職なし)	
		該当=1	非該当=0
業種・規模ダミー4 (百貨店、小売り、飲食 店、他サービス)	該当=1	a	b
	非該当=0	c	d

「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」の人々の職業キャリア1のオッズ =  $a/b$   
 「それ以外」の人々の職業キャリア1のオッズ =  $c/d$   
 オッズ比  $R1 = (a/b) / (c/d) = ad/bc$

定数のExp(B)はこのオッズ比1に相当する。

※オッズ比1は「百貨店、小売り、飲食店、他サービス」が「職業キャリア1」を生む「効き目」といえる。

### 2. 方程式中の変数のEXP(B)の意味

「業種・規模ダミー1」×「職業キャリアダミー1」のクロス集計表		職業キャリアダミー1 (正規・事務販売営業職 他、転職なし)	
		該当=1	非該当=0
業種・規模ダミー1 (製造業、運輸、通信、 電気、商社、金融保険、 マスコミ等、千人以上)	該当=1	e	f
	非該当=0	g	h

「製造…商社、金融、保険…千人以上」の人々の職業キャリア1のオッズ =  $e/f$   
 「それ以外」の人々の職業キャリア1のオッズ =  $g/h$   
 オッズ比  $R2 = (e/f) / (g/h) = eh/gf$

「方程式中の変数」の列の「業種規模ダミー1」のEXP(B)はこの「オッズ比R2 / オッズ比R1」に相当する。

※回帰係数Bがプラスのとき⇒EXP(B) > 1.0 ⇒「効き目」が業種規模4より増す

※回帰係数Bがマイナスのとき⇒EXP(B) < 1.0 ⇒「効き目」が業種規模4より減る

#### IV. (補論) 卒業生による人間社会学部教育の評価

##### 1. 就職活動に際して卒業生が経験した人社の競争力

###### (1) 90年度入学世代が就職活動で経験した人社の競争力

調査票の質問10(3)は、「a. 出身大学の名前」～「1.ボランティア活動」の12項目のそれぞれが就職活動の際に有利に働いたかどうかを、「1.有利だった」～「5.不利だった」の5段階で聞いている。分析の基本枠組み(8頁)に収まらないが、学部構成員にとって興味あるトピックと思われるので、分析結果を補論として付加することとした。表24は回答選択肢のウエイト1～5を逆転させて、因子分析を実行した結果である。

表24 就職市場で卒業生が経験した人社の競争力の因子分析結果(90年度入学世代)

説明された分散の合計(a)									
成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	2.094403	19.04003	19.04003	2.094403	19.04003	19.04003	1.94249	17.659	17.659
2	1.893263	17.21148	36.25151	1.893263	17.21148	36.25151	1.815363	16.5033	34.1623
3	1.615909	14.69008	50.94159	1.615909	14.69008	50.94159	1.66364	15.124	49.2863
4	1.130057	10.27324	61.21483	1.130057	10.27324	61.21483	1.312139	11.92853	61.21483
5	0.995549	9.050443	70.26528						
6	0.773476	7.0316	77.29688						
7	0.691165	6.283315	83.58019						
8	0.571415	5.19468	88.77487						
9	0.47393	4.308454	93.08333						
10	0.419427	3.812975	96.8963						
11	0.341407	3.103698	100						

因子抽出法: 主成分分析  
a 分析フェーズに使用されるのは 入学世代二分類 = 90年度入学世代 に対するケースのみです。

回転後の成分行列(a,b)				
	成分			
	1	2	3	4
出身大学名	-0.11511	-0.29829	0.369364	0.684896
大学での専門分野	0.560971	0.356939	-0.25399	0.399262
大学の就職紹介	0.519277	-0.3841	0.527019	-0.12765
大学の所在地	0.640499	-0.03909	0.163308	0.097759
卒業生の存在	0.186397	0.007761	0.809094	0.214991
自分の性別	0.143905	0.08839	-0.02293	0.757999
大学で取得した免許状・資格	0.781835	0.182528	-0.06556	-0.00684
ダブルスクール	0.155401	-0.19536	-0.67825	0.023801
課外活動での実績	-0.44057	0.586971	0.190809	0.09181
アルバイト経験	0.214357	0.570012	-3.4E-05	-0.15653
ボランティア活動	0.061226	0.837324	0.048864	0.058878

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a 11回の反復で回転が収束しました。  
b 入学世代二分類 = 90年度入学世代 に対するケースのみです。

4つの因子が抽出され、回答者の反応の61%を説明している。第一因子に対しては「7. 大学で取得した免許状・資格」「4. 大学の所在地」が高い因子負荷量を持っている。<資格・立地条件因子>といえる。第二因子に対しては「11. ボランティア活動」「9. 課外活動での実績」「10. アルバイト経験」が高い因子負荷量を持っている。<社会活動経験

因子>といえる。第三因子に対しては「5. 卒業生の存在」「3. 大学の就職紹介」が高い因子負荷量を持っている。<卒業生ネット因子>といえる。第四因子に対しては「6. 自分の性別」「1. 出身大学名」が高い因子負荷量を持っている。<女子大ブランド因子>といえる。90年度卒業生の就職活動に対しては、

<資格・立地条件因子><社会活動経験因子><卒業生ネット因子><女子大ブランド因子>が、この順番でモノを言った、ということになる。<資格・立地条件>とは、川崎地区で類似の資格・免許を出す諸大学の中で、人間社会学部が獲得した競争力ということであり、<卒業生ネット>とは、新設の人間社会学部の卒業生が就活に当たって利用できた大学の就職課の助力や目白地区卒業生へのOG訪問ということである。

## (2) 就職活動で経験した入社競争力の学科による差異(90年度入学世代)

90年度入学世代が就職活動に際して経験した入社競争力について、学科による差がどのようにあったのか、その違いを見るために、4つの因子得点について学科による分散分析を行った。その結果は、次の通りである。

表25 就職市場で90年度入学世代が経験した入社競争力の学科差

記述統計		度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値
						下限	上限		
<資格・立地条件因子> 因子得点	現代社会学科	37	0.006379	1.282902	0.210908	-0.42136	0.43412	-2.94896	4.0354
	社会福祉学科	63	0.480848	1.122915	0.141474	0.198045	0.76365	-1.39234	2.593939
	教育学科	37	0.486689	1.297057	0.213235	0.054228	0.919149	-1.5508	3.518242
	心理学科	32	0.064985	0.627676	0.110959	-0.16132	0.291287	-1.3852	2.266012
	文化学科	54	-0.11326	0.738813	0.10054	-0.31491	0.0884	-2.47362	1.862573
	合計	223	0.199554	1.070522	0.071687	0.058279	0.340829	-2.94896	4.0354
<社会活動経験因子> 因子得点	現代社会学科	37	0.188128	1.228152	0.201907	-0.22136	0.597614	-1.14385	3.965864
	社会福祉学科	63	1.104631	1.60341	0.202011	0.700817	1.508444	-2.15095	4.907042
	教育学科	37	0.943918	1.706714	0.280582	0.374871	1.512965	-1.22498	4.674498
	心理学科	32	0.339737	0.956742	0.16913	-0.00521	0.684679	-0.92971	2.228683
	文化学科	54	0.351116	1.136979	0.154723	0.04078	0.661451	-1.21566	4.764425
	合計	223	0.633674	1.41963	0.095065	0.446328	0.82102	-2.15095	4.907042
<卒業生ネット因子> 因子得点	現代社会学科	37	0.394959	1.155538	0.189969	0.009684	0.780235	-1.23375	3.607168
	社会福祉学科	63	-0.11788	0.954741	0.120286	-0.35833	0.122566	-1.27156	3.451829
	教育学科	37	0.36746	1.135614	0.186694	-0.01117	0.746092	-1.42718	3.910108
	心理学科	32	-0.15332	0.983372	0.173837	-0.50786	0.201223	-2.14649	3.561459
	文化学科	54	0.326073	1.13568	0.154546	0.016091	0.636054	-1.44407	3.467242
	合計	223	0.150155	1.087304	0.072811	0.006665	0.293645	-2.14649	3.910108
<女子大ブランド因子> 因子得点	現代社会学科	37	-0.2123	1.167404	0.19192	-0.60153	0.176933	-3.30317	2.214781
	社会福祉学科	63	0.081718	0.768434	0.096814	-0.11181	0.275246	-1.61924	2.148742
	教育学科	37	0.09564	1.016183	0.167059	-0.24317	0.434452	-2.29552	2.467479
	心理学科	32	-0.18392	1.298842	0.229605	-0.6522	0.284365	-2.64812	2.31519
	文化学科	54	-0.07889	1.017342	0.138443	-0.35657	0.198793	-1.99859	2.106524
	合計	223	-0.04176	1.025473	0.068671	-0.17709	0.093566	-3.30317	2.467479

		平方	自由度	平均平方	F 値	有意確率
<資格・立地条件因子> 因子得点	グループ間	15.3	4	3.8199	3.482275	0.008826
	グループ内	239	218	1.096955		
	合計	254	222			
<社会活動経験因子> 因子得点	グループ間	32	4	7.988925	4.192028	0.002728
	グループ内	415	218	1.905742		
	合計	447	222			
<卒業生ネット因子> 因子得点	グループ間	13.1	4	3.277249	2.865253	0.024191
	グループ内	249	218	1.14379		
	合計	262	222			
<女子大ブランド因子> 因子得点	グループ間	3.46	4	0.864067	0.818993	0.514263
	グループ内	230	218	1.055036		
	合計	233	222			

<女子大ブランド得点>は5学科ともに平均点が著しく低くて学科間の平均点の差は5

%の統計的有意水準に達していない。つまり、90年度入学世代は5学科ともに、就職活動に際して「日本女子大学ブランド」が有利に働いたという実感をもっていない、ということである。他の3因子には学科間の差があり、社会福祉学科と教育学科の卒業生は<資格・立地条件><社会活動経験>が就職に有利にはたらいたという実感を強く持っているのに対して、現代社会学科、文化学科の卒業生は<卒業生ネット>が就職に有利に働いたという実感を強く持っている。教育学科の卒業生は<卒業生ネット>による有利経験も感じている点で、社会福祉学科卒業生と異なっている。

(3) 01/02年度入学世代が就職活動で経験した人社の競争力

調査票の質問10(3)に対する01/02年度入学世代の回答を同じようにして分析した結果は、以下の通りである。

表26 就職市場で卒業生が経験した人社の競争力の因子分析結果(01/02年度入学世代)

説明された分散の合計(a)									
成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	2.785166	23.20972	23.20972	2.785166	23.20972	23.20972	2.291899	19.09916	19.09916
2	1.865068	15.54224	38.75195	1.865068	15.54224	38.75195	2.152899	17.94082	37.03998
3	1.37715	11.47625	50.2282	1.37715	11.47625	50.2282	1.465119	12.20933	49.2493
4	1.106566	9.22138	59.44958	1.106566	9.22138	59.44958	1.224033	10.20027	59.44958
5	0.944168	7.868069	67.31765						
6	0.881976	7.349803	74.66745						
7	0.725018	6.041816	80.70927						
8	0.624128	5.201063	85.91033						
9	0.562075	4.683961	90.59429						
10	0.516123	4.301024	94.89532						
11	0.330052	2.750434	97.64575						
12	0.28251	2.354251	100						

因子抽出法: 主成分分析  
a 分析フェーズに使用されるのは 入学世代二分類 = 0102年度入学世代 に対するケースのみです。

回転後の成分行列(a,b)				
成分	成分			
	1	2	3	4
出身大学名	-0.04994	0.731993	-0.00392	0.09993
専門分野	0.84701	0.147306	0.021465	-0.012831
大学の就職紹介	-0.00313	0.638672	0.133304	-0.036995
大学の所在地	0.104556	0.412866	-0.46777	0.0256237
卒業生の存在	0.120723	0.628039	0.122154	-0.33382
自分の性別	0.253422	0.66103	0.006895	0.0984441
大学の免許状・資格	0.882562	0.148035	-0.08599	0.0334042
副専攻の証明書	0.29422	-0.15827	0.25174	0.6287881
ダブルスクール	-0.22939	0.104724	-0.11036	0.7438182
課外活動実績	0.266264	0.189355	0.696376	-0.099801
アルバイト経験	-0.11025	0.288001	0.659389	0.3148278
ボランティア経験	0.693605	-0.09433	0.458707	-0.178599

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス  
a 6回の反復で回転が収束しました。  
b. 入学世代二分類 = 0102年度入学世代 に対するケースのみです

<専門・資格因子><女子大ブランド因子><社会活動経験因子><ダブルスクール・副専攻>因子の4つが抽出された。90年度入学世代との違いは、<専門・資格因子>に

対する「大学の所在地」の因子負荷量が著しく低下したことである。学部発足時に周囲の諸大学との関係で、人間社会学部が新設大学として持っていた新味・競争力が薄れた結果であろう。また、90年度入学世代の場合には「卒業生の存在」と「大学の就職紹介」が一緒になって<卒業生ネット>因子を構成し、「自分の性別」と「出身大学名」が一緒になって<女子大ブランド因子>を構成していたのに対して、01/02年度入学生の場合は、その4つが一緒になって<女子大ブランド因子>を構成している。人間社会学部一期生（90年度入学世代）の場合には、まだ「日本女子大学」のブランドを就活に活かせるほど、周知度が高くなかったことの反映であろう。

#### (4) 就職活動で経験した人社競争力の学科による差異(01/02年度入学世代)

01/02年度入学世代が就職活動に際して経験した人社競争力について、学科による差がどのようにあったのか、その違いを見るために、4つの因子得点について学科による分散分析を行った。その結果は、次の通りである。

表27 就職市場で01/02年度入学世代が経験した人社競争力の学科差

記述統計		度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値
						下限	上限		
<専門・資格因子> 因子得点	現代社会学科	17	-0.45201	0.5369112	0.13022	-0.72806	-0.17596	-1.32442	0.944474
	社会福祉学科	37	0.635228	1.1089602	0.182312	0.265482	1.004974	-1.7767	2.847064
	教育学科	21	0.365218	1.0892664	0.237697	-0.13061	0.861046	-1.00626	2.23939
	心理学科	11	-0.46485	0.6521072	0.196618	-0.90294	-0.02676	-1.17998	0.860045
	文化学科	31	-0.57956	0.4461422	0.08013	-0.7432	-0.41591	-1.71644	0.434023
	合計	117	0.003498	1.0035759	0.092781	-0.18027	0.187261	-1.7767	2.847064
<女子大ブランド因子> 因子得点	現代社会学科	17	0.079335	0.8958431	0.217274	-0.38126	0.539935	-1.37895	2.054157
	社会福祉学科	37	-0.23247	0.7319227	0.120327	-0.4765	0.011568	-2.0275	1.609977
	教育学科	21	0.39073	1.3455815	0.29363	-0.22177	1.003231	-1.28687	3.490576
	心理学科	11	-0.38234	1.0909891	0.328946	-1.11528	0.350595	-2.17089	1.159703
	文化学科	31	0.11127	0.9902272	0.17785	-0.25195	0.474488	-2.63529	2.003911
	合計	117	0.001678	1.0041342	0.092832	-0.18219	0.185544	-2.63529	3.490576
<社会活動経験因子> 因子得点	現代社会学科	17	0.182595	1.0971048	0.266087	-0.38148	0.746675	-1.25116	2.215359
	社会福祉学科	37	-0.17813	1.0440517	0.171641	-0.52623	0.169978	-1.94702	3.380069
	教育学科	21	0.098168	0.9277314	0.202448	-0.32413	0.520466	-1.16814	2.097385
	心理学科	11	-0.03769	0.748231	0.2256	-0.54036	0.464979	-0.81775	1.492035
	文化学科	31	0.038173	1.0528275	0.189093	-0.34801	0.424353	-1.81898	2.724041
	合計	117	-0.00561	1.0024352	0.092675	-0.18916	0.177946	-1.94702	3.380069
<二重学校・副専攻因子> 因子得点	現代社会学科	17	0.169438	0.9524004	0.230991	-0.32024	0.659118	-2.06581	2.605669
	社会福祉学科	37	-0.06773	1.1746377	0.193109	-0.45937	0.323914	-3.17499	4.570791
	教育学科	21	-0.15335	0.8325872	0.181685	-0.53234	0.225638	-3.50078	0.73881
	心理学科	11	0.379121	0.5449658	0.164313	0.013008	0.745234	-0.37429	1.173086
	文化学科	31	-0.04341	1.0518177	0.188912	-0.42922	0.342401	-3.73139	2.417827
	合計	117	-0.00018	1.0042991	0.092847	-0.18408	0.183715	-3.73139	4.570791

分散分析		平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
<専門・資格因子> 因子得点	グループ間	34	4	8.4981095	11.48966	7.51E-08
	グループ内	82.8	112	0.7396309		
	合計	117	116			
<女子大ブランド因子> 因子得点	グループ間	7.3	4	1.8260277	1.865044	0.121521
	グループ内	110	112	0.9790805		
	合計	117	116			
<社会活動経験因子> 因子得点	グループ間	2	4	0.5000661	0.488868	0.743887
	グループ内	115	112	1.0229052		
	合計	117	116			
<二重学校・副専攻因子> 因子得点	グループ間	2.79	4	0.6977766	0.684284	0.604287
	グループ内	114	112	1.0197182		
	合計	117	116			

有意差があったのは<専門・資格因子>のみで、社会福祉学科、教育学科の順に因子得

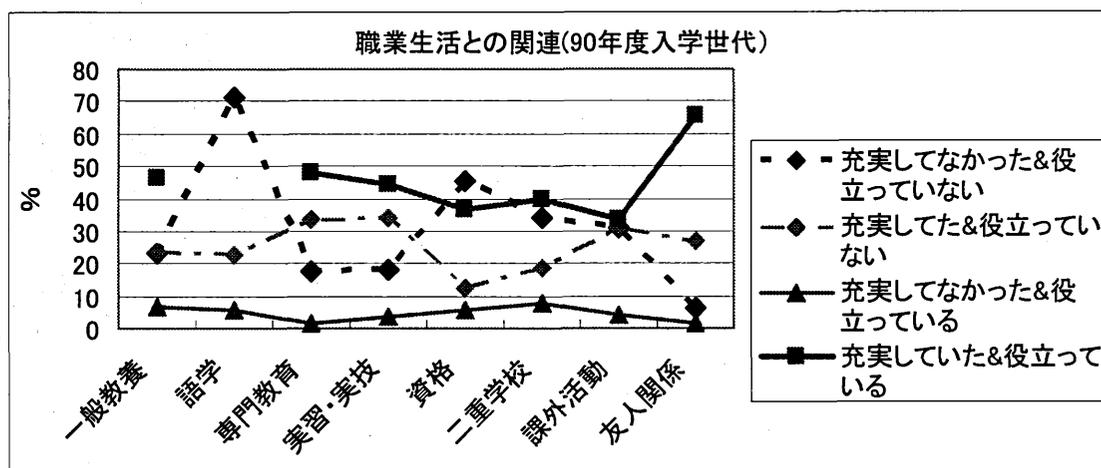
点の平均点が高かった。つまり、社会福祉学科、教育学科の順に、専門・資格が有利に働いたという印象が強かったということである。その他の3つの因子については、〈女子大ブランド因子〉については教育学科卒業生が、〈社会活動経験因子〉〈ダブルスクール・副専攻因子〉については現代社会学科卒業生が、それぞれ有利に働いたとする印象がやや強いが、他学科との差は統計的に有意な水準に達していない。

## 2. 学部での学習・諸活動の充実度と職業生活や社会活動に対する有効性

調査票 Q 9. は、大学時代の学習・諸活動 9 項目について、大学時代に「充実していた」か「有実していなかった」か、卒業後の職業生活や社会活動に「役立っている」か「役立っていない」かを聞いている。このうち、大学時代の充実度×職業生活への有効性については、I-3.(4)で評価の学科差を扱った。しかし、そこでは、充実度や有効性に対する卒業生の評価が、90年度入学世代から01/02年度入学世代にかけてどのように推移してきたのか、全体を概観する作業は行っていなかった。そこで、ここではその作業結果を補論として付け加えておくことにする。

表 28 学部の学習・諸活動の充実度と職業生活への有効性(90年度入学世代)

		90年度入学世代							
職業生活との関連		一般教養	語学	専門教育	実習・実技	資格	二重学校	課外活動	友人関係
充実しなかった &役立っていない	度数	32	96	24	24	41	22	37	8
	%	23.18841	71.111111	17.3913	18.04511	45.55556	33.84615	31.09244	6.015038
充実していた &役立っていない	度数	33	31	46	45	11	12	37	36
	%	23.91304	22.96296	33.33333	33.83459	12.22222	18.46154	31.09244	27.06767
充実しなかった &役立っている	度数	9	8	2	5	5	5	5	2
	%	6.521739	5.925926	1.449275	3.759398	5.555556	7.692308	4.201681	1.503759
充実していた &役立っている	度数	64		66	59	33	26	40	87
	%	46.37681		47.82609	44.3609	36.66667	40	33.61345	65.41353
計	度数	138	135	138	133	90	65	119	133
	%	100	100	100	100	100	100	100	100



### (1) 学部時代の充実度と職業生活への有効性 (90年度入学世代)

上の表 28 は 90 年度入学世代による評価の結果である。「語学」が「充実していなかった&役立っていない」が 71% で最悪の評価、「友人関係」が「充実していた&役立っている」が 65% で最良の評価を得ている。「友人関係」に次いで評価が高かったのが、「専門

教育」「一般教養」「実技・実習」で、「充実していた&役立っている」が45%前後である。

「資格取得」は「充実してなかった&役立っていない」が46%で、一見すると「語学」に次いで悪い評価だが、しかし同時に、「充実していた&役立っている」も37%で、学科差が大きいことを反映している。

### (2) 学部時代の充実度と職業生活への有効性 (01/02年度入学世代)

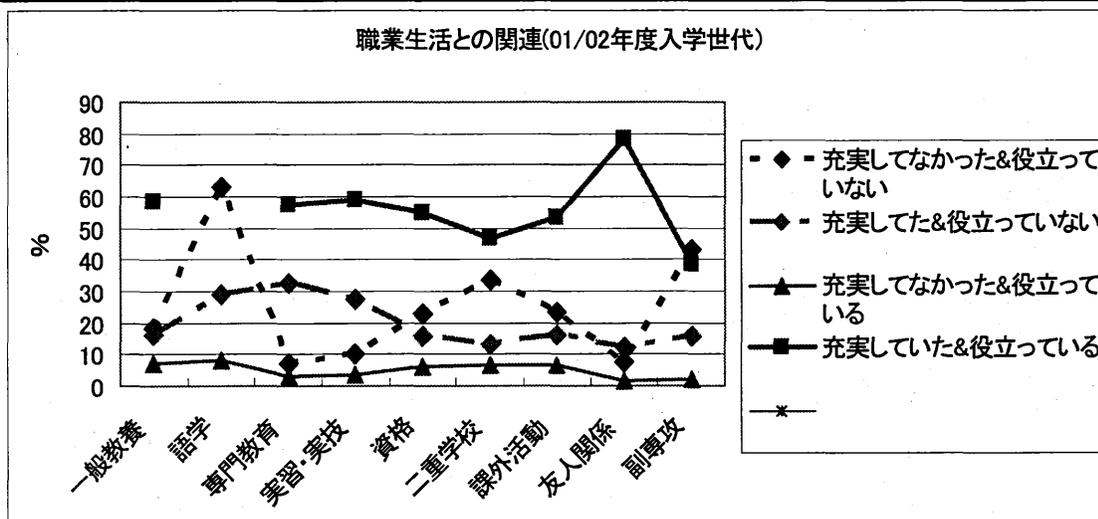
表29は01/02年度入学世代による評価である。「語学」が最悪で、「友人関係」が最良という結果は90年度入学世代による評価と変わらない。違いは、以下の諸点である。

①「一般教養」「専門教育」「実技・実習」に対する「充実していた&役立っている」という評価は何れも60%弱で、90年度入学世代の45%前後よりも上昇している。

②「資格取得」が「充実していた&役立っている」という評価は90年度入学世代の37%から55%に大幅に上昇し、その結果、「充実してなかった&役立っていない」23%を大きく引き離して、90年度入学世代の場合と逆転している。

表29 学部の学習・諸活動の充実度と職業生活への有効性 (01/02年度入学世代)

		01/02年度入学世代								
職業生活との関連		一般教養	語学	専門教育	実習・実技	資格	二重学校	課外活動	友人関係	副専攻
充実してなかった&役立っていない	度数	29	100	12	17	33	31	26	13	19
	%	18.23899	62.89308	7.317073	10.30303	22.91667	33.69565	23.63636	7.647059	43.18182
充実した&役立っていない	度数	26	46	53	45	23	12	18	21	7
	%	16.3522	28.93082	32.31707	27.27273	15.97222	13.04348	16.36364	12.35294	15.90909
充実してなかった&役立っている	度数	11	13	5	6	9	6	7	3	1
	%	6.918239	8.176101	3.04878	3.636364	6.25	6.521739	6.363636	1.764706	2.272727
充実していた&役立っている	度数	93		94	97	79	43	59	133	17
	%	58.49057		57.31707	58.78788	54.86111	46.73913	53.63636	78.23529	38.63636
計	度数	159	159	164	165	144	92	110	170	44
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100



### (3) 学部時代の充実度と社会活動との関連 (90年度入学世代)

表30は学習・諸活動の学部時代の充実度と卒業後の社会活動への有効性に対する90年度入学世代による評価の結果である。職業生活の場合と比べて、「語学」が最悪で「友人関係」が最良という結果は変わらない。違うのは以下の諸点である。

①「語学」が「充実してなかった&(職業生活に)役立っていない」は71%だが、「充実してなかった&(社会活動に)役立っていない」は56%に低下している。同じ学歴水準、

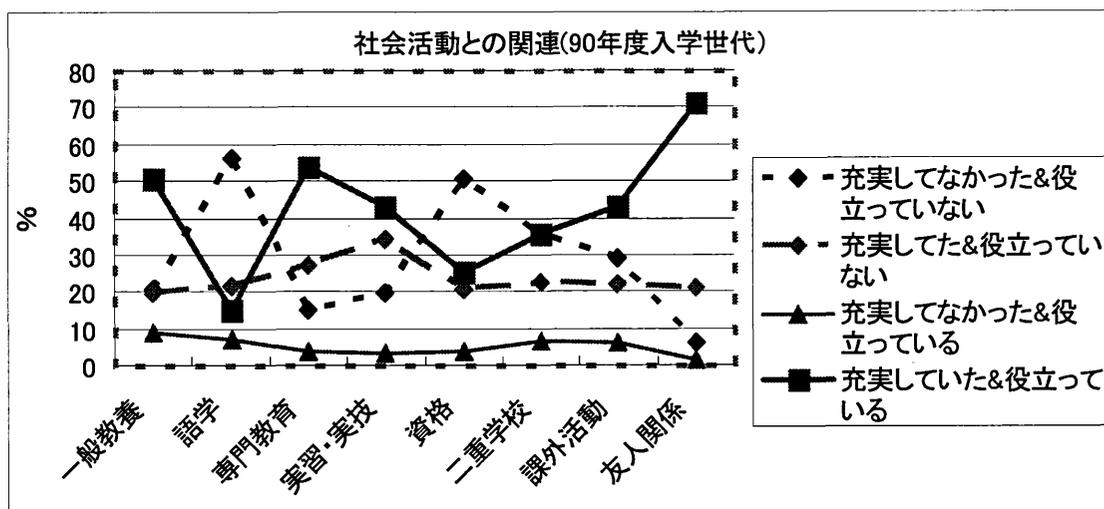
知的水準の人間で構成される職場集団の中では「役立っていない」という厳しい評価になるが、違う学歴水準・知的水準の人間で構成される社会活動集団の中では、やや評価の厳しさがやわらぐということであろう。

②「一般教養」「専門教育」に対して「充実していた&役立っている」という評価が51%、53%であり、職業生活の場合と比べて4、5%多い。大学時代の「一般教養」や「専門教育」は職業生活より社会活動に対して、心持ちお役立ち度合いが高い、という評価である。「語学」の場合と同じ理由によるものであろう。

③これに対して「資格取得」に対する評価は職業生活の場合に比べて厳しくなっている。「充実していた&(職業生活に)役立っている」37%に対して、「充実していた&(社会生活に)役立っている」は25%、「充実していなかった&(職業生活に)役立っていない」46%に対して、「充実していなかった&(社会生活に)役立っていない」は51%である。職場集団と社会活動集団の学歴水準・知的水準の効果(平たく言えば、「大卒学歴」の後光)が、「語学」や「一般教養」「専門教育」の場合にはあるのに対して、「資格」の場合にはそれが効かない、という違いであろう。

表30 学部の学習・諸活動の充実度と社会活動への有効性(90年度入学世代)

社会活動との関連		90年度入学世代							
		一般教養	語学	専門教育	実習・実技	資格	二重学校	課外活動	友人関係
充実しなかった &役立っていない	度数	27	70	19	24	42	22	33	8
	%	20.45455	56	14.84375	19.5122	50.60241	35.48387	28.94737	6.060606
充実した &役立っている	度数	26	27	35	42	17	14	25	28
	%	19.69697	21.6	27.34375	34.14634	20.48193	22.58065	21.92982	21.21212
充実しなかった &役立っている	度数	12	9	5	4	3	4	7	2
	%	9.090909	7.2	3.90625	3.252033	3.614458	6.451613	6.140351	1.515152
充実していた &役立っている	度数	67	19	69	53	21	22	49	94
	%	50.75758	15.2	53.90625	43.08943	25.3012	35.48387	42.98246	71.21212
計	度数	132	125	128	123	83	62	114	132
	%	100	100	100	100	100	100	100	100



(4) 学部時代の充実度と社会活動との関連(01/02年度入学世代)

同じことを01/02年度入学世代についてみたのが表31である。語学が「最悪」で、友人関係が「最良」というパターン自体は変わらないが、職業生活に対する有効性の評価の場合と比べて、次のような違いがみられる。

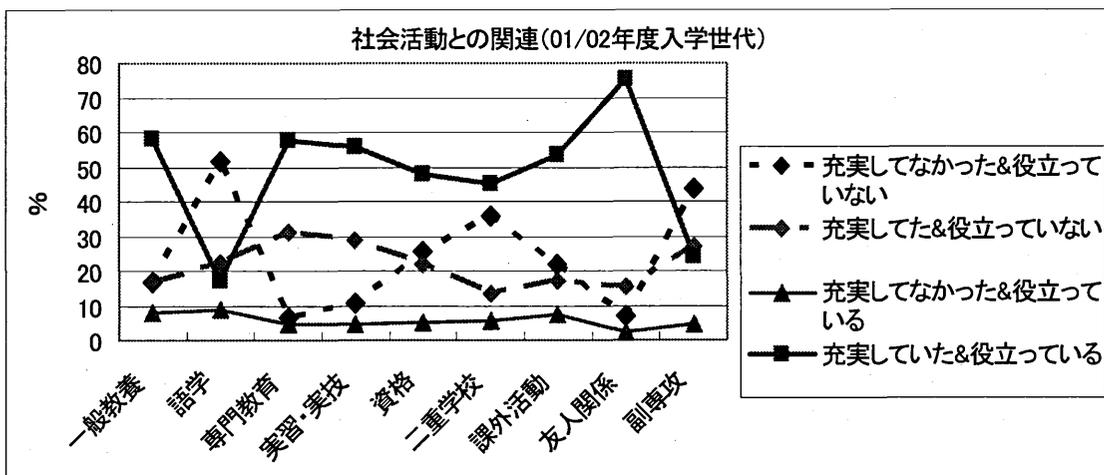
①「語学」が「充実してなかった&(職業生活に)役立っていない」は63%だが、「充実してなかった&(社会活動に)役立っていない」は52%に低下している。90年度入学世代の場合と、同じく大卒学歴の後光効果による変化であろう。

②しかし、「一般教養」「専門教育」「実習・実技」については、「大卒学歴」の後光効果が飽和に達しているとみられる。3項目ともに、「充実してなかった&役立っていない」は対社会活動の場合それぞれ17%、7%、11%、対職業生活の場合18%、7%、10%で差がなく、「充実していた&役立っている」は対社会活動の場合58%、58%、56%、対職業生活の場合58%、57%、59%で差がない。

③「資格」については、「充実してなかった&役立っていない」が90年度51%→01/02年度25%、「充実していた&役立っている」が90年度25%→01/02年度48%と、評価は大幅に上昇している。しかし、社会活動に対して「一般教養」「専門教育」「実習・実技」が「充実していた&役立っている」のは58%、58%、56%である。「一般教養」や「専門教育」が、学歴・知的水準の多様な集団の中で社会活動をする祭に発揮する「大卒後光効果」が逡減してきたのに比べて、「大卒専門資格」は職業生活への有効性が高まっただけでなく、「大卒後光効果」も今後まだ上昇する余地があると思われる。

表31 学部の学習・諸活動の充実度と社会活動への有効性 (01/02年度入学世代)

社会生活との関連		01/02年度入学世代									
		一般教養	語学	専門教育	実習・実技	資格	二重学校	課外活動	友人関係	副専攻	
充実してなかった &役立っていない	度数	25	76	10	17	35	32	23	11	18	
	%	16.89189	51.70068	6.535948	10.89744	25.36232	35.95506	21.90476	6.790123	43.90244	
充実していた &役立っていない	度数	25	33	48	45	30	12	18	25	11	
	%	16.89189	22.44898	31.37255	28.84615	21.73913	13.48315	17.14286	15.4321	26.82927	
充実してなかった &役立っている	度数	12	13	7	7	7	5	8	4	2	
	%	8.108108	8.843537	4.575163	4.487179	5.072464	5.617978	7.619048	2.469136	4.878049	
充実していた &役立っている	度数	86	25	88	87	66	40	56	122	10	
	%	58.10811	17.0068	57.51634	55.76923	47.82609	44.94382	53.33333	75.30864	24.39024	
計	度数	148	147	153	156	138	89	105	162	41	
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	





## 第二部 調査票および基礎集計表



# 人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査

日本女子大学人間社会学部

学部長 岩田正美

この調査は、人間社会学部を卒業された方々のその後の職業・家庭・社会生活や学習活動との関連で学部教育をどのように評価されておられるかを把握し、学部教育、とりわけ学科を超えてキャリア形成に貢献することを目的とする副専攻制度の今後のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的としています。お答えはすべてコンピューターで統計処理し分析されます。個人が特定されたり、外部の誰かに知られたりすることはありません。どうぞ、ありのままにご回答下さい。なお、以下で大学とあるのはすべて大学院を含みます。

Q 1. ご卒業の学科、卒業年、現在の年齢について伺います。

(                      ) 学科、西暦  年卒、満  歳

Q 2. あなたが大学を卒業されてから現在までの生き方は、次のうちのどれにあてはまりますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. 就職も結婚もしていない。
2. 就職せずに結婚した。
3. 就職し、結婚せずに仕事を続けている。
4. 就職し、結婚や出産を機に退職した。
5. 就職し、結婚や出産を機に退職し、その後再び就業した。
6. その他、当てはまらない

これまでの仕事の経験や社会的活動についてうかがいます。

Q 3. 現在なさっている仕事（または最後にしていた仕事）について、ご記入下さい。

(1) 入職した時期                      西暦  年  月

それは大学卒業後最初に就いた仕事と同じですか。

1. 同じ
2. 違う     →  度目の仕事

(2) 最後にしていた仕事についてのお答えの場合

退職した時期                      西暦  年  月

(3) 勤務先の業種（あてはまる番号一つに○）

- |                |                |             |
|----------------|----------------|-------------|
| 1. 製造業・建設業     | 5. 運輸・通信・電気・ガス | 9. その他のサービス |
| 2. 商社・卸売       | 6. マスコミ・広告・調査  | 10. 公務      |
| 3. 百貨店・小売店、飲食店 | 7. ソフトウェア・情報処理 | 11. その他     |
| 4. 金融・保険業      | 8. 教育          |             |

(4) 勤務先の規模 (あてはまる番号一つに○)

- |            |              |            |
|------------|--------------|------------|
| 1.29人以下    | 4.500～999人   | 7.官庁(国家公務) |
| 2.30～99人   | 5.1000～4999人 | 8.地方自治体    |
| 3.100～499人 | 6.5000人以上    | 9.その他      |

(5) 勤務の形態 (あてはまる番号一つに○)

- |            |                |         |
|------------|----------------|---------|
| 1.一般社員・職員  | 4.経営者・役員・自営業主  | 7.派遣・請負 |
| 2.係長・主任など  | 5.家族従業者        | 8.その他   |
| 3.課長以上の管理職 | 6.パート、アルバイト、臨時 |         |

(6) そこでのあなたの主な仕事 (あてはまる番号一つに○)

事務	11.経理・財務	技術	21.開発・設計	営業	41.営業(法人相手)	
	12.人事・総務		22.生産技術		販売	42.営業(個人相手)
	13.教育・研修		23.情報処理			43.店頭販売
	14.企画・調査・広報		24.サービスエンジニア		そ	50.保安・サービス職
	15.仕入・商品管理		29.その他の技術職		の	60.運輸・通信の職業
	16.工程・資材管理		専門		他	70.製造の職業・技能職
	17.事務補助・一般職		31.教員			99.その他
	19.その他の事務職		32.研究職			
			39.その他の専門職			

Q 4. 上の質問でお答えいただいた仕事も含めて、あなたがこれまでに経験したすべての仕事の番号を上での質問(6)の欄内から選んで、いくつでも下のカッコ内ご記入下さい。

- a. 正規の職員として → ( )
- b. パート・アルバイトとして → ( )
- c. 派遣・契約社員として → ( )
- d. その他
- 家業手伝いとして → ( )
  - 自営業主として → ( )
  - その他として → ( )

Q 5. これまでのあなたの職業キャリアの形成について、あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. いわゆる出世コースの業務を経験してきた
2. 昇進の可能性が限定された業務を経験してきた
3. 大学時代の専門知識・技術を生かせる業務を経験してきた
4. 特に大学での知識や技術を必要としない業務を経験してきた
5. 転職しながら、自分の専門・得意分野を形成してきた
6. 特にキャリア形成に結びつかない転職を経験してきた
7. 先の見通しなく離職した経験がある
8. 一ヶ月以上の無業経験がある
9. パートやアルバイトだけで生活していた時期がある

Q 6. あなたのこれまでの経験からして、職業キャリアの形成には、どのような能力や技能が必要ですか。あてはまる a.~ i.にいくつでも○をつけて下さい。また、○をつけたそれぞれの能力・技能は、どの段階で身につくものかについてもお答え下さい（○はいくつでも）。

	大学 以前	大学・ 大学院	職場で の経験	職場で の研修	職場外 の講座	職場外 の交流
a.商品や事業についての知識	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
b.経理・法律等の実務的知識	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
c.人文社会科学の理論的な知識	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
d.幅広い教養	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
e.データ処理、事務処理の技能	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
f.英語などの語学力	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
g.企画・アイデアなどの創造力	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
h.情報収集力、ネットワーク	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----
i.対人関係の能力・説得力	1.-----	2.-----	3.-----	4.-----	5.-----	6.-----

SQ。 上に挙げた a.~ i.の能力・技能で、あなたがこれから身につけたい  
 と思っているもの（いくつでも） → （ ）

Q 7. 下に職業以外の8種類の社会的活動を挙げてあります。それぞれについて当てはまる番号にいくつでも○をつけて下さい。

	過去に 経験あり	現在 している	将来 したい
a.趣味や資格を生かした活動	1.-----	2.-----	3.-----
b.社会的に承認された活動（調停委員、民生委員）	1.-----	2.-----	3.-----
c.各種地域社会活動（PTA、自治会、町内会）	1.-----	2.-----	3.-----
d.ボランティア活動（社会福祉、環境保護など）	1.-----	2.-----	3.-----
e.宗教活動	1.-----	2.-----	3.-----
f.大学開放講座・市民講座への参加	1.-----	2.-----	3.-----
g.市民運動・住民運動	1.-----	2.-----	3.-----
h. NPO,NGO	1.-----	2.-----	3.-----
i. その他（→ご記入下さい）	1.-----	2.-----	3.-----

大学での教育についてうかがいます

Q 8. 学部、学科の選択をしたとき、将来の職業についてはどの程度考えていましたか。  
 あてはまる番号一つに○をつけて下さい。

- 1.はっきりした希望があった
- 2.だいたいの方向は決めていた
- 3.特に将来の職業は考えていなかった

Q 9。あなたの大学時代は、つぎのような学習・経験は充実したものでしたか。また、これまでの職業生活や社会活動には役立っていますか。それぞれについて、あてはまる番号一つに○をつけて下さい。

	大学時代			職業生活に		社会活動に	
	充実 して いた	充実 してな かった	経験 がな かった	役立 って いる	役立 って いない	役立 って いる	役立 って いない
a.一般教養的な科目の学習	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
b.語学の学習	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
c.専門科目の学習	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
d.実験、実習、卒論の経験	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
e.資格取得の準備や学習	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
f.大学外での語学・資格取得	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
g.サークル・部の活動	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
h.友人関係	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.
i.副専攻での学習	1.-----	2.-----	3.	1.-----	2.	1.-----	2.

Q 10。大学卒業前の就職活動をした方にうかがいます。

(1) 活動の時期

就職活動を始めたのは  年生の  月頃  
 実際に就職した会社の内定は  年生の  月頃

(2) 活動の量

応募した会社は  社  
 訪問した会社は  社  
 内定をもらったのは  社

(3) 就職活動で、次の点は有利に働きましたか、あるいはハンディになりましたか。

	有利 だった	やや有利 だった	無関係 だった	やや不利 だった	不利 だった				
a.出身大学の名前	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
b.大学での専門分野	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
c.大学の就職紹介	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
d.大学の所在地	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
e.卒業生の存在	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
f.自分の性別	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
g.大学で取得した免許状・資格	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
h.副専攻の証明書	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
i.ダブルスクールで得た免許・資格	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
j.課外活動での実績	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
k.アルバイト経験	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
l.ボランティア経験	1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5



Q 14。あなたは今、お仕事やご家庭・地域での生活の上で悩んでおられることがありますでしょうか。また、その解決のためにどんな学習や活動をなさっているでしょうか。下の余白に自由にご記入下さい。

Q 15。最後に、これまでのお仕事やご家庭・地域での生活の経験を踏まえて、人間社会学部の教育に何かお気づきの点やご注文がありましたら、お聞かせ下さい。下の余白に自由にご記入下さい。

これで終わりです。ご協力どうも有り難うございました。  
記入し終わった質問紙は同封の封筒に入れ、切手を貼らずに3月末日までにご投函下さい。

# 人間社会学部の教育と卒業後のキャリアに関する調査基礎集計表

a=90年度入学世代、b=01/02年度入学世代

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q2. 大学を卒業してから現在までの生き方												
就職も結婚もしていない	度数 %	0 0	1 3.704	0 0	1 2.222	0 0	1 2.128	0 0	1 7.143	0 0	2 4.545	6 1.858
就職せずに結婚	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.222	1 3.125	0 0	1 3.571	0 0	0 0	0 0	3 0.929
就職し、結婚せず 仕事継続	度数 %	10 34.48	24 88.89	5 15.15	38 84.44	6 18.75	42 89.36	8 28.57	11 78.57	9 37.5	39 88.64	192 59.44
就職し、結婚・出産 退職	度数 %	9 31.03	0 0	8 24.24	1 2.222	6 18.75	0 0	9 32.14	0 0	8 33.33	0 0	41 12.69
就職し、結婚・出産 退職、後再就業	度数 %	4 13.79	0 0	5 15.15	0 0	1 3.125	0 0	2 7.143	0 0	3 12.5	1 2.273	16 4.954
その他、 当てはまらない	度数 %	6 20.69	2 7.407	15 45.45	4 8.889	18 56.25	4 8.511	8 28.57	2 14.29	4 16.67	2 4.545	65 20.12
合計	度数 %	29 100	27 100	33 100	45 100	32 100	47 100	28 100	14 100	24 100	44 100	323 100
Q3(1). 現在の仕事は卒業後の最初の仕事と同じか？												
現職は初職と同じ	度数 %	12 42.86	21 80.77	17 51.52	37 88.1	16 53.33	42 93.33	14 53.85	11 91.67	13 56.52	37 88.1	220 71.66
現職は初職と違う	度数 %	16 57.14	5 19.23	16 48.48	5 11.9	14 46.67	3 6.667	12 46.15	1 8.333	10 43.48	5 11.9	87 28.34
合計	度数 %	28 100	26 100	33 100	42 100	30 100	45 100	26 100	12 100	23 100	42 100	307 100
Q3(2). それは何度目の仕事か？												
現職は2度目の 仕事	度数 %	6 37.5	3 75	6 37.5	5 100	5 35.71	3 100	9 75	0 0	3 33.33	4 80	44 51.76
現職は3度目の 仕事	度数 %	7 43.75	0 0	6 37.5	0 0	5 35.71	0 0	2 16.67	0 0	4 44.44	1 20	25 29.41
現職は4度目以上 の仕事	度数 %	3 18.75	1 25	4 25	0 0	4 28.57	0 0	1 8.333	1 100	2 22.22	0 0	16 18.82
合計	度数 %	16 100	4 100	16 100	5 100	14 100	3 100	12 100	1 100	9 100	5 100	85 100
Q3(3). 勤務先の業種												
製造業・建設業	度数 %	3 10.34	1 3.704	1 3.333	3 7.317	0 0	1 2.174	0 0	1 8.333	3 12.5	4 9.524	17 5.502
商社・卸売	度数 %	2 6.897	0 0	3 10	0 0	1 3.226	1 2.174	0 0	0 0	3 12.5	5 11.9	15 4.854
百貨店・小売店、 飲食店	度数 %	1 3.448	3 11.11	1 3.333	2 4.878	0 0	1 2.174	2 7.407	3 25	0 0	3 7.143	16 5.178
金融・保険業	度数 %	5 17.24	6 22.22	1 3.333	3 7.317	3 9.677	5 10.87	3 11.11	2 16.67	6 25	12 28.57	46 14.89
運輸・通信・電気・ ガス	度数 %	0 0	0 0	1 3.333	1 2.439	0 0	1 2.174	3 11.11	0 0	0 0	1 2.381	7 2.265
マスコミ・広告・ 調査	度数 %	2 6.897	2 7.407	0 0	1 2.439	2 6.452	0 0	1 3.704	0 0	2 8.333	1 2.381	11 3.56
ソフトウェア・情報 処理	度数 %	2 6.897	1 3.704	1 3.333	3 7.317	1 3.226	1 2.174	0 0	2 16.67	1 4.167	2 4.762	14 4.531
教育	度数 %	2 6.897	3 11.11	2 6.667	2 4.878	14 45.16	29 63.04	3 11.11	1 8.333	2 8.333	1 2.381	59 19.09
その他のサービス	度数 %	1 3.448	4 14.81	3 10	8 19.51	1 3.226	1 2.174	3 11.11	2 16.67	3 12.5	8 19.05	34 11
公務	度数 %	4 13.79	6 22.22	8 26.67	8 19.51	4 12.9	6 13.04	3 11.11	0 0	1 4.167	2 4.762	42 13.59

その他	度数 %	7 24.14	1 3.704	9 30	10 24.39	5 16.13	0 0	9 33.33	1 8.333	3 12.5	3 7.143	48 15.53
合計	度数 %	29 100	27 100	30 100	41 100	31 100	46 100	27 100	12 100	24 100	42 100	309 100
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q3(4). 勤務先の規模												
29人以下	度数 %	11 37.93	2 7.407	6 18.75	4 9.302	8 25.81	11 23.91	3 10.71	1 8.333	4 16.67	3 7.317	53 16.93
30-99人	度数 %	2 6.897	2 7.407	4 12.5	5 11.63	7 22.58	20 43.48	0 0	2 16.67	1 4.167	4 9.756	47 15.02
100-499人	度数 %	5 17.24	5 18.52	4 12.5	10 23.26	2 6.452	3 6.522	3 10.71	3 25	3 12.5	8 19.51	46 14.7
500-999人	度数 %	1 3.448	3 11.11	5 15.63	9 20.93	1 3.226	1 2.174	3 10.71	3 25	0 0	4 9.756	30 9.585
1000-4999人	度数 %	3 10.34	4 14.81	2 6.25	3 6.977	0 0	2 4.348	3 10.71	1 8.333	7 29.17	9 21.95	34 10.86
5000人以上	度数 %	5 17.24	4 14.81	4 12.5	5 11.63	2 6.452	4 8.696	6 21.43	2 16.67	6 25	13 31.71	51 16.29
官庁(国家公務)	度数 %	0 0	1 3.704	1 3.125	0 0	3 9.677	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 1.597
地方自治体	度数 %	1 3.448	4 14.81	6 18.75	7 16.28	4 12.9	5 10.87	4 14.29	0 0	0 0	0 0	31 9.904
その他	度数 %	1 3.448	2 7.407	0 0	0 0	4 12.9	0 0	6 21.43	0 0	3 12.5	0 0	16 5.112
合計	度数 %	29 100	27 100	32 100	43 100	31 100	46 100	28 100	12 100	24 100	41 100	313 100
Q3(5). 勤務の形態												
一般社員・職員	度数 %	18 62.07	22 81.48	18 54.55	39 90.7	19 59.38	42 91.3	8 28.57	9 75	15 62.5	37 88.1	227 71.84
係長・主任など	度数 %	3 10.34	0 0	6 18.18	0 0	3 9.375	0 0	3 10.71	0 0	1 4.167	0 0	16 5.063
課長以上の管理職	度数 %	2 6.897	0 0	0 0	0 0	1 3.125	0 0	1 3.571	1 8.333	0 0	0 0	5 1.582
経営者・役員	度数 %	2 6.897	0 0	0 0	0 0	1 3.125	0 0	2 7.143	0 0	0 0	0 0	5 1.582
家族従業者	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4.167	0 0	1 0.316
パート、アルバイト、 臨時	度数 %	4 13.79	3 11.11	7 21.21	1 2.326	2 6.25	4 8.696	5 17.86	1 8.333	3 12.5	3 7.143	33 10.44
派遣・請負	度数 %	0 0	1 3.704	1 3.03	0 0	2 6.25	0 0	2 7.143	1 8.333	3 12.5	0 0	10 3.165
その他	度数 %	0 0	1 3.704	1 3.03	3 6.977	4 12.5	0 0	7 25	0 0	1 4.167	2 4.762	19 6.013
合計	度数 %	29 100	27 100	33 100	43 100	32 100	46 100	28 100	12 100	24 100	42 100	316 100
Q3(6). 勤務先での主な仕事												
経理・財務	度数 %	2 6.897	1 3.846	3 9.091	0 0	1 3.226	1 2.222	1 3.571	0 0	1 4.167	3 7.317	13 4.167
人事・総務	度数 %	2 6.897	0 0	2 6.061	3 6.977	1 3.226	0 0	2 7.143	0 0	0 0	3 7.317	13 4.167
教育・研修	度数 %	0 0	0 0	1 3.03	1 2.326	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4.167	0 0	3 0.962
企画・調査・広報	度数 %	4 13.79	1 3.846	1 3.03	0 0	1 3.226	0 0	0 0	1 8.333	2 8.333	1 2.439	11 3.526
仕入・商品管理	度数 %	2 6.897	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2.439	3 0.962

事務補助・一般職	度数 %	8 27.59	5 19.23	9 27.27	6 13.95	6 19.35	1 2.222	6 21.43	1 8.333	10 41.67	9 21.95	61 19.55
その他の事務	度数 %	4 13.79	2 7.692	4 12.12	3 6.977	3 9.677	4 8.889	3 10.71	0 0	4 16.67	5 12.2	32 10.26
開発・設計	度数 %	0 0	1 3.846	1 3.03	1 2.326	1 3.226	1 2.222	0 0	0 0	0 0	1 2.439	6 1.923
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
情報処理	度数 %	0 0	0 0	1 3.03	1 2.326	1 3.226	0 0	0 0	0 0	1 4.167	1 2.439	5 1.603
サービスエンジニア	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 8.333	0 0	0 0	1 0.321
その他の技術職	度数 %	1 3.448	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 8.333	0 0	0 0	2 0.641
教員	度数 %	1 3.448	3 11.54	0 0	2 4.651	11 35.48	34 75.56	1 3.571	0 0	0 0	1 2.439	53 16.99
研究職	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4.167	0 0	1 0.321
その他の専門職	度数 %	3 10.34	2 7.692	8 24.24	19 44.19	5 16.13	0 0	7 25	1 8.333	3 12.5	2 4.878	50 16.03
営業(法人相手)	度数 %	0 0	4 15.38	0 0	1 2.326	0 0	1 2.222	0 0	3 25	0 0	4 9.756	13 4.167
営業(個人相手)	度数 %	1 3.448	3 11.54	0 0	1 2.326	0 0	1 2.222	1 3.571	1 8.333	0 0	2 4.878	10 3.205
店頭販売	度数 %	0 0	0 0	2 6.061	2 4.651	0 0	1 2.222	1 3.571	1 8.333	0 0	5 12.2	12 3.846
保安・サービス職	度数 %	0 0	2 7.692	0 0	1 2.326	0 0	1 2.222	1 3.571	0 0	0 0	1 2.439	6 1.923
運輸・通信の職業	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2.439	1 0.321
その他	度数 %	1 3.448	2 7.692	1 3.03	2 4.651	1 3.226	0 0	5 17.86	2 16.67	1 4.167	1 2.439	16 5.128
合計	度数 %	29 100	26 100	33 100	43 100	31 100	45 100	28 100	12 100	24 100	41 100	312 100

Q4(a). 経験した全ての仕事;正規職員として(複数回答)

正規:経理・財務	度数 %	3 13.04	1 5.882	10 34.48	0 0	3 10.71	2 7.692	0 0	0 0	3 15.79	2 6.897	24
正規:人事・総務	度数 %	3 13.04	0 0	7 24.14	3 8.333	5 17.86	1 3.846	4 18.18	0 0	3 15.79	2 6.897	28
正規:教育・研修	度数 %	3 13.04	1 5.882	1 3.448	1 2.778	1 3.571	1 3.846	2 9.091	1 9.091	1 5.263	0 0	12
正規:企画・調査・ 広報	度数 %	4 17.39	1 5.882	1 3.448	2 5.556	2 7.143	0 0	2 9.091	1 9.091	3 15.79	1 3.448	17
正規:仕入・商品 管理	度数 %	3 13.04	0 0	0 0	0 0	1 3.571	0 0	1 4.545	1 9.091	0 0	1 3.448	7
正規:事務補助・ 一般職	度数 %	11 47.83	3 17.65	7 24.14	4 11.11	6 21.43	1 3.846	8 36.36	1 9.091	8 42.11	8 27.59	57
正規:その他の 事務	度数 %	7 30.43	3 17.65	4 13.79	2 5.556	4 14.29	2 7.692	3 13.64	0 0	5 26.32	4 13.79	34
正規:開発・設計	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.778	1 3.571	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.448	3
正規:情報処理	度数 %	0 0	0 0	1 3.448	1 2.778	1 3.571	0 0	0 0	0 0	1 5.263	1 3.448	5
正規:サービス エンジニア	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 9.091	0 0	0 0	1
正規:その他の 技術職	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.571	0 0	1 4.545	2 18.18	0 0	0 0	4

正規: 教員	度数	0	1	0	1	10	19	0	0	0	1	32
	%	0	5.882	0	2.778	35.71	73.08	0	0	0	3.448	
正規: 研究職	度数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	3.571	0	0	0	0	0	
正規: その他の 専門職	度数	2	0	10	16	1	0	4	1	4	1	39
	%	8.696	0	34.48	44.44	3.571	0	18.18	9.091	21.05	3.448	
正規: 営業(法人 相手)	度数	1	4	2	3	2	1	0	3	0	7	23
	%	4.348	23.53	6.897	8.333	7.143	3.846	0	27.27	0	24.14	
正規: 営業(個人 相手)	度数	2	4	0	2	2	1	3	1	0	5	20
	%	8.696	23.53	0	5.556	7.143	3.846	13.64	9.091	0	17.24	
正規: 店頭販売	度数	0	0	1	2	1	1	3	4	1	4	17
	%	0	0	3.448	5.556	3.571	3.846	13.64	36.36	5.263	13.79	
正規: 保安 サービス職	度数	0	1	1	2	0	1	2	0	0	1	8
	%	0	5.882	3.448	5.556	0	3.846	9.091	0	0	3.448	
正規: 運輸・通信 の職業	度数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	%	0	0	3.448	0	0	0	0	0	0	0	
正規: その他	度数	1	1	1	2	1	0	4	0	0	0	10
	%	4.348	5.882	3.448	5.556	3.571	0	18.18	0	0	0	
合計	度数	23	17	29	36	28	26	22	11	19	29	240

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
q4(b). 経験した全ての仕事: パート・アルバイトとして(複数回答)												
パート・アルバイト: 経理・財務	度数	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3
	%	0	0	9.091	5.263	0	0	7.143	0	0	0	
パート・アルバイト: 人事・総務	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.348	
パート・アルバイト: 教育・研修	度数	0	0	1	3	4	8	3	1	0	2	22
	%	0	0	9.091	15.79	26.67	28.57	21.43	10	0	8.696	
パート・アルバイト: 企画・調査・広報	度数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
	%	0	0	0	0	0	0	14.29	0	0	4.348	
パート・アルバイト: 仕入・商品管理	度数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	%	0	0	0	0	0	3.571	0	0	0	4.348	
パート・アルバイト: 事務補助・一般職	度数	3	2	6	1	4	0	7	4	4	4	35
	%	50	18.18	54.55	5.263	26.67	0	50	40	40	17.39	
パート・アルバイト: その他の事務	度数	1	0	0	2	1	2	2	0	3	2	13
	%	16.67	0	0	10.53	6.667	7.143	14.29	0	30	8.696	
パート・アルバイト: 情報処理	度数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	0	3.571	0	0	0	0	
パート・アルバイト: その他の技術職	度数	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	%	16.67	0	0	0	6.667	0	0	10	0	0	
パート・アルバイト: 教員	度数	1	2	0	0	3	3	0	0	1	0	10
	%	16.67	18.18	0	0	20	10.71	0	0	10	0	
パート・アルバイト: 研究職	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	%	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	
パート・アルバイト: その他の専門職	度数	0	1	2	3	3	1	1	1	0	1	13
	%	0	9.091	18.18	15.79	20	3.571	7.143	10	0	4.348	
パート・アルバイト: 営業(法人相手)	度数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	6.667	0	0	0	0	0	
パート・アルバイト: 営業(個人相手)	度数	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	4
	%	0	9.091	0	5.263	6.667	0	0	0	10	0	
パート・アルバイト: 店頭販売	度数	0	5	2	16	5	20	4	7	4	16	79
	%	0	45.45	18.18	84.21	33.33	71.43	28.57	70	40	69.57	
パート・アルバイト: 保安サービス職	度数	0	4	0	6	0	5	1	1	1	5	23
	%	0	36.36	0	31.58	0	17.86	7.143	10	10	21.74	
パート・アルバイト: 運輸・通信の職業	度数	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4
	%	0	9.091	0	0	0	7.143	0	0	0	4.348	

パート・アルバイト: 製造の職業・技能	度数 %	0 0	0 0	0 0	2 10.53	0 0	0 0	1 7.143	0 0	1 10	2 8.696	6
パート・アルバイト: その他	度数 %	0 0	1 9.091	2 18.18	0 0	1 6.667	2 7.143	2 14.29	1 10	0 0	3 13.04	12
合計	度数	6	11	11	19	15	28	14	10	10	23	147
パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。												
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q4(c). 経験した全ての仕事; 派遣・契約社員として(複数回答)												
派遣・契約: 経理・財務	度数 %	0 0	1 20	0 0	0 0	0 0	0 0	1 20	0 0	0 0	0 0	2 0
派遣・契約: 人事・総務	度数 %	0 0	1 20	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 16.67	2
派遣・契約: 教育・研修	度数 %	0 0	1 20	1 33.33	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2
派遣・契約: 企画・調査・広報	度数 %	1 25	1 20	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 20	1 16.67	4
派遣・契約: 事務補助・一般職	度数 %	1 25	2 40	0 0	0 0	2 28.57	0 0	3 60	0 0	2 40	3 50	13
派遣・契約: その他の事務	度数 %	1 25	0 0	0 0	1 25	0 0	0 0	1 20	0 0	1 20	2 33.33	6
派遣・契約: 開発・設計	度数 %	0 0	0 0	1 33.33	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1
派遣・契約: 情報処理	度数 %	0 0	0 0	1 20	0 0	1						
派遣・契約: 教員	度数 %	0 0	1 20	0 0	0 0	1 14.29	2 50	0 0	0 0	0 0	1 16.67	5
派遣・契約: 研究職	度数 %	0 0	0 0	1 20	0 0	1						
派遣・契約: 其他 の専門職	度数 %	1 25	0 0	1 33.33	2 50	3 42.86	0 0	1 20	0 0	0 0	0 0	8
派遣・契約: 営業(個人相手)	度数 %	1 25	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1
派遣・契約: 店頭販売	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	1 14.29	1 25	0 0	0 0	0 0	0 0	2
派遣・契約: 保安・サービス職	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25	0 0	0 0	0 0	1 16.67	2
派遣・契約: 其他	度数 %	1 25	1 20	0 0	1 25	1 14.29	0 0	0 0	1 100	1 20	0 0	6
合計	度数	4	5	3	4	7	4	5	1	5	6	44
パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。												
Q5. これまでのキャリア形成の特徴(複数回答)												
出世コース業務を経 験してきた	度数 %	2 6.897	3 11.54	1 3.03	1 2.326	1 3.226	2 4.348	2 7.143	2 16.67	1 4.167	4 9.524	19
昇進の可能性限定 された業務を経験	度数 %	8 27.59	2 7.692	3 9.091	6 13.95	4 12.9	1 2.174	1 3.571	3 25	6 25	7 16.67	41
大学の専門知識技 術を生かせる業務	度数 %	5 17.24	6 23.08	12 36.36	27 62.79	15 48.39	34 73.91	11 39.29	2 16.67	3 12.5	8 19.05	123
大学の知識技術を 必要としない業務	度数 %	21 72.41	19 73.08	22 66.67	18 41.86	17 54.84	12 26.09	20 71.43	9 75	18 75	34 80.95	190
転職で自分の専門 得意分野を形成	度数 %	6 20.69	1 3.846	5 15.15	1 2.326	7 22.58	0 0	5 17.86	1 8.333	7 29.17	3 7.143	36
キャリア形成に結び つかぬ転職を経験	度数 %	2 6.897	1 3.846	3 9.091	1 2.326	1 3.226	1 2.174	4 14.29	0 0	1 4.167	0 0	14
先の見通しなく離職 した経験がある	度数 %	2 6.897	3 11.54	7 21.21	1 2.326	4 12.9	1 2.174	4 14.29	0 0	2 8.333	1 2.381	25

一ヶ月以上の 無業経験ある	度数 %	13 44.83	6 23.08	11 33.33	5 11.63	9 29.03	2 4.348	10 35.71	0 0	6 25	3 7.143	65
パートアルバイトで 生活した時期がある	度数 %	1 3.448	6 23.08	8 24.24	3 6.977	8 25.81	5 10.87	6 21.43	2 16.67	3 12.5	5 11.9	47
合計	度数	29	26	33	43	31	46	28	12	24	42	314
パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。												
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q6. キャリア形成にはどのような能力が必要か？(複数回答)												
商品や事業に ついての知識	度数 %	10 71.43	7 53.85	11 57.89	13 48.15	8 50	8 29.63	9 47.37	6 75	4 36.36	16 72.73	92
経理・法律等の 実務的知識	度数 %	8 57.14	4 30.77	14 73.68	9 33.33	1 6.25	6 22.22	7 36.84	5 62.5	5 45.45	7 31.82	66
人文社会科学の 理論的な知識	度数 %	1 7.143	6 46.15	3 15.79	7 25.93	3 18.75	8 29.63	8 42.11	1 12.5	4 36.36	2 9.091	43
幅広い教養	度数 %	11 78.57	9 69.23	13 68.42	23 85.19	16 100	25 92.59	16 84.21	8 100	10 90.91	17 77.27	148
データ処理、事務 処理の技能	度数 %	11 78.57	9 69.23	13 68.42	20 74.07	8 50	17 62.96	15 78.95	8 100	7 63.64	14 63.64	122
英語などの語学力	度数 %	6 42.86	5 38.46	7 36.84	8 29.63	3 18.75	16 59.26	5 26.32	6 75	8 72.73	10 45.45	74
企画・アイデア などの創造力	度数 %	8 57.14	6 46.15	9 47.37	16 59.26	9 56.25	19 70.37	14 73.68	6 75	4 36.36	14 63.64	105
情報収集力・ ネットワーク	度数 %	9 64.29	7 53.85	11 57.89	20 74.07	11 68.75	16 59.26	14 73.68	7 87.5	8 72.73	10 45.45	113
対人関係の能力・ 説得力	度数 %	13 92.86	13 100	17 89.47	27 100	15 93.75	24 88.89	18 94.74	8 100	11 100	20 90.91	166
合計	度数	14	13	19	27	16	27	19	8	11	22	176
パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。												
Q7(a). 趣味や資格を活かした活動												
過去に経験あり	度数 %	7 35	6 33.33	5 22.73	9 27.27	9 40.91	7 22.58	5 27.78	3 27.27	6 37.5	11 29.73	68 29.82
現在している	度数 %	6 30	4 22.22	6 27.27	13 39.39	6 27.27	10 32.26	8 44.44	1 9.091	3 18.75	4 10.81	61 26.75
将来したい	度数 %	7 35	8 44.44	11 50	11 33.33	7 31.82	14 45.16	5 27.78	7 63.64	7 43.75	22 59.46	99 43.42
合計	度数	20	18	22	33	22	31	18	11	16	37	228
Q7(b). 社会的に承認された活動(調停委員、民生委員)												
過去に経験あり	度数 %	1 25	0 0	0 0	1 11.11	0 0	0 0	0 0	0 0	1 25	0 0	3 6.667
現在している	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 12.5	1 2.222
将来したい	度数 %	3 75	2 100	3 100	8 88.89	5 100	6 100	1 100	3 100	3 75	7 87.5	41 91.11
合計	度数	4	2	3	9	5	6	1	3	4	8	45
Q7(c). 各種地域社会活動(PTA・自治会・町内会)												
過去に経験あり	度数 %	5 62.5	1 20	2 15.38	2 22.22	2 14.29	3 20	3 37.5	1 25	2 25	1 10	22 23.4
現在している	度数 %	0 0	1 20	8 61.54	0 0	7 50	1 6.667	4 50	0 0	2 25	0 0	23 24.47
将来したい	度数 %	3 37.5	3 60	3 23.08	7 77.78	5 35.71	11 73.33	1 12.5	3 75	4 50	9 90	49 52.13
合計	度数	8	5	13	9	14	15	8	4	8	10	94
Q7(d). ボランティア活動(社会福祉・環境保護など)												
過去に経験あり	度数 %	3 25	8 61.54	12 60	27 87.1	9 47.37	23 69.7	6 54.55	6 60	1 14.29	9 47.37	104 59.43

現在している	度数	0	3	0	1	3	2	2	0	0	2	13
	%	0	23.08	0	3.226	15.79	6.061	18.18	0	0	10.53	7.429
将来したい	度数	9	2	8	3	7	8	3	4	6	8	58
	%	75	15.38	40	9.677	36.84	24.24	27.27	40	85.71	42.11	33.14
合計	度数	12	13	20	31	19	33	11	10	7	19	175
Q7(e). 宗教活動												
過去に経験あり	度数	0	0	2	4	0	0	1	1	1		9
	%	0	0	33.33	80	0	0	100	100	50		36
現在している	度数	1	2	2	0	1	3	0	0	1		10
	%	100	100	33.33	0	100	50	0	0	50		40
将来したい	度数	0	0	2	1	0	3	0	0	0		6
	%	0	0	33.33	20	0	50	0	0	0		24
合計	度数	1	2	6	5	1	6	1	1	2		25
Q7(f). 大学開放講座・市民講座への参加												
過去に経験あり	度数	3	2	4	8	6	3	5	0	8	4	43
	%	25	25	33.33	38.1	33.33	20	62.5	0	57.14	15.38	31.16
現在している	度数	1	2	0	1	1	2	1	0	0	1	9
	%	8.333	25	0	4.762	5.556	13.33	12.5	0	0	3.846	6.522
将来したい	度数	8	4	8	12	11	10	2	4	6	21	86
	%	66.67	50	66.67	57.14	61.11	66.67	25	100	42.86	80.77	62.32
合計	度数	12	8	12	21	18	15	8	4	14	26	138
Q7(g). 市民運動・住民運動												
過去に経験あり	度数	1	0		0	1	0	0	0		0	2
	%	25	0		0	100	0	0	0		0	10
現在している	度数	0	0		0	0	0	1	0		0	1
	%	0	0		0	0	0	50	0		0	5
将来したい	度数	3	1		1	0	3	1	2		6	17
	%	75	100		100	0	100	50	100		100	85
合計	度数	4	1		1	1	3	2	2		6	20
Q7(h). NPO・NGO												
過去に経験あり	度数	0	0	0	3	1	2	1	0	0	2	9
	%	0	0	0	27.27	50	14.29	33.33	0	0	22.22	15.25
現在している	度数	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	5
	%	0	20	0	9.091	0	14.29	0	0	25	0	8.475
将来したい	度数	4	4	5	7	1	10	2	2	3	7	45
	%	100	80	100	63.64	50	71.43	66.67	100	75	77.78	76.27
合計	度数	4	5	5	11	2	14	3	2	4	9	59
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q8. 将来の職業についてどの程度考えていたか												
はっきりした 希望があった	度数	4	3	3	6	10	20	3	2	1	5	57
	%	13.79	10.71	9.091	13.33	32.26	42.55	10.34	13.33	4.167	11.11	17.48
だいたいの方向は 決めていた	度数	5	5	17	27	11	16	10	7	6	19	123
	%	17.24	17.86	51.52	60	35.48	34.04	34.48	46.67	25	42.22	37.73
特に将来の職業は 考えていなかった	度数	20	20	13	12	10	11	16	6	17	21	146
	%	68.97	71.43	39.39	26.67	32.26	23.4	55.17	40	70.83	46.67	44.79
合計	度数	29	28	33	45	31	47	29	15	24	45	326
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9. 一般教養的な科目の学習: 大学時代												
充実していた	度数	23	20	20	30	19	31	22	12	18	32	227
	%	82.14	76.92	62.5	68.18	61.29	67.39	75.86	80	75	72.73	71.16
充実してなかった	度数	5	6	12	13	12	10	7	3	6	11	85
	%	17.86	23.08	37.5	29.55	38.71	21.74	24.14	20	25	25	26.65
経験がなかった	度数	0	0	0	1	0	5	0	0	0	1	7
	%	0	0	0	2.273	0	10.87	0	0	0	2.273	2.194
合計	度数	28	26	32	44	31	46	29	15	24	44	319
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q9(1a). 語学の学習:大学時代												
充実していた	度数	6	10	6	9	14	6	11	11	12	31	116
	%	22.22	38.46	18.18	20	46.67	12.77	37.93	73.33	50	70.45	36.25
充実してなかった	度数	21	15	25	33	16	36	18	4	12	13	193
	%	77.78	57.69	75.76	73.33	53.33	76.6	62.07	26.67	50	29.55	60.31
経験がなかった	度数	0	1	2	3	0	5	0	0	0	0	11
	%	0	3.846	6.061	6.667	0	10.64	0	0	0	0	3.438
合計	度数	27	26	33	45	30	47	29	15	24	44	320
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1b). 専門科目の学習:大学時代												
充実していた	度数	18	21	30	38	28	44	29	15	12	37	272
	%	66.67	84	93.75	86.36	90.32	93.62	100	100	50	82.22	85.27
充実してなかった	度数	9	4	2	6	3	2	0	0	12	6	44
	%	33.33	16	6.25	13.64	9.677	4.255	0	0	50	13.33	13.79
経験がなかった	度数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3
	%	0	0	0	0	0	2.128	0	0	0	4.444	0.94
合計	度数	27	25	32	44	31	47	29	15	24	45	319
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1d). 実験、実習、卒論の経験:大学時代												
充実していた	度数	14	23	30	39	23	43	27	13	14	32	258
	%	56	88.46	93.75	86.67	74.19	91.49	96.43	86.67	58.33	76.19	81.9
充実してなかった	度数	11	3	2	6	7	3	1	2	10	10	55
	%	44	11.54	6.25	13.33	22.58	6.383	3.571	13.33	41.67	23.81	17.46
経験がなかった	度数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	%	0	0	0	0	3.226	2.128	0	0	0	0	0.635
合計	度数	25	26	32	45	31	47	28	15	24	42	315
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1e). 資格取得の準備や学習:大学時代												
充実していた	度数	5	14	9	24	20	39	5	4	5	26	151
	%	17.86	51.85	27.27	53.33	64.52	82.98	17.86	26.67	20.83	60.47	47.04
充実してなかった	度数	12	4	15	18	8	7	9	6	8	12	99
	%	42.86	14.81	45.45	40	25.81	14.89	32.14	40	33.33	27.91	30.84
経験がなかった	度数	11	9	9	3	3	1	14	5	11	5	71
	%	39.29	33.33	27.27	6.667	9.677	2.128	50	33.33	45.83	11.63	22.12
合計	度数	28	27	33	45	31	47	28	15	24	43	321
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1f). 大学外での語学・資格取得:大学時代												
充実していた	度数	10	11	3	16	8	11	9	7	9	12	96
	%	38.46	39.29	9.091	36.36	27.59	23.4	32.14	46.67	37.5	27.91	30.28
充実してなかった	度数	6	8	6	8	7	8	6	3	3	13	68
	%	23.08	28.57	18.18	18.18	24.14	17.02	21.43	20	12.5	30.23	21.45
経験がなかった	度数	10	9	24	20	14	28	13	5	12	18	153
	%	38.46	32.14	72.73	45.45	48.28	59.57	46.43	33.33	50	41.86	48.26
合計	度数	26	28	33	44	29	47	28	15	24	43	317
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1g). サークル・部の活動:大学時代												
充実していた	度数	15	12	18	16	16	27	17	7	16	19	163
	%	55.56	42.86	54.55	35.56	55.17	57.45	60.71	46.67	66.67	44.19	51.1
充実してなかった	度数	9	6	10	13	11	8	8	2	7	7	81
	%	33.33	21.43	30.3	28.89	37.93	17.02	28.57	13.33	29.17	16.28	25.39
経験がなかった	度数	3	10	5	16	2	12	3	6	1	17	75
	%	11.11	35.71	15.15	35.56	6.897	25.53	10.71	40	4.167	39.53	23.51
合計	度数	27	28	33	45	29	47	28	15	24	43	319
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計

Q9(1h). 友人関係:大学時代												
充実していた	度数	24	26	28	39	28	47	28	13	23	38	294
	%	92.31	92.86	84.85	86.67	93.33	97.92	96.55	86.67	95.83	86.36	91.3
充実してなかった	度数	2	2	5	6	2	0	1	2	1	6	27
	%	7.692	7.143	15.15	13.33	6.667	0	3.448	13.33	4.167	13.64	8.385
経験がなかった	度数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	%	0	0	0	0	0	2.083	0	0	0	0	0.311
合計	度数	26	28	33	45	30	48	29	15	24	44	322
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(1i). 副専攻での学習:大学時代												
充実していた	度数	1	5	3	3	5	3	1	2	2	11	36
	%	4.545	20	10.71	6.818	17.86	6.667	4	14.29	9.524	26.19	12.24
充実してなかった	度数	2	1	1	7	4	4	0	0	5	9	33
	%	9.091	4	3.571	15.91	14.29	8.889	0	0	23.81	21.43	11.22
経験がなかった	度数	19	19	24	34	19	38	24	12	14	22	225
	%	86.36	76	85.71	77.27	67.86	84.44	96	85.71	66.67	52.38	76.53
合計	度数	22	25	28	44	28	45	25	14	21	42	294
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2a). 一般教養的な科目の学習:職業生活に												
役立っている	度数	15	17	19	30	14	24	14	9	12	24	178
	%	51.72	65.38	63.33	69.77	46.67	60	51.85	69.23	50	61.54	59.14
役立っていない	度数	14	9	11	13	16	16	13	4	12	15	123
	%	48.28	34.62	36.67	30.23	53.33	40	48.15	30.77	50	38.46	40.86
合計	度数	29	26	30	43	30	40	27	13	24	39	301
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2b). 語学の学習:職業生活に												
役立っている	度数	4	5	2	6	7	9	6	3	8	11	61
	%	14.81	19.23	6.667	14.63	22.58	21.43	21.43	23.08	34.78	27.5	20.27
役立っていない	度数	23	21	28	35	24	33	22	10	15	29	240
	%	85.19	80.77	93.33	85.37	77.42	78.57	78.57	76.92	65.22	72.5	79.73
合計	度数	27	26	30	41	31	42	28	13	23	40	301
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2c). 専門科目の学習:職業生活に												
役立っている	度数	8	11	21	31	17	35	17	6	5	15	166
	%	29.63	44	70	72.09	54.84	79.55	60.71	46.15	20.83	37.5	54.43
役立っていない	度数	19	14	9	12	14	9	11	7	19	25	139
	%	70.37	56	30	27.91	45.16	20.45	39.29	53.85	79.17	62.5	45.57
合計	度数	27	25	30	43	31	44	28	13	24	40	305
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2d). 実験、実習、卒論の経験:職業生活に												
役立っている	度数	8	14	20	33	12	34	14	7	10	14	166
	%	32	53.85	66.67	75	38.71	79.07	51.85	53.85	41.67	36.84	55.15
役立っていない	度数	17	12	10	11	19	9	13	6	14	24	135
	%	68	46.15	33.33	25	61.29	20.93	48.15	46.15	58.33	63.16	44.85
合計	度数	25	26	30	44	31	43	27	13	24	38	301
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2e). 資格取得の準備や学習:職業生活に												
役立っている	度数	4	13	11	23	16	33	4	5	4	15	128
	%	21.05	61.9	36.67	56.1	57.14	78.57	18.18	41.67	19.05	41.67	47.06
役立っていない	度数	15	8	19	18	12	9	18	7	17	21	144
	%	78.95	38.1	63.33	43.9	42.86	21.43	81.82	58.33	80.95	58.33	52.94
合計	度数	19	21	30	41	28	42	22	12	21	36	272
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
--	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

Q9(2f). 大学外での語学・資格取得:職業生活に												
役立っている	度数	8	11	6	13	8	9	6	6	5	11	83
	%	34.78	47.83	24	36.11	33.33	28.13	27.27	54.55	23.81	37.93	33.74
役立っていない	度数	15	12	19	23	16	23	16	5	16	18	163
	%	65.22	52.17	76	63.89	66.67	71.88	72.73	45.45	76.19	62.07	66.26
合計	度数	23	23	25	36	24	32	22	11	21	29	246
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2g). サークル・部の活動:職業生活に												
役立っている	度数	8	8	9	14	10	26	8	6	10	14	113
	%	32	34.78	34.62	32.56	34.48	70.27	33.33	60	41.67	48.28	41.85
役立っていない	度数	17	15	17	29	19	11	16	4	14	15	157
	%	68	65.22	65.38	67.44	65.52	29.73	66.67	40	58.33	51.72	58.15
合計	度数	25	23	26	43	29	37	24	10	24	29	270
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2h). 友人関係:職業生活に												
役立っている	度数	14	18	16	33	24	40	16	11	19	34	225
	%	53.85	69.23	57.14	75	80	88.89	59.26	84.62	79.17	82.93	74.01
役立っていない	度数	12	8	12	11	6	5	11	2	5	7	79
	%	46.15	30.77	42.86	25	20	11.11	40.74	15.38	20.83	17.07	25.99
合計	度数	26	26	28	44	30	45	27	13	24	41	304
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(2i). 副専攻での学習:職業生活に												
役立っている	度数	2	5	2	4	4	2	0	1	0	8	28
	%	16.67	31.25	13.33	13.33	21.05	9.091	0	14.29	0	28.57	15.91
役立っていない	度数	10	11	13	26	15	20	12	6	15	20	148
	%	83.33	68.75	86.67	86.67	78.95	90.91	100	85.71	100	71.43	84.09
合計	度数	12	16	15	30	19	22	12	7	15	28	176
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3a). 一般教養的な科目の学習:社会活動に												
役立っている	度数	19	14	18	32	16	20	15	11	12	21	178
	%	67.86	58.33	62.07	72.73	59.26	54.05	53.57	78.57	54.55	65.63	62.46
役立っていない	度数	9	10	11	12	11	17	13	3	10	11	107
	%	32.14	41.67	37.93	27.27	40.74	45.95	46.43	21.43	45.45	34.38	37.54
合計	度数	28	24	29	44	27	37	28	14	22	32	285
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3b). 語学の学習:社会活動に												
役立っている	度数	4	6	3	10	10	3	7	6	5	14	68
	%	17.39	26.09	10	23.81	35.71	8.333	26.92	42.86	22.73	41.18	24.46
役立っていない	度数	19	17	27	32	18	33	19	8	17	20	210
	%	82.61	73.91	90	76.19	64.29	91.67	73.08	57.14	77.27	58.82	75.54
合計	度数	23	23	30	42	28	36	26	14	22	34	278
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3c). 専門科目の学習:社会活動に												
役立っている	度数	13	10	24	32	16	27	16	8	6	17	169
	%	50	45.45	80	72.73	59.26	69.23	61.54	57.14	28.57	48.57	59.51
役立っていない	度数	13	12	6	12	11	12	10	6	15	18	115
	%	50	54.55	20	27.27	40.74	30.77	38.46	42.86	71.43	51.43	40.49
合計	度数	26	22	30	44	27	39	26	14	21	35	284
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3d). 実験、実習、卒論の経験:社会活動に												
役立っている	度数	10	10	17	31	10	28	12	10	8	15	151
	%	41.67	41.67	58.62	68.89	37.04	71.79	48	71.43	36.36	45.45	53.55
役立っていない	度数	14	14	12	14	17	11	13	4	14	18	131
	%	58.33	58.33	41.38	31.11	62.96	28.21	52	28.57	63.64	54.55	46.45
合計	度数	24	24	29	45	27	39	25	14	22	33	282
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計

Q9(3e). 資格取得の準備や学習:社会活動に												
役立っている	度数	1	9	9	24	11	24	4	5	1	13	101
	%	5.556	42.86	31.03	57.14	42.31	61.54	19.05	38.46	5.263	40.63	38.85
役立っていない	度数	17	12	20	18	15	15	17	8	18	19	159
	%	94.44	57.14	68.97	42.86	57.69	38.46	80.95	61.54	94.74	59.38	61.15
合計	度数	18	21	29	42	26	39	21	13	19	32	260
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3f). 大学外での語学・資格取得:社会活動に												
役立っている	度数	8	9	4	15	7	10	5	6	5	9	78
	%	36.36	40.91	16.67	40.54	30.43	30.3	23.81	50	25	33.33	32.37
役立っていない	度数	14	13	20	22	16	23	16	6	15	18	163
	%	63.64	59.09	83.33	59.46	69.57	69.7	76.19	50	75	66.67	67.63
合計	度数	22	22	24	37	23	33	21	12	20	27	241
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3g). サークル・部の活動:社会活動に												
役立っている	度数	7	8	12	18	10	23	14	6	13	13	124
	%	30.43	38.1	44.44	41.86	38.46	63.89	56	54.55	59.09	50	47.69
役立っていない	度数	16	13	15	25	16	13	11	5	9	13	136
	%	69.57	61.9	55.56	58.14	61.54	36.11	44	45.45	40.91	50	52.31
合計	度数	23	21	27	43	26	36	25	11	22	26	260
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3h). 友人関係:社会活動に												
役立っている	度数	17	18	17	34	24	36	22	12	16	26	222
	%	65.38	72	58.62	77.27	85.71	83.72	75.86	85.71	72.73	74.29	75.25
役立っていない	度数	9	7	12	10	4	7	7	2	6	9	73
	%	34.62	28	41.38	22.73	14.29	16.28	24.14	14.29	27.27	25.71	24.75
合計	度数	26	25	29	44	28	43	29	14	22	35	295
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q9(3i). 副専攻での学習:社会活動に												
役立っている	度数	0	4	1	5	3	2	1	1	0	4	21
	%	0	26.67	6.667	16.13	17.65	8	7.692	12.5	0	16	12.07
役立っていない	度数	11	11	14	26	14	23	12	7	14	21	153
	%	100	73.33	93.33	83.87	82.35	92	92.31	87.5	100	84	87.93
合計	度数	11	15	15	31	17	25	13	8	14	25	174
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q10(1-1). 就活開始時期												
3年次1月~6月	度数	10	5	6	5	5	7	11	2	7	12	70
	%	41.67	23.81	21.43	12.82	26.32	36.84	55	16.67	31.82	29.27	28.57
3年次7月~12月	度数	3	15	3	19	3	6	1	7	3	27	87
	%	12.5	71.43	10.71	48.72	15.79	31.58	5	58.33	13.64	65.85	35.51
4年次1月~6月	度数	11	1	18	6	10	1	8	2	12	2	71
	%	45.83	4.762	64.29	15.38	52.63	5.263	40	16.67	54.55	4.878	28.98
4年次7月~12月	度数	0	0	1	9	1	5	0	1	0	0	17
	%	0	0	3.571	23.08	5.263	26.32	0	8.333	0	0	6.939
合計	度数	24	21	28	39	19	19	20	12	22	41	245
Q10(1-2). 内定獲得時期												
3年次1月~6月	度数	1	2	0	1	0	0	0	1	0	5	10
	%	4.348	10	0	2.703	0	0	0	10	0	13.16	4.405
3年次7月~12月	度数	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5
	%	8.696	0	0	0	0	11.76	5.556	0	0	0	2.203
4年次1月~6月	度数	8	15	10	16	6	9	6	6	4	25	105
	%	34.78	75	37.04	43.24	37.5	52.94	33.33	60	19.05	65.79	46.26
4年次7月~12月	度数	12	3	17	20	10	6	11	3	17	8	107
	%	52.17	15	62.96	54.05	62.5	35.29	61.11	30	80.95	21.05	47.14
合計	度数	23	20	27	37	16	17	18	10	21	38	227
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計

Q10(2-1). 応募会社数												
	平均 度数	18.3 20	32.6 20	11.05 22	20.47 36	14.67 15	19.68 19	17.5 20	24.09 11	21.74 19	36.61 36	22.65 218
Q10(2-2). 訪問会社数												
	平均 度数	9.85 20	15.55 20	7.304 23	11.91 35	6.733 15	10.47 19	9.762 21	16.73 11	10.65 20	17.58 36	11.95 220
Q10(2-3). 内定会社数												
	平均 度数	1.917 24	1.952 21	1.296 27	1.895 38	1.353 17	1.421 19	1.55 20	2.167 12	1.455 22	1.846 39	1.695 239
Q10(3a). 出身大学名が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	9 36	2 9.091	6 18.75	4 9.524	3 15.79	10 41.67	4 18.18	3 25	9 39.13	11 26.83	61 23.28
やや有利だった	度数 %	13 52	13 59.09	12 37.5	20 47.62	10 52.63	6 25	7 31.82	2 16.67	7 30.43	13 31.71	103 39.31
無関係だった	度数 %	2 8	6 27.27	14 43.75	18 42.86	5 26.32	8 33.33	11 50	3 25	6 26.09	16 39.02	89 33.97
やや不利だった	度数 %	1 4	1 4.545	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 33.33	1 4.348	1 2.439	8 3.053
不利だった	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	1 5.263	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.382
合計	度数 %	25 100	22 100	32 100	42 100	19 100	24 100	22 100	12 100	23 100	41 100	262 100
Q10(3b). 大学での専門分野が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	1 4	3 13.04	8 25	17 40.48	4 20	8 33.33	4 17.39	1 8.333	2 8.696	0 0	48 18.11
やや有利だった	度数 %	4 16	3 13.04	5 15.63	8 19.05	0 0	5 20.83	3 13.04	4 33.33	4 17.39	4 9.756	40 15.09
無関係だった	度数 %	17 68	16 69.57	18 56.25	15 35.71	15 75	10 41.67	16 69.57	5 41.67	15 65.22	35 85.37	162 61.13
やや不利だった	度数 %	2 8	1 4.348	1 3.125	2 4.762	1 5	1 4.167	0 0	1 8.333	2 8.696	2 4.878	13 4.906
不利だった	度数 %	1 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 8.333	0 0	0 0	2 0.755
合計	度数 %	25 100	23 100	32 100	42 100	20 100	24 100	23 100	12 100	23 100	41 100	265 100
Q10(3c). 大学の就職紹介が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	4 16.67	0 0	1 3.125	3 7.143	3 15.79	7 30.43	1 5	0 0	2 8.696	3 7.5	24 9.302
やや有利だった	度数 %	5 20.83	6 26.09	3 9.375	7 16.67	1 5.263	1 4.348	1 5	1 8.333	3 13.04	5 12.5	33 12.79
無関係だった	度数 %	14 58.33	17 73.91	26 81.25	31 73.81	15 78.95	14 60.87	18 90	11 91.67	18 78.26	30 75	194 75.19
やや不利だった	度数 %	0 0	0 0	1 3.125	0 0	0 0	1 4.348	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0.775
不利だった	度数 %	1 4.167	0 0	1 3.125	1 2.381	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 5	5 1.938
合計	度数 %	24 100	23 100	32 100	42 100	19 100	23 100	20 100	12 100	23 100	40 100	258 100
Q10(3d). 大学の所在地が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	2 8.333	1 4.348	0 0	0 0	1 5.556	1 4.348	0 0	0 0	0 0	0 0	5 1.931
やや有利だった	度数 %	1 4.167	2 8.696	1 3.125	1 2.439	0 0	1 4.348	0 0	1 8.333	0 0	1 2.439	8 3.089
無関係だった	度数 %	18 75	16 69.57	26 81.25	36 87.8	15 83.33	16 69.57	22 100	8 66.67	20 86.96	28 68.29	205 79.15

やや不利だった	度数 %	3 12.5	2 8.696	4 12.5	2 4.878	1 5.556	3 13.04	0 0	3 25	3 13.04	10 24.39	31 11.97
不利だった	度数 %	0 0	2 8.696	1 3.125	2 4.878	1 5.556	2 8.696	0 0	0 0	0 0	2 4.878	10 3.861
合計	度数 %	24 100	23 100	32 100	41 100	18 100	23 100	22 100	12 100	23 100	41 100	259 100
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q10(3e). 卒業生の存在が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	4 16.67	2 8.696	3 9.375	7 16.67	1 5.263	8 33.33	3 14.29	0 0	3 13.04	5 12.2	36 13.79
やや有利だった	度数 %	8 33.33	6 26.09	6 18.75	5 11.9	7 36.84	7 29.17	5 23.81	2 16.67	2 8.696	14 34.15	62 23.75
無関係だった	度数 %	11 45.83	13 56.52	23 71.88	30 71.43	11 57.89	9 37.5	13 61.9	9 75	18 78.26	22 53.66	159 60.92
やや不利だった	度数 %	0 0	1 4.348	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.383
不利だった	度数 %	1 4.167	1 4.348	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 8.333	0 0	0 0	3 1.149
合計	度数 %	24 100	23 100	32 100	42 100	19 100	24 100	21 100	12 100	23 100	41 100	261 100
Q10(3f). 自分の性別が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	2 8	1 4.348	0 0	4 9.524	1 5.263	6 25	2 9.091	2 16.67	1 4.348	3 7.317	22 8.365
やや有利だった	度数 %	3 12	6 26.09	4 12.5	4 9.524	0 0	1 4.167	1 4.545	0 0	3 13.04	4 9.756	26 9.886
無関係だった	度数 %	12 48	13 56.52	22 68.75	31 73.81	14 73.68	16 66.67	16 72.73	5 41.67	15 65.22	27 65.85	171 65.02
やや不利だった	度数 %	4 16	1 4.348	6 18.75	3 7.143	3 15.79	1 4.167	1 4.545	5 41.67	2 8.696	7 17.07	33 12.55
不利だった	度数 %	4 16	2 8.696	0 0	0 0	1 5.263	0 0	2 9.091	0 0	2 8.696	0 0	11 4.183
合計	度数 %	25 100	23 100	32 100	42 100	19 100	24 100	22 100	12 100	23 100	41 100	263 100
Q10(3g). 大学で取得した免許状・資格が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	2 8.333	0 0	4 12.9	16 39.02	3 15	10 43.48	0 0	1 9.091	0 0	1 2.5	37 14.51
やや有利だった	度数 %	1 4.167	5 23.81	2 6.452	4 9.756	1 5	0 0	0 0	1 9.091	1 4.348	10 25	25 9.804
無関係だった	度数 %	20 83.33	16 76.19	25 80.65	21 51.22	16 80	13 56.52	21 100	9 81.82	22 95.65	28 70	191 74.9
やや不利だった	度数 %	1 4.167	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2.5	2 0.784
合計	度数 %	24 100	21 100	31 100	41 100	20 100	23 100	21 100	11 100	23 100	40 100	255 100
Q10(3h). 副専攻の証明書が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.632	1 6.667	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0.966
やや有利だった	度数 %	0 0	1 5.263	0 0	0 0	1 6.667	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2.941	3 1.449
無関係だった	度数 %	15 100	18 94.74	21 100	37 97.37	13 86.67	21 100	15 100	11 100	18 100	32 94.12	201 97.1
やや不利だった	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.941	1 0.483						
合計	度数 %	15 100	19 100	21 100	38 100	15 100	21 100	15 100	11 100	18 100	34 100	207 100

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q10(3i). ダブルスクールで得た免許・資格が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	0 0	1 4.762	0 0	3 7.317	0 0	1 4.762	0 0	0 0	0 0	1 2.778	6 2.667
やや有利だった	度数 %	3 17.65	3 14.29	0 0	6 14.63	3 21.43	0 0	1 5	0 0	2 10	6 16.67	24 10.67
無関係だった	度数 %	14 82.35	17 80.95	24 100	32 78.05	11 78.57	20 95.24	19 95	11 100	18 90	29 80.56	195 86.67
合計	度数 %	17 100	21 100	24 100	41 100	14 100	21 100	20 100	11 100	20 100	36 100	225 100
Q10(3j). 課外活動での実績が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	2 9.524	5 23.81	1 3.333	4 9.524	0 0	8 36.36	0 0	1 9.091	0 0	6 15.38	27 10.98
やや有利だった	度数 %	3 14.29	2 9.524	7 23.33	14 33.33	3 18.75	4 18.18	5 23.81	2 18.18	5 21.74	8 20.51	53 21.54
無関係だった	度数 %	16 76.19	14 66.67	22 73.33	23 54.76	13 81.25	10 45.45	16 76.19	8 72.73	18 78.26	25 64.1	165 67.07
やや不利だった	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.381	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.407
合計	度数 %	21 100	21 100	30 100	42 100	16 100	22 100	21 100	11 100	23 100	39 100	246 100
Q10(3k). アルバイト経験が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	1 4.348	10 43.48	1 3.226	4 9.524	0 0	6 26.09	2 9.091	3 25	0 0	14 35	41 15.95
やや有利だった	度数 %	3 13.04	8 34.78	6 19.35	22 52.38	8 44.44	6 26.09	5 22.73	7 58.33	6 26.09	13 32.5	84 32.68
無関係だった	度数 %	19 82.61	5 21.74	24 77.42	16 38.1	10 55.56	11 47.83	15 68.18	2 16.67	16 69.57	12 30	130 50.58
やや不利だった	度数 %	0 0	1 4.348	1 2.5	2 0.778							
合計	度数 %	23 100	23 100	31 100	42 100	18 100	23 100	22 100	12 100	23 100	40 100	257 100
Q10(3l). ボランティア活動が有利に働いたか												
有利だった	度数 %	0 0	2 10	4 12.9	10 23.81	1 5.882	10 43.48	1 4.762	0 0	0 0	2 5.405	30 12.3
やや有利だった	度数 %	1 5.263	2 10	3 9.677	17 40.48	3 17.65	3 13.04	3 14.29	3 25	0 0	4 10.81	39 15.98
無関係だった	度数 %	18 94.74	16 80	24 77.42	14 33.33	13 76.47	10 43.48	17 80.95	9 75	22 100	31 83.78	174 71.31
やや不利だった	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.381	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.41
合計	度数 %	19 100	20 100	31 100	42 100	17 100	23 100	21 100	12 100	22 100	37 100	244 100
Q11a. 進路選択やり直すとしたら大学進学するか？												
進学する	度数 %	28 96.55	26 96.3	32 96.97	45 100	30 93.75	47 97.92	26 89.66	14 93.33	23 95.83	43 95.56	314 96.02
進学しない	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.448	0 0	0 0	1 2.222	2 0.612
どちらでもよい	度数 %	1 3.448	1 3.704	1 3.03	0 0	2 6.25	1 2.083	2 6.897	1 6.667	1 4.167	1 2.222	11 3.364
合計	度数 %	29 100	27 100	33 100	45 100	32 100	48 100	29 100	15 100	24 100	45 100	327 100
Q11b. 進路選択やり直すとしたら進学先の大学は？												
同じ大学	度数 %	9 32.14	9 32.14	11 34.38	18 40	7 21.88	20 41.67	7 28	4 28.57	4 18.18	21 47.73	110 34.59

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
共学にする	度数 %	8 28.57	13 46.43	15 46.88	17 37.78	10 31.25	21 43.75	7 28	8 57.14	11 50	15 34.09	125 39.31
別の女子大	度数 %	0 0	0 0	0 0	2 4.444	1 3.125	1 2.083	0 0	0 0	0 0	0 0	4 1.258
どこでもよい	度数 %	11 39.29	6 21.43	6 18.75	8 17.78	14 43.75	6 12.5	11 44	2 14.29	7 31.82	8 18.18	79 24.84
合計	度数 %	28 100	28 100	32 100	45 100	32 100	48 100	25 100	14 100	22 100	44 100	318 100
Q11c. 進路選択やり直すとしたら専門分野は？												
同じ分野	度数 %	4 14.81	11 39.29	17 53.13	29 64.44	12 37.5	36 76.6	15 51.72	10 66.67	2 8.333	24 55.81	160 49.69
別の分野	度数 %	19 70.37	12 42.86	14 43.75	16 35.56	16 50	10 21.28	14 48.28	5 33.33	21 87.5	16 37.21	143 44.41
どこでもよい	度数 %	4 14.81	5 17.86	1 3.125	0 0	4 12.5	1 2.128	0 0	0 0	1 4.167	3 6.977	19 5.901
合計	度数 %	27 100	28 100	32 100	45 100	32 100	47 100	29 100	15 100	24 100	43 100	322 100
Q12a. 勉強よりサークル・友人関係が役立つ												
そう思う	度数 %	4 13.79	7 25	2 6.061	2 4.444	6 18.75	4 8.333	2 6.897	1 6.667	4 16.67	7 15.56	39 11.89
ややそう思う	度数 %	7 24.14	8 28.57	6 18.18	7 15.56	10 31.25	16 33.33	4 13.79	3 20	9 37.5	15 33.33	85 25.91
どちらでもない	度数 %	12 41.38	7 25	11 33.33	22 48.89	10 31.25	20 41.67	14 48.28	8 53.33	9 37.5	13 28.89	126 38.41
ややそう思う	度数 %	5 17.24	4 14.29	9 27.27	11 24.44	5 15.63	8 16.67	5 17.24	3 20	1 4.167	8 17.78	59 17.99
そう思わない	度数 %	1 3.448	2 7.143	5 15.15	3 6.667	1 3.125	0 0	4 13.79	0 0	1 4.167	2 4.444	19 5.793
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	48 100	29 100	15 100	24 100	45 100	328 100
Q12b. 実務的・応用的な教育を行うべき												
そう思う	度数 %	7 24.14	12 42.86	8 24.24	11 24.44	11 34.38	16 33.33	5 17.24	3 20	7 29.17	10 22.22	90 27.44
ややそう思う	度数 %	15 51.72	12 42.86	17 51.52	27 60	12 37.5	24 50	12 41.38	8 53.33	10 41.67	16 35.56	153 46.65
どちらでもない	度数 %	5 17.24	4 14.29	6 18.18	4 8.889	7 21.88	6 12.5	8 27.59	4 26.67	5 20.83	11 24.44	60 18.29
ややそう思う	度数 %	2 6.897	0 0	2 6.061	2 4.444	1 3.125	1 2.083	4 13.79	0 0	1 4.167	7 15.56	20 6.098
そう思わない	度数 %	0 0	0 0	0 0	1 2.222	1 3.125	1 2.083	0 0	0 0	1 4.167	1 2.222	5 1.524
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	48 100	29 100	15 100	24 100	45 100	328 100
Q12c. 論理的・体系的な考え方を訓練すべき												
そう思う	度数 %	9 31.03	7 25	14 42.42	15 33.33	9 28.13	7 14.89	11 37.93	2 13.33	10 41.67	15 33.33	99 30.28
ややそう思う	度数 %	14 48.28	13 46.43	12 36.36	25 55.56	14 43.75	22 46.81	13 44.83	8 53.33	8 33.33	15 33.33	144 44.04
どちらでもない	度数 %	6 20.69	7 25	7 21.21	4 8.889	8 25	12 25.53	5 17.24	3 20	6 25	11 24.44	69 21.1
ややそう思う	度数 %	0 0	1 3.571	0 0	1 2.222	1 3.125	6 12.77	0 0	2 13.33	0 0	4 8.889	15 4.587
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	47 100	29 100	15 100	24 100	45 100	327 100

		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q12d. 人文社会科学の一般教養養うべき												
そう思う	度数 %	7 24.14	6 21.43	7 21.21	14 31.11	7 21.88	9 19.15	8 27.59	2 13.33	9 37.5	13 28.89	82 25.08
ややそう思う	度数 %	13 44.83	11 39.29	19 57.58	26 57.78	16 50	23 48.94	8 27.59	6 40	11 45.83	22 48.89	155 47.4
どちらでもない	度数 %	8 27.59	10 35.71	5 15.15	4 8.889	7 21.88	12 25.53	13 44.83	7 46.67	2 8.333	6 13.33	74 22.63
ややそう思う	度数 %	1 3.448	1 3.571	2 6.061	1 2.222	1 3.125	3 6.383	0 0	0 0	1 4.167	2 4.444	12 3.67
そう思わない	度数 %	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.125	0 0	0 0	0 0	1 4.167	2 4.444	4 1.223
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	47 100	29 100	15 100	24 100	45 100	327 100
Q12e. 少人数教育で、発表や論文の表現技法鍛えるべき												
そう思う	度数 %	17 58.62	12 42.86	17 51.52	22 48.89	13 40.63	18 38.3	9 31.03	6 40	15 62.5	18 40	147 44.95
ややそう思う	度数 %	11 37.93	12 42.86	14 42.42	15 33.33	15 46.88	19 40.43	13 44.83	7 46.67	8 33.33	17 37.78	131 40.06
どちらでもない	度数 %	1 3.448	2 7.143	2 6.061	6 13.33	3 9.375	6 12.77	4 13.79	2 13.33	1 4.167	10 22.22	37 11.31
ややそう思う	度数 %	0 0	1 3.571	0 0	1 2.222	1 3.125	3 6.383	3 10.34	0 0	0 0	0 0	9 2.752
そう思わない	度数 %	0 0	1 3.571	0 0	1 2.222	0 0	1 2.128	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0.917
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	47 100	29 100	15 100	24 100	45 100	327 100
Q12f. 家庭内での役割を重視した教育すべき												
そう思う	度数 %	1 3.448	1 3.571	1 3.03	2 4.444	0 0	1 2.128	2 6.897	0 0	2 8.333	2 4.444	12 3.67
ややそう思う	度数 %	4 13.79	3 10.71	3 9.091	3 6.667	3 9.375	4 8.511	1 3.448	1 6.667	3 12.5	4 8.889	29 8.869
どちらでもない	度数 %	9 31.03	7 25	5 15.15	14 31.11	10 31.25	16 34.04	10 34.48	2 13.33	6 25	10 22.22	89 27.22
ややそう思う	度数 %	5 17.24	9 32.14	9 27.27	12 26.67	11 34.38	10 21.28	6 20.69	4 26.67	4 16.67	13 28.89	83 25.38
そう思わない	度数 %	10 34.48	8 28.57	15 45.45	14 31.11	8 25	16 34.04	10 34.48	8 53.33	9 37.5	16 35.56	114 34.86
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	47 100	29 100	15 100	24 100	45 100	327 100
Q12g. 専門職として自立できる教育すべき												
そう思う	度数 %	13 44.83	9 32.14	16 48.48	15 33.33	9 28.13	15 31.25	12 41.38	5 33.33	11 45.83	14 31.11	119 36.28
ややそう思う	度数 %	10 34.48	11 39.29	12 36.36	22 48.89	14 43.75	25 52.08	13 44.83	8 53.33	8 33.33	15 33.33	138 42.07
どちらでもない	度数 %	5 17.24	4 14.29	2 6.061	8 17.78	7 21.88	6 12.5	3 10.34	2 13.33	5 20.83	9 20	51 15.55
ややそう思う	度数 %	1 3.448	3 10.71	3 9.091	0 0	2 6.25	2 4.167	1 3.448	0 0	0 0	7 15.56	19 5.793
そう思わない	度数 %	0 0	1 3.571	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.305
合計	度数 %	29 100	28 100	33 100	45 100	32 100	48 100	29 100	15 100	24 100	45 100	328 100
Q12h. 企業社会でキャリアを積める教育すべき												
そう思う	度数 %	9 31.03	10 35.71	11 33.33	9 20	6 18.75	9 19.15	5 17.24	4 26.67	7 29.17	9 20	79 24.16

ややそう思う	度数	10	7	10	16	8	21	11	11	5	14	113
	%	34.48	25	30.3	35.56	25	44.68	37.93	73.33	20.83	31.11	34.56
どちらでもない	度数	8	9	7	18	15	17	9	0	10	13	106
	%	27.59	32.14	21.21	40	46.88	36.17	31.03	0	41.67	28.89	32.42
ややそう思う	度数	2	2	3	1	2	0	3	0	2	7	22
	%	6.897	7.143	9.091	2.222	6.25	0	10.34	0	8.333	15.56	6.728
そう思わない	度数	0	0	2	1	1	0	1	0	0	2	7
	%	0	0	6.061	2.222	3.125	0	3.448	0	0	4.444	2.141
合計	度数	29	28	33	45	32	47	29	15	24	45	327
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q12i. 職業や家庭だけでなく社会活動を視野に入れるべき												
そう思う	度数	7	6	15	13	8	10	4	3	4	8	78
	%	24.14	21.43	45.45	28.89	25	20.83	13.79	20	16.67	17.78	23.78
ややそう思う	度数	15	9	13	25	17	27	13	11	11	21	162
	%	51.72	32.14	39.39	55.56	53.13	56.25	44.83	73.33	45.83	46.67	49.39
どちらでもない	度数	7	12	4	7	7	10	9	1	8	13	78
	%	24.14	42.86	12.12	15.56	21.88	20.83	31.03	6.667	33.33	28.89	23.78
ややそう思う	度数	0	1	1	0	0	1	2	0	1	2	8
	%	0	3.571	3.03	0	0	2.083	6.897	0	4.167	4.444	2.439
そう思わない	度数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	%	0	0	0	0	0	0	3.448	0	0	2.222	0.61
合計	度数	29	28	33	45	32	48	29	15	24	45	328
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q12j. 特に女子を意識した教育の必要はない												
そう思う	度数	8	8	4	7	9	15	3	3	4	4	65
	%	27.59	28.57	12.12	15.56	28.13	31.25	10.34	20	16.67	8.889	19.82
ややそう思う	度数	4	6	7	9	4	11	11	2	6	8	68
	%	13.79	21.43	21.21	20	12.5	22.92	37.93	13.33	25	17.78	20.73
どちらでもない	度数	8	7	7	11	7	10	5	4	6	15	80
	%	27.59	25	21.21	24.44	21.88	20.83	17.24	26.67	25	33.33	24.39
ややそう思う	度数	4	6	10	14	11	9	6	6	5	16	87
	%	13.79	21.43	30.3	31.11	34.38	18.75	20.69	40	20.83	35.56	26.52
そう思わない	度数	5	1	5	4	1	3	4	0	3	2	28
	%	17.24	3.571	15.15	8.889	3.125	6.25	13.79	0	12.5	4.444	8.537
合計	度数	29	28	33	45	32	48	29	15	24	45	328
	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Q13(1)結婚は何年前?												
	平均	8.158		9.5	4.75	8.346	1	12.4		8	3	8.964
	度数	19		26	4	26	2	20		13	1	111
Q13(2-1)子どもの数は?												
	平均	1.235		1.5	0.6	1.292	0	1.476		1.308	0	1.268
	度数	17		26	5	24	2	21		13	4	112
Q13(2-2)初子誕生は何年前?												
	平均	5.071		7.375	2	8		10.88		5.636		7.365
	度数	14		24	3	17		16		11		85
Q13(2-3)末子誕生は何年前?												
	平均	3.375		3.938		7.3		9.545		4.6		5.82
	度数	8		16		10		11		5		50
		現社a	現社b	社福a	社福b	教育a	教育b	心理a	心理b	文化a	文化b	合計
Q13(3)同居人(複数選択)												
ひとりで	度数	4	6	1	9	4	8	2	6	5	4	49
	%	14.29	25	3.03	20.93	12.5	19.05	7.143	42.86	20.83	10.53	
父や母	度数	5	18	7	29	3	31	6	8	7	31	145
	%	17.86	75	21.21	67.44	9.375	73.81	21.43	57.14	29.17	81.58	
兄弟姉妹	度数	1	12	2	16	1	21	2	7	4	14	80

	%	3.571	50	6.061	37.21	3.125	50	7.143	50	16.67	36.84	
祖父母	度数	1	5	1	6	0	6	0	3	1	1	24
	%	3.571	20.83	3.03	13.95	0	14.29	0	21.43	4.167	2.632	
配偶者	度数	19	0	26	4	25	2	20	0	13	1	110
	%	67.86	0	78.79	9.302	78.13	4.762	71.43	0	54.17	2.632	
子ども	度数	14	0	24	3	17	0	14	0	9	0	81
	%	50	0	72.73	6.977	53.13	0	50	0	37.5	0	
配偶者の父や母	度数	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	6
	%	10.71	0	6.061	0	3.125	0	0	0	0	0	
その他	度数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3
	%	0	0	0	0	0	0	3.571	0	0	5.263	
合計	度数	28	24	33	43	32	42	28	14	24	38	306

### 第三部 自由記入回答



Q14「生活の悩み」自由記入回答、入学年度世代別

生活の悩み	世代1	世代2	合計	
<分類コード1> 非正規の待遇問題、正社員になる困難・不安	5 7.81	5 8.62	10 8.2	世代1 90年度入学世代
<分類コード2> 仕事不適應、職場不適應、就職前と後のギャップ	0 0	4 6.9	4 3.28	
<分類コード3> 仕事のスキル、キャリアアップ、自己啓発	9 14.1	16 27.6	25 20.5	世代2 01/02年度入学世代
<分類コード4> 職場の性差別、男女格差	0 0	3 5.17	3 2.46	
<分類コード5> 過重労働、職場の人間関係	0 0	12 20.7	12 9.84	
<分類コード6> 結婚の悩み、シングル不安	2 3.13	1 1.72	3 2.46	
<分類コード7> 仕事継続と結婚の選択	0 0	2 3.45	2 1.64	
<分類コード8> 家事、育児、介護の悩み	10 15.6	0 0	10 8.2	
<分類コード9> 仕事と家事・育児・介護の両立困難	25 39.1	1 1.72	26 21.3	
<分類コード10> 再就職、復職、進路転換	16 25	20 34.5	36 29.5	
<分類コード11> 地域生活、生涯学習	3 4.69	1 1.72	4 3.28	
<分類コード12> 心と体の健康問題	1 1.56	2 3.45	3 2.46	
回答者数	64 100	58 100	122 100	

Q14「生活の悩み」自由記入回答、学科別

生活の悩み		現社	社福	教育	心理	文化	合計
<分類コード1> 非正規の待遇問題、正社員になる困難・不安	度数 %	1 3.85	1 3.03	2 10	1 5	5 18.5	10 7.94
<分類コード2> 仕事不適應、職場不適應、就職前と後のギャップ	度数 %	1 3.85	0 0	0 0	0 0	3 11.1	4 3.17
<分類コード3> 仕事のスキル、キャリアアップ、自己啓発	度数 %	6 23.1	5 15.2	6 30	5 25	4 14.8	26 20.6
<分類コード4> 職場の性差別、男女格差	度数 %	1 3.85	1 3.03	0 0	0 0	1 3.7	3 2.38
<分類コード5> 過重労働、職場の人間関係	度数 %	1 3.85	5 15.2	2 10	2 10	3 11.1	13 10.3
<分類コード6> 結婚の悩み、シングル不安	度数 %	0 0	0 0	1 5	0 0	2 7.41	3 2.38
<分類コード7> 仕事継続と結婚の選択	度数 %	0 0	2 6.06	0 0	0 0	0 0	2 1.59
<分類コード8> 家事、育児、介護の悩み	度数 %	3 11.5	3 9.09	1 5	3 15	0 0	10 7.94
<分類コード9> 仕事と家事・育児・介護の両立困難	度数 %	0 0	11 33.3	7 35	5 25	4 14.8	27 21.4
<分類コード10> 再就職、復職、進路転換	度数 %	11 42.3	7 21.2	3 15	4 20	12 44.4	37 29.4
<分類コード11> 地域生活、生涯学習	度数 %	1 3.85	2 6.06	0 0	0 0	1 3.7	4 3.17
<分類コード12> 心と体の健康問題	度数 %	2 7.69	0 0	0 0	0 0	1 3.7	3 2.38
回答者数	度数	26 100	33 100	20 100	20 100	27 100	126 100

Q14「生活の悩み」自由記入回答、職業キャリア類型別

生活の悩み	類型1	類型2	類型3	類型4	類型5	合計	
<分類コード1>	2	0	1	4	3	10	
非正規の待遇問題、正社員になる困難・不安	4.35	0	5.56	28.6	17.6		類型1
<分類コード2>	3	1	0	0	0	4	
仕事不適應、職場不適應、就職前と後のギャップ	6.52	4	0	0	0		正規・事務営業 販売他・転職なし
<分類コード3>	9	11	5	0	1	26	
仕事のスキル、キャリアアップ、自己啓発	19.6	44	27.8	0	5.88		類型2
<分類コード4>	2	0	0	1	0	3	
職場の性差別、男女格差	4.35	0	0	7.14	0		正規・専門技術・ 転職なし
<分類コード5>	5	3	2	2	0	12	
過重労働、職場の人間関係	10.9	12	11.1	14.3	0		類型3
<分類コード6>	1	0	1	1	0	3	
結婚の悩み、シングル不安	2.17	0	5.56	7.14	0		正規・事務営業 販売他&専門技術 ・転職あり
<分類コード7>	2	0	0	0	0	2	
仕事継続と結婚の選択	4.35	0	0	0	0		
<分類コード8>	4	0	0	1	4	9	
家事、育児、介護の悩み	8.7	0	0	7.14	23.5		類型4 非正規・専門技術
<分類コード9>	7	7	5	3	4	26	
仕事と家事・育児・介護の両立困難	15.2	28	27.8	21.4	23.5		類型5
<分類コード10>	17	4	3	2	7	33	
再就職、復職、進路転換	37	16	16.7	14.3	41.2		非正規・事務営業 販売他
<分類コード11>	1	0	0	2	1	4	
地域生活、生涯学習	2.17	0	0	14.3	5.88		
<分類コード12>	1	0	2	0	0	3	
心と体の健康問題	2.17	0	11.1	0	0		
回答者数	46	25	18	14	17	120	
	100	100	100	100	100	100	

Q14「生活の悩み」自由記入回答、ライフコース類型別(90年度入学世代)

生活の悩み	類型1	類型2	類型3	類型4	合計	
<分類コード1>	2	0	1	2	5	
非正規の待遇問題、正社員になる困難・不安	15.4	0	14.3	7.41		類型1 就職し非婚、仕事継続
<分類コード2>						
仕事不適應、職場不適應、就職前と後のギャップ						類型2 就職し、結婚・出産後 退職
<分類コード3>	6	0	0	3	9	
仕事のスキル、キャリアアップ、自己啓発	46.2	0	0	11.1		
<分類コード4>						
職場の性差別、男女格差						類型3 結婚・出産後退職、 その後再就職
<分類コード5>						
過重労働、職場の人間関係						
<分類コード6>	2	0	0	0	2	
結婚の悩み、シングル不安	15.4	0	0	0		類型4 その他
<分類コード7>						
仕事継続と結婚の選択						
<分類コード8>	0	6	2	2	10	
家事、育児、介護の悩み	0	35.3	28.6	7.41		
<分類コード9>	1	2	4	18	25	
仕事と家事・育児・介護の両立困難	7.69	11.8	57.1	66.7		
<分類コード10>	3	8	0	5	16	
再就職、復職、進路転換	23.1	47.1	0	18.5		
<分類コード11>	0	3	0	0	3	
地域生活、生涯学習	0	17.6	0	0		
<分類コード12>	1	0	0	0	1	
心と体の健康問題	7.69	0	0	0		
回答者数	13	17	7	27	64	
	100	100	100	100	100	

Q15「学部教育への感想・意見」自由記入回答、回答内容分類コード表

取り上げている項目	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	1	2	3	4
専門教育(ゼミ含む)	5	6	7	8
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)	9	10	11	12
キャリア教育(インターシップ含む)	13	14	15	16
課外活動、ボランティア(友人関係含む)	17	18	19	20
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)	21	22	23	24
女性の地位向上・キャリア教育	25	26	27	28
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	29	30	31	32
副専攻	33	34	35	36
教職員の資質、態度	37	38	39	40
大学ブランド	41	42	43	44
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)	45	46	47	48
その他	49	50	51	52

90年度入学世代の自由記入Q15回答数の分布(記入者67名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	7(10.4)		6(9.0)	1(1.5)
専門教育(ゼミ含む)	2(3.0)	5(7.5)	4(6.0)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)			8(11.9)	
キャリア教育(インターシップ含む)			4(6.0)	1(1.5)
課外活動、ボランティア(友人関係含む)	1(1.5)	1(1.5)		
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)	3(4.5)		2(3.0)	
女性の地位向上・キャリア教育	1(1.5)	1(1.5)	6(9.0)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)			1(1.5)	
副専攻				
教職員の資質、態度				
大学ブランド	1(1.5)			
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)		1(1.5)	4(6.0)	
その他		1(1.5)	1(1.5)	14(20.9)

0102年度入学世代の自由記入Q15回答数の分布(記入者86名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	9(10.5)	1(1.2)	2(2.3)	
専門教育(ゼミ含む)	7(8.1)	7(8.1)	8(9.3)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)	1(1.2)	8(9.3)	16(18.6)	
キャリア教育(インターシップ含む)	1(1.2)		3(3.5)	
課外活動、ボランティア(友人関係含む)				
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)			1(1.2)	
女性の地位向上・キャリア教育	1(1.2)		3(3.5)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	7(8.1)	3(3.5)	2(2.3)	1(1.2)
副専攻			2(2.3)	
教職員の資質、態度		6(7.0)	1(1.2)	
大学ブランド	1(1.2)			
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)			3(3.5)	
その他			1(1.2)	16(18.6)

現代社会学科の自由記入Q15回答数の分布(記入者25名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	2(8.0)		2(8.0)	
専門教育(ゼミ含む)	3(12.0)	6(24.0)	2(8.0)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)		1(4.0)	1(4.0)	
キャリア教育(インターシップ含む)				
課外活動、ボランティア(友人関係含む)				
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)	2(8.0)		1(4.0)	
女性の地位向上・キャリア教育	1(4.0)	1(4.0)		
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	1(4.0)			1(4.0)
副専攻				
教職員の資質、態度		2(8.0)		
大学ブランド				
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)				
その他		1(4.0)		2(8.0)

社会福祉学科の自由記入Q15回答数の分布(記入者36名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	2(5.6)		4(11.1)	
専門教育(ゼミ含む)	2(5.6)	1(2.8)	2(5.6)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)		2(5.6)	8(22.2)	
キャリア教育(インターシップ含む)			1(2.8)	
課外活動、ボランティア(友人関係含む)	1(2.8)			
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)			1(2.8)	
女性の地位向上・キャリア教育	1(2.8)		5(13.9)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	3(8.3)	2(5.6)	1(2.8)	
副専攻				
教職員の資質、態度		1(2.8)		
大学ブランド	1(2.8)			
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)		1(2.8)	4(11.1)	
その他				5(13.9)

教育学科の自由記入Q15回答数の分布(記入者39名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	3(7.7)		2(5.1)	1(2.6)
専門教育(ゼミ含む)	2(5.1)	4(10.3)	4(10.3)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)		3(7.7)	7(17.9)	
キャリア教育(インターシップ含む)	1(2.6)	1(2.6)	4(10.3)	
課外活動、ボランティア(友人関係含む)			1(2.6)	
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)				
女性の地位向上・キャリア教育			1(2.6)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)			1(2.6)	
副専攻			2(5.1)	
教職員の資質、態度			1(2.6)	
大学ブランド				
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)			1(2.6)	
その他			1(2.6)	9(23.1)

心理学科の自由記入Q15回答数の分布(記入者23名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育				
専門教育(ゼミ含む)			2(8.7)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)			4(17.4)	
キャリア教育(インターシップ含む)			1(4.3)	1(4.3)
課外活動、ボランティア(友人関係含む)				
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)				
女性の地位向上・キャリア教育			3(13.0)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	1(4.3)			
副専攻				
教職員の資質、態度			1(4.3)	
大学ブランド	1(4.3)			
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)			2(8.7)	
その他				8(34.8)

文化学科の自由記入Q15回答数の分布(記入者36名=100.0)

	肯定的評価	否定的評価	意見・提案	感謝、反省
教養・基礎教育	9(25.0)	1(2.8)	1(2.8)	
専門教育(ゼミ含む)	2(5.6)	2(5.6)	2(5.6)	
実技・実習・視覚教育(情報、語学含む)	1(2.8)	2(5.6)	6(16.7)	
キャリア教育(インターシップ含む)			1(2.8)	
課外活動、ボランティア(友人関係含む)				
女性教育・女子大伝統(女性らしさ)	1(2.8)		1(2.8)	
女性の地位向上・キャリア教育			1(2.8)	
履修制度(単位互換、展開・選択含む)	2(5.6)	1(2.8)	1(2.8)	
副専攻				
教職員の資質、態度		3(8.3)		
大学ブランド				
卒業後ケア(生涯学習、卒業生交流等々)				
その他			1(2.8)	6(16.7)

自由記入回答

学科	卒業 年度	Q14.回答 分類コード	Q14.(仕事、家庭、地域生活の悩み)自由記入回答	Q15.回答 分類コード	Q15.(人間社会学部の教育に対する感想、意見)自由記入回答
現社	94			21	社会的地位のある人の講演とかをもっとすべき(卒業生ではなく)近頃はお茶くみを断わる新人が多いときいているが、お茶くみが出来ず何が出来るのだ、という考え方を身につかせなければダメ。美味しいお茶を入れたり、タイミング良くお茶を出す女性は、知らず知らずに女性という最高の武器をもって仕事を評価されているのである。今の時代女性らしさは武器である、という教養も教育として必要と思う。
	94	8,11	互いの両親・肉親と離れて生活しているので子供が他人に対して引っ込みじあんになりがちな為、地元の親子サークルや、老人クラブなどに参加している(世代間交流)		
	94	10	仕事と育児の両立大変ですが、頑張っています。子供が小学生になると、仕事を辞めざるを得ないかなと思うのですが、職場(NHK)に再雇用制度ができてほしいです。	52	人間社会学部第1回生として学ばせて頂いたこと、大変誇りに思っております。成瀬賞を頂いた身ですが、仕事をしておりまして、在学中にもっと幅広く、死にもの狂いで勉強すればよかったと思います。自分のためだけに費やせる時間があるのは、大学生の内だからです。ありがとうございました。
	94	1	今年から新しい職場で施設長という立場になり、急に責任が重くなりまだ慣れられない。一方家庭では下の子が小学校入学を迎え、また宿題をみたり次の日の準備を手伝ったりと手がかかるようになって思うと気が重い。この3カ月子どものことがほったらかしになっていると思うが、自分の仕事のごとで精一杯というのが現状。解決のためには仕事に慣れることと、気持ちの切り換えをうまくすることしかないと思う。		
	94	10	現在は仕事をしていますが、子供にある程度手がかからなくなったらパートタイムでもかまわないが仕事がしたい。そのために、今のうちに役立つ資格を取得したいと思っている。		
	94	8	子どもの社会性について→地域の幼児サークルにて交流をもつ	26	女性論的な教育は古いと思うフェミニズムなど社会に出れば男性、女性それぞれの役割は自然に分類されている。男性にしかできないこと(力仕事、体力的にハードな仕事など)女性だからこそできること(気配りの必要な仕事など)男女の「質」を考えておいたうえで、社会進出してほしい。
	94	10	正社員でなくても、また、仕事をしたいと思っていますが、子供がまだ小さいこと、もう一人ほしいと思い、なかなか働くことができず社会とのつながりがないと感じることがあります。	3	職場でも家庭や地域でも一番大切なことは、人間関係だと思います。人と人の関わりを上手にできるような人になることが必要なので、そういった教育がなされるといいなあと思います。
	94	13	子育てしながら働いているので、その時々によって常にいろいろな悩みはありますが、自分の趣味を続けてストレスを解消したり同じような立場の人と話をすることで大きな問題にはなっていません。	25	男尊女卑の世の中に不満があり、女子大に飛びこみましたが、向上心のある友人たちとの出会いや、女性学など学生時代に学んだことが支えになって、結婚、出産などに左右されることなく今まで働いてこれたように思います。近ごろ大学では即就職に結びつく資格をとれるような教育が求められ、そのような学科に人気が集まっているように思いますが、そればかりではなく、一人の女性として一社会人としてしっかりとした考えをもてるような教育をお願いしたいと思います。また公開講座などのような地域開放をされているか存じあげませんが、卒業生に対しても、「女性の生き方講座」などを開いていただいたり、そのような情報を流していただけるといいと思います。
	94	13	仕事は本当に日々やりがいがある。上司にもめざましく日々新鮮に勉強できる。女子大の卒業生には配偶者の存在にかかわらず是非仕事を手に社会に貢献して欲しい。	21	女性で、女性だから経験出来る事にどんよくに動くいいと思う。世の中はその時にしか経験できない事にあふれている。自分の可能な限りでよいと思う。それを経験し、学ぶ事。そしてそれらを何らかの形で表に出していく事を、その方法を模索して欲しい。
	94	8	悩みという程ではありませんが、育児・子育てをしていると、いろいろなご家庭や、お子さんを見てみると、育児に対してや、育児をとりまく環境について考えさせられることが多々あります。そのため、学校や幼稚園等で企画される育児や教育に関するセミナーや講演をききにいたり、今後はそれに関係するような勉強もはじめたいと考えています。		
	94	10	数年後には再就職をしたいと思っているが、子供がいる＆協力してもらえない人(両親等)が近所にいないため、ハードルが高い。また、ブランク年数も問題である。再就職に有利になるよう、資格取得を目指している。		
	94	12	仕事では、とても業務量が多く(私だけではないのですが)年々体力が落ちていく中、今後続けていけるか不安を感じている。結婚したら続けることは難しいと思う。	1	大学の4年間は、実家を離れ、勉強はそれなりに、友人関係、サークル活動を楽しみ、とても自由で充実した時を過ごした。今の自分の人格形成にも影響していると思う。専門知識を学んで仕事に生かすことも大事だが幅広く、教養を身につけることも、学生の人生に深みを与えるのでとても大事なことだと思う。就職のことだけ考えた、専門学校のような大学にはなってほしくない。
	94	10	約2年後に職場が移転する為、その後どうすべきか悩んでいる。(現在の家からは通勤は困難な為)今後、転職に有利な資格をとるつもりだが、年齢もあり、どのような方向に進むべきか模索中。	5	生活史や女性論、人口学など、社会での状況を総合的に学ぶことができ、専門分野はとても充実していました。就職活動の際、公務員の講座や学芸員の資格等を勉強しておくべきだった。そして、他学科の授業ももっと受講すればよかったと悔やまれます。学生時代は時間がたくさんあるのですから、勉強やボランティア活動等も思う存分やるべきだと思います。社会人になってからはなかなか時間にゆとりがありませんから。

94	3	自分の関わっている分野(環境保全)の中での専門性に欠けると思うので何か少し専門性を高めたい。PhDを考えている	6	現社は学際的で良かったが、学際的な分野は時に専門性、というか“軸”が少し欠ける気がする。そのあたり、軸をしっかりさせつつも学際的な分野も学べるカリキュラムづくりが良いと思う。又、卒業性のネットワークを通じてインターン生など、どんどん送り出す制度(それを単位にする)を設けると良い。
94	10	現在育休中で春に復帰します。私の職場は男女の区別なく働ける所ですが、実家を頼らずに仕事と家庭の両立が可能か不安です。	50	学部の第1回生だったので、カリキュラムが未整備だったと思う。ゼミを活発な場として生かせなかった。これからの学生は教養プラス社会的視野を持ってほしいと思う。職業訓練や地域活動など、現場を見る必要があるのではと感じる
94	3	専門知識や資格がないと仕事を続けていくのは動かない。特に女性は。4月よりロースクールで学びます。	6	学問は人にとって大切なことだと思いますが、大学が学問する所なのか、職業訓練校なのかは難しい。学問はそれなりの覚悟がある人間にとっては有益だが、現状をみると学生の求めているものは職業訓練なのかも。実際、社会に出ると必要だし。
96	3	人事事務の仕事をしているが、労使間や労務トラブル等に対処する為の法律知識の必要性を感じている。将来のためにも資格取得が必要と考え、社会保険労務士の資格取得のための勉強をしている。	6	現代社会学科に在籍していたが、社会に出て「学生時代はどんな勉強をしていたの？」と聞かれた時、現社の範囲が広すぎて具体的に何をしてきたとハッキリ言える物がなく、口ごもる事が多い。もう少し焦点を絞ったテーマで、フィールドワークも混じえながら研究するようなスタイルがあっても良いのではないかなと思う。社会活動やボランティア等を単位として認めるなど見聞を広める意味で貴重な経験となると思う。
04	12	最初に就職した会社で過度な労働を強いられ、うつ病になりました。今でも服薬を続け、カウンセリングを受けている。	29	最初の現社の卒業生でした。教育学で先生と巡り会い、先生の助言で別分野の勉強をして、他大学大学院に行きました。学科間の壁が低いことは、現在美術館で専門職に就くことができた可能性を高めてくれたと思います。入学してから初めて知った学問分野の方に かれる学生もいると思います。勉強したい分野が変わったらそちらにも進めるよう流動的で自由な学部であって欲しいです。
04	10	仕事が自分の本当にやりたいことなのか、とても悩んでおり、何が自分にとって合っているのか今考えている最中であり、探している時期です。	6	職場の人から“学生の時、何学部？何を専攻してきたの？”との質問を何回もされました。現代社会学科で、これといって何を専攻した訳でもなかったのですが、答えられなかった自分が悔しくもありもっと勉学に励めばよかったと思いました。在学生には何か1つでも誇りに思える専攻をやり遂げてほしいです。日本女子大学はとて私にとって素敵な大学でした。皆さんを応援しています。
05	13	将来性、時間の有効活用興味のある分野を自ら学ぶ。時間、やりたいことに優先順位をつける。		
05	3	社会に出てからも身につけたい教養や知識がたくさんあり、「学びたい」と思っているが仕事も忙しくなかなかならざるを得ない。通信教育やスクーリング、卒業してからも学べる場所が増えれば……と思っています。	52	就職してまだ浅いですが、仕事を行う上で、大学の授業等を通して学んだ1つのものを多角的に捕え、現代社会を幅広くつかむための手法が必要になると実感しています。
05	10	大学院に進学して、キャリアを積みみたいと考えているが、仕事と準備が両立できない。	1,6	教養という面では、非常に充実しており満足していると思う。(特に、現社に言うことであると思うが)仕事で大学での経験が直接的に役立っているといえ、そうではないので、もっと実務的な授業があってもいいのかもしれないと考える。
05	4	就職活動をやりなおしたい。女子校、女子大と女子ばかりだったので社会に出て女性の差別をものすごく感じる事が多い。金融機関は本当に考えが古くさくてついていけない。一般職ばかりで就職先をみついていたが、後悔している。一般職なんて、所詮結婚までの腰掛けです。		
05	10	親から提示された、大学に進学する最低条件が「日本女子大」以上の偏差値のところのことだったので、自分の希望した将来のキャリアより、大学名を優先させました。1度社会に出て疑問を感じ、やはり18才のころの決断からやり直そうと思ひ、もう1度大学に入学して、自分の希望した学科で勉強しようと思っています。今は受験勉強中です。卒業後は定年まで働こうと思っています。	11	過去の自分がそうだったように大学で真面目に勉強すればする程職業観が育たなくなってくるので、専攻を増やすより1年のうちからインターンシップを義務づけた方がよいと思う。
05			1,5,10	人間社会学部で学ぶ一般教養は日常生活、職場で大変役立つものだと思います。少人数での講義など卒業してみても改めて思い出すと大切な時間を過ごしました。キャリアアップや就職を見据えた教育も必要性があるのかもしれませんが、それよりも一般教養や専門分野の時間(教授とたくさん関わられる時間)を大切にしたいと思っています。
05	10	自分が将来どのような働き方をし、どう生きていくのか一資格を取得し、それで食べて行こうと今は思っています。そのために、派遣で働いて貯金し、学校に通う予定です。一つの会社にずっと留まるのが合わないようなので、...	6	現社は“広く浅く”な感じだし、正直あまりまじめに勉強しなかったのですが、実務で役立つような知識は残念ながら身につけませんでした。ただ、大学での行事を通じた経験や色んな出会いは、今もこれからも私の人生の大切なものの一つです。
05	3	キャリアアップにつながる学習の実践。毎日、少しずつ読書(新聞、専門書、幅広い分野での事)知識の積み上げ。信頼できる友人、知人に相談。気分転換のため趣味的活動の拡大	7	少人数教育はとてよかったです。将来に直結する体系的学習を選択できるとよい、多くの分野の人と接する機会を拡大していただけるとよい
06	5	営業なのですが会社の異常な目標設定、過酷な労働時間に悩んでいます。法的にも不平等な感じだと思ひますが、上司や仲間にはめぐまれているし、仕事内容も成長にはやくだっていると考えているので中々口にだせません。やりがいを逆にとられていて、くやしいです。	5	卒論は本当に学ぶ楽しさを感じたし、もっと学びたいと感じました。ゼミで仲間と論じていた日々は今の職業でお客様と会話するのに役立っていると感じます。ゼミというものを充実させていくのは大事だと思います
06	3	パソコンが使えない。学んだ事を覚えていない。一もうちど基本から学習しています。		

05	3	百貨店内の勤務をしているので、想像以上に語学が必要。英語はもちろんアジアからのお客様が多く、大学時代にもっとしっかり勉強しとけばよかったと思った。		
05	5	仕事に関して、総合職(営業)として務めており、仕事としては大変勉強になることが多く続けていきたいと思っています。ただ残業(80h/月)であったり、ストレスを感じる事が多く、社会の厳しさを感じております。解決策としては、仕事にメリハリをつけ、早く帰る日をつくったり、ヨガなどをして心を落ち着かせております。	5	文化学科、先生のゼミで卒論を書きました。とても細かい指導をして頂き、また先輩方(大学院や就職している先輩)と交流することができ、在学中に将来の方向性について考える機会がありました。このゼミにいたからこそ、先輩方にお会いしたり、ゼミ旅行などで先輩の指導の経験をすることができました。この様なつながりを、もっと他のゼミでも行っていきたいと思います。
06			38	教授の質が悪すぎる。
06			52	勉強するにはとても良い環境だったし、人にも恵まれていたと思います。あの学校に行くと良かったと思っています。クラスなどあればもっと、いろんな人とも仲良くなれたかもしれませんが、ないのも、悪くなかったです。
06	5	対人関係のストレスを感じている。なるべく社内活動には参加するよう心掛けている。		
06			52	仕事でキャリアを積んでいく、あるいは社会で自立していくには、強い心と責任感が必要です。大学生活を通して、就業に必要なレベルの知識・経験を追求するのは非常に困難だと思います。大学教育で必要なのは、むしろ学問の追求、資格取得に力を入れるより前に、時間を守る、出席を厳しくする、学習時間の補助をする(図書館利用時間を増やす、本・資料の充実、食堂時間の延長等)など、忍耐力、向学心を養う教育ではないかと思えます。
06			30	目白との行き来がもっと楽だったら良かった。副専攻は習えて(学べて)良かったが他学部の授業ももっと受けたかった。(受けられる科目が制限されていたのが残念だった)
06	2, 10	仕事か思っていたのと違った。TOEICを受けて違う道に進む努力を始めるところ。	1	文化学科だったが、本当に幅が広がって良かった。英文と迷ったが、今ふり返ってみると文化学科で本当に良かったと思う。
06	1, 10	契約社員という立場。残業がほとんどないので、資格取得のため勉強に励んでいる。	38	勝手なお願いですが、教員側も学生の学習意欲が湧くよう努力してほしい。自由なのは嬉しいが、多少締めつけがあったほうが後々のためになると思います。
06	2, 10	仕事が終わらず病気になるし休職している。家事手伝い・資格取得のための勉強をしているその他気晴らしになること(旅行、映画鑑賞など)をしている。	11, 15	情報処理の教育に力を入れるべきだと思う。又、キャリア形成の専門的教育を科目に加えるべき。
06	5	・職場の人間関係・仕事内容に興味もてない。等悩みはあるが、せっかく就職したので、もう少しがんばろうと考えている。	1	大学での学習が直接今の仕事に活かしてはいないが、自分の興味のある好きなことを学べたことは幸せだったと思う。将来のキャリアに結びつく教育はもちろん大切だが、今、好きなことをたくさんある時間の中でやれることを学生に伝えていって下さい。
06	13	私は今、銀行員をしていますが、やはり、学生生活で学んでいたことがあまり生かせないというのが悩みです。大学では文化(特に西洋美術を専攻)を学び、また、女子大ならではのジェンダー論を深く学びとても充実した学生生活を送りましたが、実際社会に出てみると、あれだけ学んでいた性差の問題についての意識が薄くなってしまい、私自身残念に思っています。また、そのような社会にも違和感を覚えています。数年後、転職をするか、大学に戻り勉強するか迷っています。	52	先日、日本女子大学在学中の3年生から、企業研究として話を聞きたいと連絡がありました。事前のお手紙やお礼のメールなど、大変礼儀正しく、感心しました。日本女子大学の就職活動の指導や普段からの教育が大変行き届いているなあ、と思い、又そのような日本女子大学のOGとして誇りに思いました。今後も、何かお役に立つことがあればサポートしていきたいと思えます。調査の集計も大変だと思いますが、より一層充実した教育環境が整い学生たちが伸び伸びと大学生活を送れるように頑張って下さい。
06			1	文化学科で学んだことが、仕事で役に立ったということは、今のところまだありませんが、いろいろ広く学べたことは本当に良かったと卒業してから特に思います。
06	1, 10	仕事は現在、役所での非常勤職員ですが、とてもやりがいがありません。データ入力、事務処理などを行っていますが、職員には「非常勤は・・・」といつも馬鹿にされたような扱いをされ、責任ある仕事も一切任せてもらえません。おまけに理不尽なことばかり申す上司に、腹が立って仕方がありません。なので私は資格取得にはげみ、転職しようと思っております。次の仕事に役立つ資格を取るといふより、勉強しているしせいを見せるためにも、色々な勉強をしていきたいと思っております。	10, 11	授業の2~4限の間に資格を取れる授業があったら良かった。私は家が遠かったので、5限は出席できず、更に資格の講座のために生田まで来ることは困難であったので、上記のようにして頂けるとうれしかったです。
06	10	将来的に、現在の仕事を続けていけるかどうか。辞める辞めないに関らず、何かしらの仕事をしていきたいと思うので、役に立ちそうな資格の取得や、語学の勉強を考えています。現在は、休みの日に文化センターなどに通っています。	1	情報基礎などのパソコンを扱う講義はとても役に立っています。特にワードやエクセルは、初歩を知っているだけでも違うと思います。
06			52	本学は基督教の学校ではありませんが、基督教の授業があるとよいと思います。(学生時代基督教の授業があったらとりたいたと思っていました)
06			6	専門性が曖昧。大学は専門性を身につける場だと思う。外部の人に、何を学んできたかということ非常に説明しづらい。企業や、社会との関係が少なく、社会貢献という面からみれば不十分に感じていて、物足りなかった。

06			6	分野が幅広すぎると感じる(現代社会学科)
06	2	就職先の仕事にあまり興味が持てないが、その解決の為に何か行動を起こしているという訳でもない。		
06	13	仕事の悩みは同期と共有い合っ溜めないようにしています。		
06			38	アンケート用紙が自宅の方に届きましたので娘に代って(今、東京にいて同居していませんので)母親である私が記入させていただきます。娘は昨年、貴大学を卒業いたしました。卒業後、他大学の大学院を進学希望でありましたが、残念ながら受けませんでした。さあそれからが…。就活をしていなかったため困ってしまい、ワラにもすがりたい思いで、病弱な両親にかわって80才近い祖母が、上京し、貴大学の学生課に相談に行きました。ところが「それは大変でしたね」の一言だけで、具体的なアドバイスもどこかを紹介してくださるということもなくがっかりして帰ってまいりました。現実はこのようものかもしれませんが、貴大学の「就職について熱心」という案内を信じて他のいくつかの大学を止めて入学いたしましたのにこのような結果、対応の仕方には裏切られたという思いでいっぱいです。歴史のある大学、信頼していた大学だったのに、と思うと誠に残念でなりません。娘は「なんとか頑張ってみる」と今でも就活をしながら東京で派遣をしています。親は心配でありません。学校の就職率を上げるために、新卒の方には熱心に指導なさっても、ひとたび卒業してしまえばこのような冷たい対応をなさるのでしょうか。無念でなりません。
06	10	悩んでいることは結婚を控え、仕事をやめるか否かということ。お互い全国転勤がある職場なので家庭を持つことを考えると、やめることも考える必要ができた。仕事を通して得ている社会性や経済的な自立を失うと考えると先行が不透明で不安になる。そのために、現在は自分の興味のある分野で、専門的な知識、資格を身につけ、いつでも仕事ができるようにしようと考えている。	3, 7	大学として行うことは、情報提供だと思う。将来的にはこんなことが必要になるということを提供すること。大学のHPから、学生のページに入って、女性として生きていくのに役立つ資格の情報とか、海外で働くのに役立つ情報とか…。学生は大学生にもなったら自分で動くことを学ぶべき、大学が色々してあげることはなく、専攻分野やそれに伴う教養の講義のクオリティを上げることが大学としての本業だと思う。
06	13	スタッフ管理	38	学生に甘すぎる。
06			23	女性の生き方は、様々である代りに、いろいろ悩みも多いと思う。キャリアと子育ての両立は、難しいと思う。大学では、女性特有の体の機態を認識させた上で、職業プランを考えさせるべきであると思う。男性と女性が、同等であるというのは、違うと思う。この様な考えを持った時友人は大切なので、学生時代の友人交流は、重要だと思う。
社福	94	1, 10	1,6	新卒で、入社した会社を辞めざるを得なくなり、その後正社員の仕事になかなかみつからない。こんなにも人件費削減の時代が来るとは読めなかった。世間知らずであった。新たに資格取得をして頑張っています。
94			1	今は特に大きな悩みはありません。
94	8,11	子育てを経験して身をもって大変さを痛感した。実家が遠いことも有、また核家族化における孤立する育児環境等、子育て支援のあり方にいろいろ考えさせられた。それに伴い、男女の役割やジェンダー等にも直面した。その経験から託児付の市民講座の参加や、大学時代に挫折した保育士資格の取得をした。	13, 27, 47	私たちの時代と異なり、大学の早い時期から就職活動も始まり、適性テスト(エニアグラム)も導入されて就職意識も高いと思います。ただ女性の場合、結婚、出産を機に社会を離れることが多く、1つの仕事でどんどんキャリアを積み人もしれば、そういった変化の中で別の仕事や方向にすすむ人も多くいるのが現実です。専門性を求めるのも重要ですが、柔軟に対応できる能力も女性は大変かなと思います。また、少子化の中、社会人入学の人も今後増えるかと思いますが、そういった人たちとの交わりの中で、お互いが刺激されていくことを期待します。
94	3	福祉職としてキャリアを積んできましたが、昇進などのある職種ではなく、この先どのような目標を持って働き続けるかをいつも考えます。視野を広げていくために、研修などの機会や通信教育などの資料をいくつか集めているようにしたり、同じ職種の同級生たちと集まり、情報交換するようにしています。	47	同学科の同級生たちとは(数人単位ですが)よく集まっていますが、他の学科の横のつながりもそのような機会があると皆さんの活躍がわかって励みになるのになあ、と思うときがあります。学生時代からそのような関係が築いていけるとよいのかもしれませんが。
94	9	配偶者が転勤で、4月より単身赴任予定である。私は卒業以来仕事を続けてきたのでやめることはできない。子供2人はまだ小さく家族が離れて暮らすことがいいのか悩んでいる。	7	何か得意なこと・専門を持ち、それを様々な場で活かすことができたらと思う。活かすためには、リーダーシップを取る能力、説得力等を磨く必要がある。大学のゼミで、これらの能力を高められたらと考える。

94	9	仕事と家事育児との両立の難しさを実感しています。子供の行事や病気などで仕事を休むことへの理解がなかなか得られず気まずい思いをしています。その解決のために、普段まじめに効率よく仕事をするように心掛け職場の皆と仲良くできるようにしています。		
94	10	結婚出産後は社会とのつながりを感じる事が少ないと思います。今6才の子どもがおり、今春1年生になります。少し手が離れるのでこれから40才になるまでにこれからの自分の生きる道を考えようと思っております。	23	以前大学院に残った友人に話を聞くと私が在学中とかなり学生の様子が変わったそうです。今現在は存じ上げませんが一般的な普通のマナーが教室内で守られないこともあると伺いました。OGとしては、「女子大」としての価値も忘れずに、大学での生活をして頂きたいと思いました。
94	9	就労は続けていたが出産のためにプランクがあり年令の割にキャリアの蓄積がない仕事と子育てでどっちつかずである。下の子どもが手がはなれてきたので、今後のことを考えはじめていますが、具体的には決まっていない。目前のことで目一杯という日々です。	52	出来の悪い生徒であったが、あたたかく見守り支えていただいていた。特にゼミの仲間や先生とのつながりが今生きている。仕事をして改めて学びなおしたいと思うこともある。
94	13	現在、特に悩んでいる事はございません。健康、家族、仕事...全てが貴重で、なおかつ有り難く感謝の気持ちいっぱいになっております。	52	正直申しまして、決して模範的な学生ではありませんでした。しかしながら社会福祉学科で経験した施設での実習やボランティア活動は貴重な糧と自信になっております。また大学時代出逢った友人には、いまだに家庭面、社会面様々な場面で良く相談相手になってもらっています。有り難いことです。
94	9	特に悩んでいることは無いが、専門職としてのキャリアをどのように発展させていくかということを考えながら、一方で年令的にも出産を考えるべき時期にきており、今後育児と仕事を、どのようにワークライフバランスをつくっていくのか、考えどころではある。特に解決すべき問題以前の段階にある為とくに学習や活動はしていない。	3	正直なところ、もっと専門科目を実践的な側面から指導して頂けたらと思うこともあったが、実際にソーシャルワーカーとして現場に出て、実践を重ねる中で「ソーシャルワークの価値」や基本的理念などは、気づいたうちに大学での講義を通じて自らの中に、つちかわれていとも感じている。どの専門分野でも、実社会に出て役立つ、物の考え方や、表現の仕方、を身につけられる教育を続けて頂きたいと同時に「教養」としての学門も身につけることも必要だと感じる。
94	9	どうしても、育児の負担が母親である自分にかかってきてしまうため、育児・家事、仕事と全てバランス良く両立させていくのに苦労している。夫は夫なりに家事などやってはくれているが、子供の夜泣き、食事やお弁当(離乳食やアレルギー除去食)のこと保育園のこと通院(アレルギーで定期通院中)のこと、予防接種や風邪をひいた時の受診の対応などみんな母親まかせになってしまっている。ことある毎に、活力をうながしたり、やることを指示したり、父親(夫)教育につとめているが、なかなか自覚を持って自発的にやるレベルまで到達しない。	27	現在、福祉事務所母子や女性の福祉に関する業務(母子福祉資金、DV他)を担当しており、女性の地位向上のためには、女性が職業を持ち経済力を持つことの重要性を痛感している。しかし、日本では女性が生涯継続して、職業生活を選択しにくい風土、価値感が根強く、とすると女性の側面から望んで結婚や出産を機に職業生活からリタイアしてしまうケースがまだまだ多い。女子教育の必要があるとすればもっと女性自身が自立的に生きよう、自らも働いて社会に貢献し、それによって家庭内での平等も手に入れようという自覚をうながすような教育をすべきだと思います。
94	9	地方公務員になってこの4月で13年目、主任に昇任します。いわゆる「役場」がおおらかだった時代に若い頃を過ごし、すぐ「公務員らしくない」サービスをしたがる団塊世代上司と、ちやほや育ってすぐに休む精神力のぜい弱な20代の部下にかこまれ、せっかく公務員になったのに毎日サービス残業で子育てもままならない毎日を送っているのが悩みといえは悩みでしょうか。30代の職業人、主婦としては、どちらももうベテランでしかるべき状況ですが、そのどれもが、中途半端な、やつつけ仕事といった感じですが、でも、「自分らしさ」を出せる仕事だの「やりがい」を得られる仕事などといった子供みたいな事を言っている暇はないので、ひたすら目の前のことを片付けています。解決せねば!と思う余裕がないのが現実。	7	私が大学に入った頃は、まだ、大学は「受験後にひといきつくところ」でした。それがギリギリ許される時代だったかと思います。ただ、ちょうど1年生の頃に見ていた4年生たちの状況と、自分たちが卒業する時の違いがバブル頃遠く実感させてくれた時でもありました。これだけ時代が変化の中で、大学教育でしか、得られないものというものはあるのか、専門学校よりも、ここがすばらしいと言いつけるカリキュラムがあるのか、そして、社会人たりの卒業生を送り出せるのか、問えていくべきだと思います。女子大であること自体はあまり関係はないと思います。生かせるネームバリュー、ネットワーク、社会のイメージはこだわらずにどんどん利用すれば良いのではと思いますので、それに加えて学生が、これを学んで楽しいと思えるような教育を工夫すべきでは。若い人は、情報は多くもっていますが、一般社会の実情を、あまりに知らないと思います。大学は本来、学びたい人が来る場所ですが、入ってくる人たちの実情が違えば、それに対応した教育も必要でしょう。娘を持つ親として、母校を、すすめられる所になってくれればうれしいです。
94	8	・現在、海外にすんでいるので、子供の教育etc(英語での勉強)に苦労しています。自分自身、全く英語がはなせず、地元の子供の力(ex話し相手やクラスのボランティア等)になれずはがゆい思いをしています。ESLで、勉強するよう努めているものの、日々におわれおいつかないのが現実です。		
94	9	子どもが小学校入学しますが職場での責任も重くなり、どうしても時間的余裕がなく、そのしわ寄せが子どもにってしまうのが悩みです。		
94			3	講義より、年分でテーマを見つけて勉強する習慣を身に付けさせる教育が必要。そのためには、もちろん基礎学習がとれていることが条件となるので、それらを高校時代に身に付けた学生を入学させるべきである。女性としてかような性を理由とした教育より自主性を重んじる教育が必要。
94	13	特に「悩み」というものは無い。今は、子育てに追われる毎日で、社会活動をする余裕がなく、自分の時間を作ることが大変である。	5, 17	家庭内、社会地域で役に立つ。特に企業社会で役に立つかどうか、ということばかりに、焦点を置かないで欲しいと思う。私自身、学部生の時の学問と仕事内容はほとんど接点が無かったが、仕事への取り組み方、人間関係の築き方など大学時代の学問、サークル活動、ボランティア活動等が基礎となっていると思っている。
94	13	自分が、必要とされまたこれまで培ってきた経験が生かせる職場や人達と出会えることを願っています。	3	人間社会学部に限ったことではないと思いますが、また一概には言えないこととは思いますが、「大学で学ぶこと」と「現実」には、ややひらきがあるのではないのでしょうか。しかし、人としての基礎を大学で身につけることは、大切だと思います。
94	9	パートをしながら、子どもを幼稚園に通わせているため、職場でも保国会でも立場が中途半端で対応に苦慮することがあります。	46	卒業生とのつながりが感じられず就職活動や業種のネットワークづくりに不利を感じました。
96	9	子育てと仕事の両立学校等の行事が多い仕事もどしどし任されることが多くなり、大変		

96	8	実家の父の体調が良くなってかなり精神的に参ってます今まで頼りすぎてた分これからはがんばっていかないとはいけません		
96	3, 9	<仕事>仕事の今後について大学院にて組織学や心理学を学習中。<家庭>子育てや夫婦関係のあり方など日々毎日子供や家族より学習中。迷った際には両親、親せき、園先生に相談。<地域>あまり知人がいないため、悩まない。(逆に気が楽)	27	学科の壁をこえた履修制度や、他大学との単位取得制度など私が在籍していた頃よりも、より柔軟な学びができるようになってきている環境をとてもらうやましいと感じます。女性の場合、結婚、出産により激的に変化する人生設計は学生時代には予期してありませんでした。将来をみずえたキャリアプランの学習を学生時代にもう少し強く意識できていたならと思う今日この頃です。学生時代、女子大で出逢った有能な友人が、結婚、出産を機に家庭人になってしまわざるを得ない現実に、非常に残念な
04			11	PC等の授業がもっとたくさんあってもよかったと思う。
04	4	どんなに大学時代に学習して知識があったとしても“権力”(いろいろな人組織)にのまれてしまうことを残念に思っています。それに対抗する方法を学んだにもかかわらず機会を作っていない自分にも残念に思うことがあります。	27	上記述べたことは、これから大学生活を終えた人材が経験していくことだと思います。強い心を育てる知識を育てていってもらいたいと思っています。
05	10	現在の職場が廃止されなくなってしまう。→大学で学んだことを生かせるような職をネットやハローワークなどで探している最中。	11	専門職に就くことと考えていたので語学は全く関係ないと思っていたし、大学でも他大学と比べて全く厳しくないと感じていたが、社会に出てこんなにも英語が必要とされている現状に、驚いている。福祉の現場でも英語は話せるにこしたことはないと感じている日々なので大学でもう少し充実しているといのでは？と感じる。
05	5	職場では専門職として働いておりますが、人員不足により残業が多く、業務量も多い状況です。業務の効率化をはかる為、大学時代の勉強を見直し福祉制度をもう一度見直すようにしております。		
05	13	・福祉施設等、社会資源が少ない自分のキャリアをつむ		
05	10	結婚、出産を機に仕事をやめたが、今後仕事は始めたいと思っている。しかし夫の転勤、保育所など仕事をするために解決しなければならない問題が多い。役所に通って情報収集に行っている。		
05	5	自分は今、正職員なのですが、ベテランの非常勤(女性)の方から、何かといじわるをされます。以前働いた所は、女性が多く、大卒という理由で嫌味等言われたこともあります。	11, 38	・社会福祉士の国家試験対策の講座があるといいと思っていました。・就職課、学務課など冷たい対応をされることが多く、行くのが嫌でした。
05			11	もっと資格取得に力を入れて欲しい
05	10	今後も福祉の分野に携わっていくことが、自分にとって向いていることなのか、一生の仕事にすべきものなのか、と悩んでいました。少し職を離れてみると、やはりこの道で生きていきたい、と思えるようになりました。		
05			31	五大交流学习をもっと活発にすべき。(早稲田大等)色々な人と触れ合う絶好の機会。
05			3, 7, 11	・一般教養の充実・語学教育の充実・現場で役に立つ教育内容(社会福祉)
05	13	何か困っても、自分で自由に動ける状況(健康状態、家族の状態等)なので、知人・友人に相談したり、自分で調べ解決方法を得ることができています。	30, 10, 41	私の記憶が確かであれば、年間の履修登録単位数が48単位、という上限があったと思われます。4年間バランスよく履修するようにという説明だったと思います。この上限はとりはずしていただきたいと思います。私が高校時代に日本女子大学を受験しようと思ったのは社会福祉学科があったからですが、他大学にも社会福祉学科があります。その中で日本女子大学人間社会学部を選んだのは、学部の中に現社、教育、心理、文化と自分の興味のある分野の学科があったからでした。現社や文化は幅広い教養として、教育や心理は社会福祉とも関わりが深い分野として、大学時代も興味深くそれらの授業を受けましたし、卒業した今も大変役に立っています。他大学の社会福祉学科もそれぞれ魅力をお持ちとは思いますが、私としては、文学部の中の社会福祉学科や、キャンパスが(教育学科や心理学科)離れて存在している社会福祉学科よりも、1つのキャンパス内に関係する他領域が存在し、それらの授業を受けられる日本女子大学の方が魅力的でした。しかし、入学してみると上限48単位があり、残念に思いました。大教室であれば聴講することもできましたが、そうでないことが多く、登録しきちんと受講したくてもあきらめなければならないことが多かったと思います。それから、社会福祉学科における社会福祉士受験資格のための実習についてですが、必要最低限の実習しかできなかったことも残念です。卒業し、現在他大学の社会福祉学科を卒業した方と交流があり、学部時代のことを話している中で、日本女子大学は比較的実習経験、回数が少ないと感じました。(特に私が在籍していた頃は病院実習についてそう感じました)実習先に学生が見つかるにしても、実習中の授業の扱いや、実習指導なども配慮がサポートがあると良いと思いました。また、社会福祉士と精神保健福祉士の両方を取得することに対しても、どちらか一方にしてほしいという先生方の考えも学生にとっては圧力でした。今思えば両方の受験資格を得られると入学案内内ではうたっていたのに実際は...と思います。最後に社会人になってから、私が思っていたよりも日本女子大学という大学名が有利に働くことがあり、これまで卒業された先輩方には感謝しております。また、有名であったりお忙しい先生方でも、授業はきちんと御本人が担当して下さいましたことにも感謝しております。
05	9	子どものいる女性が何人か一緒に働いていますが、急に休まなければならない時があるので上司が(女性であっても)冷たいと感じます	29	他の学科の授業が受けられるのはとても良いと思います。

05	13	・職場以外での専門分野の学習の場の確保・人間関係を広げるための機会の充実→先輩等周囲からの情報やインターネットの活用により、興味のある勉強会やシンポジウム等を探して参加する。・仕事以外に興味を持てるものに参加し、いろいろな業種の人とも知り合うようにする。	47	卒業生が気軽に集まったり、勉強したりできる機会があるといい。在学生と卒業生の縦のつながりが思ったより少ない様に感じる。
05	5. 3	仕事、教育者として保護者と関わらざるをえないが難しい方も多くいて、良い対人関係を築くことが困難→私生活での思技や同業者との内話でストレスを軽減している。子どもの問題(知能発達共に、障害?と思わせるような気になる子が多い)→多くの関連書物を読む社会福祉の取得	52, 29	・大学時代は、勉強よりもバイトや友人との遊びに熱中してしまっていました。振り返ると、取っておけばよかったな...と思う講義がいくつもあります。人間社会学部の講義内容は実際社会に出てからも役立つ物ばかりなので、これからも大切にしていってほしいです。・副専攻で行政コースが出来たと知りました。私が4年生の頃ダブルスクール(公務員予備校)していたのですが、このコースがあったら、大学でも慣れない行政用語に触れることができたので、今思うとうらやまやましいです。
05	10	スキルアップの為転職を考えておりハローワークで職探しをしている。		
05	5	・職場内での価値感に違いがあること。→第三者から客観的な意見をもらう。・上司の意見に従う。(大学では教員の意見のみが正しいという授業が多かったが、色々な考え方があるというのを知らないと社会に出て大変です。)	29	どんな考え方も賛否両論あって選ぶのは自分だということを学べると思います。他学科の基礎科目などが履修できるのはとてもいいと思います。
05	7	就職して2年が経過しようやく仕事に慣れましたが、この先このまま今の仕事をしていくか、別の選択をするか迷っているところです。解決のために何かしていることもなくただ忙しい毎日が過ぎていく状況です。	11, 47	私は社会福祉学科卒ですが、就職したのは福祉関係ではなく、損害保険会社です。今の会社には満足していますが、大学で学んだことも活かして福祉関係の仕事をしてみたいという気持ちがあります。学生時代に福祉の職場体験などの機会があればよかったと思います。学ぶだけでなく、学んだことを活かして働けるように福祉学科として就職のフォローがあると学生は心強いと思います。
06	11	今まで住んだことのない土地に住み働いているためその地域を知るために、その地域の検定(観光などの)を受験したりしている。	10, 30	社会福祉学科で、1年目に習った介護保険制度が卒業時には改正が決まっていたため、そちらの方の知識も欲しかった。大学4年間といっても1, 2年目ほとんど授業をとってしまし、3, 4年目向けの授業は少なく後半はとりた授業がなかった。中国語を3年間やったのに4年目は授業がなく残念であった。勉強したいと意欲のある3, 4年生向けの深い学習ができるものとかがあればと思う。ゼミと卒論だけというのは、少し物足りなかった。週2, 3日だけの2年間は、学費がもったいないと正直思っていた。
06	5	総合職としての仕事がつき、今後キャリアを積む為にこの辛さに耐えるべきか、はたまた事務の仕事等に転職しようか悩んでいます。現在は、正社員として総合職として働いている人、事務職で働いている人、派遣社員として働く人、いろいろな方からの仕事についての考え方、働き方を情報収集しています。大学時代は、女性もバリバリ働かなくてはと思いましたが、体力面等考え方と世の中そんなに甘くなかったです。	27	就職活動時に、卒業生の生の声を聞ける環境があるのはいいことだと思います。私は「小室淑恵さん」という卒業生の講義を聞いて非常に憧れ、仕事と家庭の両立を目指したいと総合職の道を選び社会の荒波にもまれて悩んでいます。世の中はまだまだ女性が仕事と家庭を両立できるシステムが整っていないと実感しています。問題解決の糸口が見つからず苦しい思いをしています。この新たな「問題をどうにかしたい」と思うのは小室さんに出会ったからだだと思います。女子だからこそ「女性がキャリアを積む為とそれに伴う壁書」をもとに学生が考えるような教育が必要だと思います。
06	7	遠距離で結婚を前提に付き合っている相手とお互い仕事の都合でなかなか会うことができず、転勤願いを出したが通らなかったため、社員を辞めて向こうへ行こうと考えているが、家族や友達と離れて一人で東京から九州へ行くのが少し不安であり決心がつかず悩んでいる。		
06	3	社会福祉学科にて学び、専門職に就きましたが、大学での教育のみでは、専門職と名のれる程の知識、技術、専門職としての価値、倫理等が身につけていないので(資格取得のための勉強や大学のカリキュラムを現在に活かせるような学び方を自分自身でできなかった)研修等に参加し基本から学びなおしています。		
06			52	私は卒業後司法書士事務所勤務し、多重債務による貧困問題などに取り組んでおります。先日、たまたま職場に置いてありました「貧困のわな」という雑誌にて先生の講義を拝見することができました。大学の講義で学んだことが多重債務に陥ってしまう社会システムのあり方について考えさせられる現在の職業生活に大変役立っています。
06	3	大学で学んだことと現実(仕事のプロセス)には大きなギャップがあります。福祉の観点で日を追うごとににぶる気がします。定期的に資格試験をうけたボランティアに参加することで、大学時代に学んだ感覚を忘れないようにしています。	5	相手の立場にたつて物事を考えること、無条件に人を受容することなど大学では様々な講義をおして感覚・感性をみがくことができたと思います。人と接する仕事をする上で、信頼関係の構築や円滑に話をすすめるなど大いに役立っています。このノウハウがもっと地域社会に開放されることを望みます。
06	13	・大学で学んだことを生かせなかった	11	・学科を問わずに、もっと語学に力をいれたほうが良いと思う。(英語、日本語共に...)・授業中うるさく、(授業をしっかりうけるという)基本的なことができている生徒が多いように感じた。
06			25	在学中に受講したキャリアに関する授業はとても良かったです。その授業では、現在の経済の状況や卒業生の人を呼んで、仕事の話しを聞いたりしました。そういった授業は就活する上でとても参考になりました。そういった講義にも少し力を入れてほしいと思いました。

			復職するかどうか、またその時期について今後の流れが気になっています。仕事したい時やする必要性が生じた時、可能な限りスムーズに移行できるように、専門書での独学や雇用情勢の把握(情報収集等)に務めています。	52	現在専業主婦であり、本学卒業後に就職はしていませんが、日々の生活において大学での学びが役立っていると感じています。私は「社会人入試」で入学したので、それに触れて頂くと、他大学に比較して早い段階からこの方法を行ったとパンフレットで読みました。新しい取り組みを積極的にスタートさせる姿勢は、本学らしいと思います。個人的ではありますが、感謝しています。伝統を大切にしながらも、開拓し前へ進んでいく教育スタイルをこれからも続けて欲しいと思います。
06	10				
教育	94	13	ずさんな家族関係の広がりにより危険女性の家庭でのあり方について考え、学んでいる。	14	大学のネームバリュー(実際優秀な学生が多いが)社会に入る時に名門出なので仕事も優秀と思われとても期待されて入るが、実際キャリアを積んでいない人素人に結果を求められて大変きつい感じがする。入社当時から他の同期よりも重い仕事を任せられることが多く、その期待に応えようとしてつぶされてしまうものに悲しく思う
	94	9	子供を将来的に持ちたいと考えているものの、ふだんの仕事が忙しく、なかなかタイミングがなく、仕事と子育ての両立の難しさに悩んでいる。	6, 7	ゼミ以外では受け身の授業が多く、社会に出ると苦勞が多くなるので、発表、討論等の形式を取り入れると良いと思う。
	94	13	海外での生活のため適応すること。	7, 11	語学への重点、また議論する能力を培うこと、経済、社会への実践的な知識・認識を向上させること
	94	9	社会人としては中堅の世代に突入しています。上にも下にもはさまれる一方で近年の人員計画によるひずみ・あおりを受けている世代です。いかにワークライフバランスをとるか、ONとOFFの切り替え、人間関係については日々勉強です。	11	企業は即戦力を求めている一方で、ヒューマンスキルに注目しています。この10年の不況による採用控えのツケか、理論と実践のバランスの悪い人が増加しているように思えます。男性に比べると、女性の方が柔軟性はあるものの、感情的であることも否めません。大学=就職するため、に促われているように見受けられるため、そうではない教育を希望します。
	94	9	専門職(自由業)なのですが、一度クライアントが付くと仕事を放棄できないので、出産の機会を逃してしまいました。夫も仕事が忙しいのですが、何とかあと1, 2年の間に1人は子供が欲しいです。	52	まず、女性の平均寿命は85才なので、大学までの22年間は人生における序章にすぎない訳です。私は大学で教育実習を終えた時点で小学校教諭になることを止め、現在の職業へ進む道を選びました。けれど、その畑違いの経歴もクライアントとの話題の一つになったり、自分の人生を豊かにしたいと思います。大事なことは自分(学生)は勿論、教育の場にいる全ての方々(先生、スタッフ)が一生懸命生き、目標を持って人生を歩み、切磋琢磨していくことではないでしょうか
	94	13	現在育児休業中で、時間に余裕があるため、特に悩んでいることはありません。ただ、復帰後はバタバタと慌ただしくなることが予想されますので、今のうちに読書などしたいと思っています。	3	公立小に勤務しています。教員としての色々なセンスは他の職業と同様、職に就いてから身につくものと、それ以前に人間形成上での身につくものとの両者を兼ね備えていなければなりません。正規に採用され不適応を起こし、離職する新採者が後をたちません。ぜひ、在学中に教職を心から希望している学生には現場に入るシステムをどんどん発展させて下さい。(ただし、目白校舎?の学生で文京区内の小学校に入りそのまま採用になっている人たちはあまり評判がよくありません。よく学び、よく遊べの後も大変必要です)真面目なだけの学生生活ではなかなか乗り切れないことも出てきますね。
	94	9	夫の転勤のために自分自身のための落ち着いたキャリア形成ができない。大学院まで学んだ専門性や学生時代(結婚前まで)に行ってきた社会的活動がほとんどできず、自分の半生は何だったのだろうかと感じる。このようなことから、学生時代にした専門的学習は無駄だったのではないかと思うことがよくある。子育て(子どもの将来)に対する考え方も大きく影響してくるようになる(一生懸命勉強してもしよせん無駄、というような)	15	卒業生のキャリア形成についての実態を現在の学生にも広く明らかにし、(成功例、うまくいかなかった例、満足・不満足の両面を)将来についてしっかり考える機としてほしい。
	94	9	3人目の育児中。育児が3年に伸びたが、保育園等の受け入れ体制はととのっていない。子育てしながら働くことに困難を感じます。	6	小学校全科をとりましたが、特に専門というものがなく、自分の中で自信がもてない部分はどうしてもあります。小学校でも専門はもつべきと考えます。
	94	8	現在、育児を取っておりますが、ずっと会社での仕事ばかりしてきた為に仕事に行かずに地域社会や家の中での役割をどのように分担していくべきか悩んでいます。(退職後のお父さんの気分ですわ)親とずっと同居しているので、「子供としての自分」と「親になった自分」がうまく受け入れられないでいます。一慣れが大切とゆっくりに受け取っていくつもりです。	4, 15	卒業して10年以上過ぎ、学部も先生、職員、関係者の皆様様の御尽力で一層充実していることと思っております。現在私が痛感しておりますのは、自身では学生時代にもっともっと幅広い教養、見聞、雑学を身につければ良かった...という反省と、学校では就職に対する(社会生活に対する)意欲喚起の機会がもっとあれば良かったのという点です。自らの認識の甘さを自覚すること数年です。どうぞ大学が「素晴らしい人材が揃った守られた場所」であることを学生の皆様に認識して頂き、社会の荒波に乗り出す準備を十分にして、また学生ならではの楽しみも存分に味わい、後々後悔などしないよう示唆して頂ければ、と思います。素敵な先輩たちと一緒に仕事ができる日を楽しみにしております。
	94	9	昨年に出産を経験し、子育て中ですが、子育てしながら仕事をする難しさを実感しています。社会の受け皿ができていない。小児化対策の遅れを実感しています。時短勤務で給与が減っていますが、将来的に自分で起業できないか試行錯誤中です。	52	Q2に出産しても仕事を続けているという選択肢がなくておどろきました。
	94	10	現在妊娠中で3月末で長く働いた職場を退職予定。出産後、職場復帰できる環境が整っている所は案外少ない。公務員ならまだしも、民間で働いている人は、親の援助(手助け)がなければ離職せざるをえない。せっかく長く働いても出産を機に辞めて、また改めて就職しても、2人目を出産となると再び離職...。女性には厳しい世の中だと痛感する。		
	94			52	人間社会学部の1期生だったので、学生数が少なかったため、先生方とのコミュニケーションが密で、学生間の交流も多く、満足できる4年間でした。特に教職をとるための授業は充実していて、念願の教職にもつくことができました。これからもそのような雰囲気がつづくようにと思います。

94	1, 6	結婚はしておらず派遣社員(低賃金)という経済的不安定のなかで自分の生活をいかに充実させるか、それが今一番の悩みです。賃金が低くても、やりたい仕事を選び、ストレスを少なくすること、そのかわりにはでな生活はできない。そのバランスをとるよう、節約しながらも内面の充実をはかっている。読書や料理、公園での散歩など。海外旅行や買い物などは今はガン。これからずっと続くのかも...	19	大学で学んだことは具体的にはあまり覚えていない。直接的に関係ない仕事をしているからか。唯一“共同奉仕”これだけはいつも心に浮かびます。大学生生活では同じ位の学力、生活環境や考え方も近い人の集まりで(4年間でそうなるのかも)、特に人間どうしてぶつかることもなくゆるま湯のなかで過ごしたような気がする。しかし世の中は、自分では思いもよらないような事や人がいる。とても他人を傷つける人もいるし、常識のない人、悪意に満ちた人、努力だけでは認めてもらえないこと。大学を卒業してからはつらいことが多かったように思う。人間社会学部には、卒業してから社会や生活で強く生きて行けるような教育をして欲しい。私の大学四年間は(人間)と(社会)の勉強であって(人間社会)の勉強ではなかったのかも
94	9	私は小学校の教員をしていて、今は2人目の育休中です。教育にたずさわる仕事をしているのに、仕事が忙しくて我が子には充分接する時間も教育する時間も足りないことが大きな悩みです。(今は育休中なので大丈夫ですが。)育休は最大の3年とって、子どもにとっても私にとっても有意義な日々をすごしていますが、復帰したらいろいろ心配です。女性が仕事をすると、いくら平等とはいえ、育児と家事の大方は女性が負担することになるし、子どもが病気になることあずかってくれるしせつはないし、女性の負担はかぎりなく大きくなります。		
94			47	卒業後にも(大学に行きやすい環境大学との交流がある環境)を作ってもらいたい。
94			52	社会人入学の一期生ですが、日本女子大での学びはその後の進学・就職への大きな力となっています。本当にありがとうございました。初めての就職は満56才。人はいくつになっても可能性が拓けることを女子大で学びました。
95			3, 27	プラスの考え方をたくさん得ること。経験から得る、話から得る。なんでも良い。女性であると、いつかは仕事より家庭・子どもを優先しなくてはならない葛藤があります。私も仕事が好きで、妊娠した時、葛藤しました。教員という仕事はその点、恵まれている点もありますが、常に「やめるべきか、続けるか」のかけつづです。保護者からなんと言われてもくじけない。まわりからひどいことを言われてもくじけない。それは、プラス思考から生まれます。私はたとえ1年でも、何ヶ月でも保護者から「この先生でよかった」と言われるようになりたいと日々、鍛錬しています。又、分野以外で活躍することも大事だと思っています。学生のガイダンスを充実させること、専門以外にも視野を広げ、知的好奇心を持ち続けられるためにも、大学教員の充実を願います
96			1	Q1のSQIに関連して、90年度入学でまだ副専攻制度はなかったが、副専攻に近い「日本語教育講座」を受講し、今の職業を選ぶきっかけとなりました。これからの時代はますます「多領域横断型」の「ものの見方」が重要になると同時に、大学教育では実務的なものに流されず、アカデミックな教養を通して「ものの見方」を広げることが、どのような進路であっても、卒業後の人生に役立つと思います。90年当初から、5学科を横断して受講できた人間社会学部で学んだことは、私の卒業後の生活の大きな財産となっています
06	3	就職してまだ1年ですが、転職を考えています。技術が周りについていけないことが1番の理由です。ピアノに通っていますが、他の仕事も沢山あり追いついていません。大学時代にもっと専門的な部分を学び経験しなかったことが悔まれます。あと、1人暮らしでの幼稚園教諭というのは、かなりのリスクであることを痛感します。やめた方がいいですね。	10	実習、実技をもっと充実させてあげて下さい。回数が少なく、その分短大卒の子と比べると経験も少ないため、仕事を始めてから大変です。ピアノをもっと長期間必修にすべきです。(弾けない子は本当に大変です!)保育に関する実技を増してもらいたいです。製作や手遊びなど。大学で学んだことは自分にとって大きな財産となっていますし、とてもいい思い出です。ですが、実技面に関してだけ、このままでは後輩たちが私と同じ思いををすると思うのでぜひお願いします。
06	13	社会人としての生活がはじまったばかりで、悩みやわからないことはたくさんあります。先輩方に指導していただいたり、同期の子と助け合ったりしながら1年を過ごしました。それらを解決するために学習したり活動したりするのは、これからの話だと思います。	15	大学での学びと現場で働くということの間には、大きな差があります。大学生活の中でもっと多く、現場の空気に触れることのできる教育や機会の提供があればうれしく思います。
06	3	幼稚園へ就職をして、もうすぐ一年になりますが、少し、教育方針についての違いについて悩んでおります。子どもたちとの日々を楽しみながら、少しずつ解決策を探している状況です。	1	社会に出て、人間社会学部の教育は、女性として、又、一職員として、とても役立っています。教養ある女性をどんどんと社会へ進出させていきたいと思っています。
06			31, 13	教育学科で免許を取る人は特に1年生からわけもわからず専門の勉強だったので1年生の時是一般教養をもっと増やし、2年生から専門に入れば良いなと思う。「ライフスタイルとキャリア形成」という講座で、本女卒の働く女性がどのように働いているか、大学時代にどんなことをしていたか話して下さったのがとてもためになった。就職課程指導室に退職された校長先生がおこしになり、現場のお話を実際に聞いたりご指導頂いたのが本当によかった。
06	3	仕事のこと。学級(小3)がなかなかまとまらない。子ども、保護者とのコミュニケーションが難しい。自分の授業力をもっとつけたい。)毎日を精一杯生活するのみ。		
06	13	地元に戻ったので職がない。		
06	13	教員(小学校)なので、教科指導、学級経営力が求められています。それを磨くために、日々、書籍を買ったり、職場以外の研修に参加したりしています。	11	教員の生活に役立つ、学級経営の方法や教科指導のノウハウを聞ける(畜積する)場が欲しい。授業としてあったら、とてもよいと思います。講師は、小学校の教員か、教員経験者がよいです。(教科の教材研究は、科目によっては現職の小学校教員の方が受け持っていて下さっていて、とてもよかったです。)(実際に現場に入ってから、すぐに必要になるので)
06	13	仕事については、同職の先輩に話を聞き、多くの方法、手段を学んでいる。		

	06			7, 11	教職の免許は取れるが、いざ勤いてみると実際に現場で使える専門知識に欠けていることを痛感する。専門すぎないことが、日本女子大の教職分野の良さだと思っているので、ちょっと気になった点として書き添えていただきました。
	06			10	人間社会学部の教育学科で、幼免を専攻していたが、他学科等幅広く学べて良かった。しかし、実際に幼稚園教諭として勤いてみると、短大に比べて実技が少なく、直接就職の内容とはあまり関係がない授業が多かった。
	06	3	日々悩んでいます。(仕事のことで)家族や同僚、教育学科のE相談などに相談しながらのりこえています。	52	教育学科で出会った仲間、先生方に感謝しています。特に先生と出会えたことはとても大きなことです。これからも後輩達が素敵な仲間、先生方と出会うことを願っています。
	06	13	卒業後、川崎市の小学校に勤務しています。初任で、とても忙しい毎日でしたが、子どもたちやまわりの方々に恵まれ、とても充実した毎日を送ることができました。この一年に、特に大きな悩みを抱えることはありませんでしたが、少しでも気になることや心配な点がある時には、職場の先生方や、友人、両親.....に相談をして、考えやアドバイスをしてもらうこともありまし	52	日本女子大で過ごした4年間は、とても充実した毎日でした。教育学科で教職について学び、現在公立小学校でステキな毎日を送っています。大学でのきめ細かな授業と、先生方のご指導、沢山の友人との出会いに、感謝しています。(今でも時々、友人や大学時代の先輩、同じ職に進んだ方と集まる機会があることは、心づよく嬉しいことです。)
	04	13	今年で25になります。私は地方から出てきており、古郷には両親がおります。私が年をとれば、両親も年を取る。当たり前ですが、ふとした時、地元に戻りたくります。その為に、仕事に慣れてきた今年から、個人のスキルアップの為に資格取得にはけもうと思っています。	11	私は、幼稚園資格を持っていませんが、教育学科でも保育士資格は取れるべきだと思います。短大を出た方の方が、先に就職される点で、すでに遅れを取ってしまうのが現実。資格が取れる授業は有益だと友人とよく話しております。
	04			52	生田の静かな環境で勉強できたのは、とても良かった。教育学科のゼミはとても良かった。
	04	13	自分の力量以上に頑張ろうとしてしまい、苦しくなってしまうことがあった。学生時代と社会人の責任の重さのちがいが、自分の限界などを改めて実感し、これから長く自分とつきあっている上で大切なことを学んだ。人生の先輩に話をきく等。		
	04	5, 10	今のOL生活は、やはりやりたいことと違うためストレスが多い。上司とも、あわず、まわりのみんなもよくしてくれるが、一番の若手20代として同期がいらないのがつらい。よって、仕事を辞めることにして、教員採用試験にむけて、勉強することにした。	52	日本女子大でよかったと思うことはいくつもあります。・少人数でみな仲がよかった。・先生の指導もきちんとして頂いた。・歴史があるため、名が知られていること。・とてもすてきな仲間に出会えて本当によかったです
	05			5, 39	学科の学生数が少ないため、ゼミが少人数で丁寧な指導をしていただけた。あの2年間の経験が、今現在の私自身の視点や問題意識、思考をつづけていると思います。授業、教授、全体的に学生に求めるものの水準が低いと思います。今思えば、もう少し、厳しく、つこんだ指導があっても良いと思います。
	05	5	仕事では、その内容よりも人間関係に悩みました。教育学科では、互いに助け合い、教え合いながら学んでいった4年間でしたが、会社の中にはそうではない先輩も当然おり、辛いと思う日が多かったです。改めて大学では恵まれた環境の中にいたのだ、と思いました。先輩には、教育学科で学んだことを活かしながら指導したいと思いながらお仕事をしています。	1	学生と先生や中央研究室等との距離が近く、一人一人がとても大切にされていると思います。私は大学4年間が本当に楽しく素晴らしい経験ができたと思っています。それは社会人になった今でも、支えとなり、又先生や友達と今でも交流があり本当に嬉しく思っています。大学4年間は「就職するために学ぶ時間ではない」と思っています。なので、ひとつの学科だけでなく他の学科の授業も受けることができたので、将来の選択肢が増えたように思います。それが本学部の良いところだと思っています。
	05			10	現在小学校教員を行っていて、司書教諭の資格を取った。しかし、大学での司書教諭の授業は理論ばかりで、現場で役に立つものではなく、現在非常に困っている。今後、司書教諭の資格を取る学生のために、授業のあり方を見直していただけたら、非常にありがたい。
	05	24	とにかく時間がなく、勉強してもっと教養を身に付けたいが余裕がない。	7, 11	教育学科でも、情報や語学、経済などについてはもっとたくさん必修としてもいいのではないかなと思う。
	05			52	大学時代に学んだことは、とても有意義なものです。仕事に直接役立っていることは、少ないけれど、大学に行って良かったと思っています。
	05	13	教員をしているが、なやみを抱えて苦しんでいる親や子どもがとても多い。心理的なケアが必要と思われることも多々ありもっと心理的の専門的な学習をしたいと本をよんだりしている。もう一度大学院で学ぼうか考えている。	5	大学で学んだ専門分野が仕事でとても評価された。先生方のあたたかい親身なご指導だからこそ心につなげるのだと思う。学部の人数はこのままでぜひひとりひとりの丁寧なご指導をこのまま続けてほしいと思
	05	13	ストレスをためないためにもメンタルヘルスマネジメントについて学習を進めています。	15	キャリアパスを1年次から考えさせるプログラムが必要だと思います。(教職選択・非選択等だけでなく)
	05			6	教育学科がさらに専門的分野も学べるような例えば、国語科算数科のような、ものだったら、と、仕事をしていてよく思います。ほとんどの教員は専門分野をもっているので「教育学」というカテゴリーだと、広すぎて結局広く浅くしか身につけていなかったような気がしています。教員を養成するならば、もっと実践にもとづいた講義や研究ができるような環境が必要だと思います。理論はたくさん学んだけれど実際に日々の仕事で使える知識は少なかつともちろん、教員(教育者)としての心構えや在り方はとても役立っていますが、
	05	3	幅広い教養が必要だと感じ、職場のサークル活動や読書をするようにしている。職業上必要な専門知識がまだまだ足りていないので先輩にききながら日々勉強している		
	06			6	幼稚園教育について、もっと実用的な学習を幅広く学習したかったです。卒業生の話をたくさん聞く機会があると、きちんと教育について考えられると思います。

	06	1	教員を目指し、現在、臨時として働いている。4月から仕事はどうなるか、不安も大きい。	11, 35, 51	人間社会学部はずっと川崎にあってほしい。また、実習棟はもっと充実させ、より実践的な学習ができるようにした方がいい。(理科室と家庭科室が一緒というのは、良くないと思う。社会福祉の実習も「器具がなくて…」という声をきいたことがある。)副専攻は、教職の授業を取っている人にとっては、取るのが難しいと思う。コンピュータの基礎は、大学で学んだことが今、とても役立っている。
	06		職場の先輩や同期、大学時代の友人などに相談をする。本を読んで、参考にする。	35	学生時代、大変お世話になりました。少人数の良さを活かして、講義やゼミでは細かく面倒を見て下さり、感謝しております。教員免許を取得するための講義が多く、副専攻は活用できませんでした。
心理?				39	尊敬に値する教員の充実が大切だと思います
	83	5	不本意な人事移動。現場で全く動いていない人が好きに人を配置していること。解決のためには、実務で専門性を主張することであると思うので、成果が目に見える実務を行っています		
	93	3	資格を取得したが、キャリアに結び付くか不明	11	大学時代の教育はとても有意義なものでしたただ、技術取得を目的とした学校の学生と比較するとまだまだキャリア形成には結び付きにくいと思われる
	93			27	女性にとっての結婚、出産してからの人生についてのイメージが持てる具体的な教育は何もなかったように思う。家庭の力は、ものすごく大切だと子育てして感じているので女性にこだわった教育は必要だと思う
	94	9	仕事と家庭の両立がたいへん。効率的に仕事ができるよう、仕事に関する知識を増やしている	52	私にとって大学時代のことは遠い昔のように思えて、学部の教育について、どう感じていたかはっきりとは覚えていません。先生方がみなやさしくてあたたかくて、生徒は自分のしたいことについてしょうけんめいになれたよい思い出ばかりです。大学全入時代をむかえ、大学はたいへんな時代になったと思う。女子大であることや地理的に都心から離れているため、生徒集めも不利だと思います。今は就職でも学校名は関係ないし、職場でも出身校をきかれることはまったくありません。日本女子大というブランドにたよらず、教員の質、カリキュラムの充実、やる気のある生徒が、伸びる環境づくりなど、大学の中味を充実させることに力をそそいでほしいです。がんばってください。
	94	13	小さな悩みはその都度家族や友人に相談をして解決しています。		
	94	9	大学まで行って、それなりに専門性の高い仕事をする事ができていたのに、結婚出産を機に退職してしまいました。5年もブランクが空いてしまい、再就職をする気も今の所ありません。夫が転勤・転職する可能性も無いとはいえ、子供も小さいなど、自分だけの都合で働けないのが悩みです。	27, 47	卒業後10年以上たち、かつ大学時代の知り合いがほとんどいない地(関西)で現在生活しているため、情報がほとんど入ってきません。女性は結婚・出産がキャリア形成に大きな影響を及ぼすが学生時代にはそれほど深く自分の将来について考えていませんでした。
	94	10	一般企業で地道にキャリアを積み努力をしてこなかったため、再就職を考えると、限定されてしまう。	16	大学生の時点では、社会人になってから、自分がどう変わっていくか何が必要か、予測がつきにくい。大学1年の時点で、将来の進路について、漠然とでもいいから考えていく必要があったことを、あとになってからしみじみ感じた。あとは臨機応変にやっていくしかないと思う。
	94			52	人間社会学部に入学できたのは幸せだった。生田キャンパスがなくなるとしたら淋しい...
	94	8	育児の悩みは常です。学校の先生や本を読みながら、あとは育児経験者(目上の方々)に助けていただけて過ごしています。		
	94	13	専業主婦で新しい土地で生活している。これから気分転換、友人や情報を得るために現在、習い事をさがしている。		
	94			41	最近押し入れの整理をしていて昔のレポートや卒論を見つけ、あらためて見てみました。「勉強していたな～」と思いました。自分が卒業生であるという自信をもつ為にも、実際に大いに勉強する(させる)事はやはり大事。日本女子大の名前は大いに通りのいい(あまりにろこつですが...)名前です、得する場面も多くありました。だからこそ、いつまでも、優秀な人材が巣立っていく大学であってほしいと思います。大学って、結局これが全て...?と思います。あとの事はバイトで何とかかなります。
	94	10	子育てを終えてから、社会復帰を希望しています。(あと、10年後)その時、私に何が出来るか本当にしたいことは何か、家族のライフプランも含めて思案中です。	11	私が学んでいた頃は、心理学科では特に資格がとりやすかったのですが今はどうでしょうか？専攻がいかせる職場ガイダンスがあったらいいなあと思います。
	94	3	・業務上の専門知識の向上が必要。研修や学会参加、読書等の取り組みをしている。一方で、統計処理や原稿執筆、プレゼンテーションや講師等、表現者としてのスキルも重要に、解決策は、ひとつひとつ丁寧に取り組む姿勢、でしょうか.....	15	自己のキャリア形成について考える機会を早い段階で経験することは、今後ますます大切になると思います。一般教養的な科目としてキャリア開発論的な内容があると参考になるように考えます。

	94	8	悩みといえば、「子育て」に関することが大半です。昼間子供と2人きりだといろいろ煮つまってしまうことも多いので(笑)できるだけ地域の親子サークルや、幼稚園などの行事、催しなどには積極的に参加するようにしています。子育て中、とくに乳幼児期は何をするにも制約があるので子供と向き合いながら、自己実現の道を手さぐりで探している日々です。		
	94	9	仕事と家庭と趣味のバランスに日々悩んでいる。解決方法など特にないので当面の優先順位をつけ何かを犠牲にするしかないと思っている。	52	社会人入試の第一期生しかも大学院にすすみ正規雇用されることなく、専門職をこなしているの、アンケートの枠におさまらないことがたくさんあった。女子のみというのは、男性に遠慮することなく頼ることなくさまざまな活動ができたことがよかったと思う。社会の流れをつかみながらもコピルことない大学であってほしいと思う。そしてきびしくてもいいと思うのだが、社会はきびしい
	94	1	特に悩みはありませんが、仕事が非常勤なため1年毎の更新制です。安定性に欠けるという点がいつも気にはなります。うまくつないでいくためには職域というか守備範囲を広げていく必要もあり、事実必然的に少しずつ、そうってきました。本来怠け者ですがその時々で必要最小限の知識・技術を身につけるべく準備しています。	52	以前他の大学を卒業していたので、3年に編入しました。前の大学ではあまり勉強せず社会に出てから後悔したものです。40才での再入学はとても新鮮でした。ある程度の目標を持ち、自らの資金を投入したわけですから、モチを取らねば、という気持も強かったです。生田は空気が良く、先生方も素晴らしい、友人にも恵まれました。実験も講義も演習も魅力的な内容ばかりで、あっという間に2年間が過ぎました。若い友人達からもフレッシュなエネルギーを沢山もらいました。以前の共学の大学と比べますと皆さんよりのびのびと個性のままに学生生活を送られているように思います。男性に媚びたり寄りかかったりというシチュエーションにならない分、自主独立の気風が培われるような気がします。目白に移転が決まり残念ですが人間社会学部は私の心のふるさと。人生の岐路で立ち止まり、動けなかった私を優しく迎えてくれた大切な場所です。これからの益々の発展を祈念致しております。
	94	8	悩み(停年退職後の夫との生活のやりにくさ、夫婦又はどちらか一方が病気になるたり介護が必要になった時のこと地域で新しいことを企画した時の方法や仲間のこと活動間の高令化 策(後輩育て、市民大学等の授講		
	94	9	仕事と家庭(家事、育児)を両立させるためには、家族の協力はもちろんですが、社会全体での子供に対する支援が必要だと感じています。また、会社の制度や労働条件についても両立しやすいような仕組みや環境が整うことを希望しています。	27	“女子”という性別にこだわらず“人間”としての教育に重点を置くべきだと思います。性差を認識した上で社会生活を営むことが大切だと思います。
	96			52	これまでの体験から、知識や資格より譲りあうこと、忍耐力、偏見を持たず素直な気持ちで取り組むことなど、考え方や心掛けが大切だと思います。心理学科では先生がたのおかげで、さまざまな施設を見学し、たくさんの実験、実習をして、体験を通して感じる事が多くありました。それらはたいへん貴重なことで、学生のみならずにも実習やボランティアなどをして深く感じる事のあるような活動をしていただきたいと思っています。
	97	9	仕事と育児の両立について		
	05	3, 13	悩んでいるわけではありませんが、効率的に仕事をこなす方法や一日でも早く目標にたどりつくにはどうしたらいいか、etc. 考えつつ仕事をしています。	11	正直なところ、大学の勉強がそのまま社会生活の中に生きるといったことはないと思います。私が心理学と無関係な仕事についていることもあるかもしれませんが、テキストや文献、教授の講義は現実の生活とほとんどリンクしてません。もっと社会生活に役立つ教育を目指すなら社会人講師の話や聞く場を多数設けるなど工夫が必要だと思います。
	05			47	卒業後も何らかの学習ができるように、生涯学習センターの情報が知りたい。
	05	3, 13	特に悩んでいることはありませんが、将来やキャリアアップのため、通信教育で資格取得を目指し学習中です。		
	05	3	仕事に追われている感がある。その解決のために日々仕事をこなすだけでなくどうすればもっと質の良い仕事ができるか自分の中で振り返ったり、職場の人と話し合うようにしている。	7	人間社会学部というより心理学科は専門の勉強が多く、充実していたが、企業活動にはあまり役立つことは少ない。社会の中で役立つような心理の授業があったらおもしろかったと思う。
	05			11	私は心理学科の出身ですが、心理学科でも精神保健福祉士の資格がとれるようにならないだろうかと在学中から思っていました。その点は、難しいでしょうか？
	05	10	自分が納得して100%の力を出して仕事をできる環境にないので転職活動中です。		
	06			52	卒論作成は大変だったけれど、成し遂げたということが自信になっている。実際に社会で働いていると大変なことの連続だが、「やるしかない、やればできる」と思って取り組める。学生最後のとりでがあるのは良いと思う。
	06	23	修士1年なので就職するか博士に進むかで迷っている。一応就活をしつつ、実験を行っている。	11	法学部がないので仕方ないのかもしれないが、公務員試験科目や他の資格に関連した科目ももっと充実させた方がいいと思う。
	06	13	悩んでいることはないが、近くに住む親戚の体の調子が優れなく家族がその支えとなっている状況。自分自身が元気でいられることを幸せに思うほか、いつまでも健康を維持できるようにスポーツや趣味などを続けて、学び続けていきたい。また社会に貢献、役立つ勉強などをしていきたいと思っている。	29	日本女子大学の人間社会学部は、学科の壁が低く、専攻以外の勉強もしやすく感じられていた。社会で生きる上であらゆる分野の知識が必要であったり、勉強して、知っておくことで生活がよりよくなることが多いと感じられたので、今後も幅広く学ぶことのできる環境教育が必要だと思う。
	06	13	2月に人事異動で入社時と他部署の担当になり、業務の仕方や職場のメンバーの違いの戸惑っている。今はひたすら新しい業務に慣れ、こなせるようにがんばっている。	52	自然豊かなキャンパスで過ごせたことが良い思い出です
	06	5	人間関係。良好なものもそうでないものもあるが、そうでない場合はその人たちはその人たちどうしでも人げんかんけいが良好でないので、仕事上の付き合いとわりきってせっている	52	女子大で教育を受けたことにより女子としての自信がよくなった。また女子大とくうの人げんかんけいのあたたかさがあった。
文化	93	10	どこに行っても、いくつになっても仕事ができるように、看護師の資格を取得しました。		

93			51	職員や先生たちの待遇ばかり重視せず、学生のためにお金をかけて意義のある教育をしてほしい。
94	3	英語の力をつけるために、英字新聞や英文雑誌を読むようにしています。(業務内容が翻訳です。自分が納得し、また依頼主が満足する仕事ができるようにと考えています。)	11	「文化学科は外国語学科ではない」と、オリエンテーションのときに言われました。しかし、英文法を必修として頂きたいと思います。
94	10	女性は一旦出産などで退職してしまうと再就職が難しくキャリアゼロから再出発してはいけない(特に専門職などでなく一般職の場合)ことを、今実感しています。(→今資格取得準備中です。役立つかは分かりませんが...)	1	新卒で就職する場合、「即戦力」ということで資格やスキルが求められることがあります。長い目で見れば、やはり「人脈」とか「人間力(教養や理解力etc)」の方が重要です。「即戦力」タイプの後輩が次々転職してゆくを見てきました。大学には従来通り教養を磨く場であって欲しいと思っています。
94	9	子育てと仕事の両立が難しい。その為に学習、活動はしていない。	1	大学教育と仕事が直結する必要はないと思うので、教養と高い人間性を育てらっしゃる現在の姿勢が良いと思います。
94	9	家事、育児、家業の手伝い等、仕事をうまくこなせきれない事(忙しすぎる)解決のためには、優先順位をつけながら家事能力をあげるようにしている。	7, 23	結婚してから家事の大切さを身をもって知ったので、その大切さとうを伝えていく。仕事上ではより専門性を求められるので、しっかり勉強しておく。
94	10	外資系に転職したので英語を学習したいが、親の介護などあり時間がなかなかとれない点。	11	(現在のことはよくわからないが)文化学科というあいまいな大文系の学科で学んだことは楽しかったが、自分のような普通の人間には社会に出る前に確固とした輪郭とスキルを持たずに卒業し、いわゆる一般事務社員になるしかなかったという反省がある。女子大という枠にとられず、少数で個性ある人材づくりに集中するよう専門化した大学色を出していかないと卒業生が自分の大学を愛し誇りに思う土壌が形成されなくなっていくと思う。ものすごく専門色が濃い方がよい。
94	11	退職、妊娠、夫の転勤により、自分から行動しないと地域の人たちとの交流が希薄になってしまう。→地域活動、民間のスポーツクラブなどへ参加し、交流をするよう心がけている。		
94			31	(立地上の問題から)目白キャンパスに比べて他大学との交流が図りにくく、単位交換制度も生かすきれないのではと思われるので、人間社会学部独自のカリキュラムを充実させ、学生の意見も積極的に取り入れて反映させていかれることを望みます。
94			1	文化学科(芸術)専攻、銀行就職の為、大学での勉強は直接的に仕事に役立つことはありませんでしたが、職場内のコミュニケーションをはかる際に教養(芸術史etc)が役に立ちました。(特に上司役員等年輩の方)
94	6	一人で生活しているので、年齢のわりには物事の判断基準が偏っているのではないかと、自分の考えていることがベストなのだろうか疑問を感じる事がある。(パートナーがいればもっと幅広い考え方を受け入れることができるような気がする)本年4月から社会人向けの夜間大学院に通い、人間性を豊かにするために勉強をすることになっている。	3	社会福祉、教育分野の専門職を目指した教育も必要とされる一方で幅広い教養を身につけ、自分自身で考えをまとめ論理的に説明し判断できる能力を大学教育で経験することが必要だと思います。こういった能力は組織の中にも、家庭の中にも、社会人として欠かせない素養だと思います。大学としては数多くの専門職養成や有名企業への就職率が関心事であるとは思いますが、「就職予備校化」は好ましくないと考えます。高等教育機関としてリベラルアーツを根幹にした“人間基礎力”に重点を置いた教育を行ってほしいと思います。
94	10	子供の成長に伴い再就職を希望しているが、思い通りの仕事がない。時間の融通のきく仕事となると、単純作業しかなく、低賃金。しかしフルタイムで働く体力がない。どうすべきか悩んでいる。		
94	9	仕事を続けていくことについて、悩んでいるが、特に活動していない		
94	3, 9, 10	卒業後入社した会社で、出産後育休を取得し働いている。毎日忙しく、家事・仕事・子育て全てに中途半端で、こんな生活に何の意味があるのだろうか?と日々考えている。しかし、退職してしまえば、同条件で働くには年令、資格スキルetcを考慮すると不可能であり、自分の力のなさ、将来のことを何も考えず、大学時代へらへらと過ごしてきたことを実感する。忙しさのあまり悩みながらも解決する気力もなく、ひたすら日々すごしています。		
94			21	三大綱領の大切さを社会人、家庭人として強く感じます。母となつては特に『共同奉仕』が日々の心の支えです。

94	3	コミュニケーションスキル等の不足ビジネスセミナー等に参加している異業種交流会等に参加している	52	卒業生が社会で活躍してほしいと思っております
94	13	出産を機に退職しましたが、子育ての経験を生かし、昨年11月に保育士資格試験に合格しました。卒業と同時に金融関係(外資系)に就職、その後も金融畑での転職でしたが、今後の社会復帰は、地域密着の職(例えば、childcare)を考えております。今年また移動で英語圏に行きます。現地で新たな挑戦です。	52	私自身は大学でよく勉強した方ではありませんでした。今思うと、社会人入学をされた方が熱心に授業を受けていらした気持ちがよく分かります実務経験に役立つ勉強は専門学校で幅広い教養+小人数のゼミなどは大学ならではのです。人間社会学部ならではの授業を学生の方には充分楽しんで頂きたいと思っております。
96	1	就職氷河期だったために、アルバイトや派遣での仕事をくり返し、正社員になれないことに悩んでいます。とは言ってもキャリア形成は出来ているので、今の35才中に正社員になれればと思っています。とにかく、やり直しのきかない社会であることは間違いないと思っています。たまに「一度は正社員になったことがある人」が条件になっている会社もあり、正社員というのはコネで入社する人も含まれているのに、何かむじゅんしていると感じたりします。形だけみて内容は見てないように思います。年々、派遣の仕事でも職種が広がってきているので助かっているといった所です。	11	新卒採用の時それほど気になりませんでした。中途の求人にはTOEICのスコアが何点以上と言うのがよくあります。別に外資系企業にかかわらず求められているので、高校までの読み書きの英語ではなく、聞く話というコミュニケーション用の英語を大学ですべきだろうと思います。結局個人で勉強しなければならぬので選択科目にでもあれば便利だろうと思います。外大や英文科のような学部、大学でなくても外国語(英語)のコミュニケーションをきたえることは一番役立つように思います。韓国の学生はわりと英語が話せているように思うので、日本全体の問題かとは思いますが、あとはパソコン操作等ですが、最近は一入一持していると思うので、学校では値段が高いソフト(Adobeイラストレーター)とかがそろってればかなり助かるかなと思います。たくさん不満をはき出す紙面をいただきありがとうございます。
05			5	日本女子大学は、家からも遠く毎日3時間もかけて通い、はじめの3年間は大学に行く意味も見出せず、いつも「やめたい、やめたい」と思っていました。やりたいことも分からず本当につらくてたまりませんでした。しかし、そんな時に西田のカウンセリングの先生にいろんな話を聞いてもらい、大学は、自分の人生の1ステップであり、ここで大きく成長できることを教えてもらいました。それまでは、楽しくない学校に3じかんもかけと通い、お金と時間のムダだと思っていた私が、大学にいていっばい時間のある間に、今までやりたかったこと、興味あることを試してみようと思えるようになったのです。3年生になり卒論で忙しくなってきたころに毎日がとても楽しいと感じられるようになりました。好きなことを(この時は卒論のための資料あつめ、博物館に行ったり、いろんな人の公演会に出掛けたりです)好きなだけできる、この貴重な日々、今思えばあの時一生懸命やってよかったなあと思います。卒業後は、大学の研究室で紹介していただき日本語教師の職につくことができた。オーストラリアで教師をすることができました。現在は契約が切れたため、日本にいます。今後さらに自分自身を成長させてゆきたいと思っております。
05	1	県の嘱託職員をしているが、待遇が良くない。仕事内容や人間関係には満足しているが、特に給与面では将来に不安がある。解決のために活動はまだしていない。	1	大学での学びが、現職に直接役立っているとは言いがたいのですが、人間性や教養といった、一生必要なことが身に付けられたと思います。
05	12	社会人になって太ったので定期的にスポーツをするようにしています		
05	1	今はアルバイトをしているため、就職したいと思っている。学生時代、大学の就職課に足を運んだが、全く役に立たず、力になってくれなかった。そのため自力で就職活動し、就職したが、1ヶ月でやめてしまった。学生時代にもっと就職課に相談しに行けばよかった。そのため今は就職のためどこに相談したらよいかわからない。	2, 6, 10, 38	一般教養の授業がなさすぎる。そのため就職活動やその他の生活において大変役に立たない。1年次から専門的な授業を取り入れられているようだったが、それも浅く、全てが中途半端である。語学に関しては、レベル別にクラスをわけていないため、受講生に差がありすぎ、意味がない。レベルの低い子たちは平気でカンニングをしていたり本当に嫌だった。語学は必要なものであるのだから特に力を入れるべきだ。
05	2, 4, 6, 10	仕事・自分の思い描いていた就職と実際に就いた職とのギャップに2年経った今でもなじめずにいる。→解決するために、実務経験を2年経験したので、これから転職活動を。簿記やP検など、転職に有利とされる資格取得を並行して行きます。家庭・嫁に行けない。出会いがないので仕方ないです。→成り行きにまかせるまで。	11, 27	私は高校・大学と7年間、女子校という環境に身を置いていました。そして社会人となり、企業に就職し、女性だからという理由で、大分損をしていると感じる場面に何度も出くわしました。日本女子大学の人間社会学部の教育は、女性は女性らしく生きることを尊長するとともに、女性だからといって社会で活躍できない訳でなく、むしろ女性が社会で活躍することを目指した教育がほどこされていたと思います。私が就職した企業は中小のためか、女性差別が根強く残ってます。女性でも能力のある人はいるのに、...とそんな現状を憂いていますが、そんな現実もあります。社会で活躍のできる人材を育てる教育をこれからも続けていって下さい。資格取得のための講座が増えたらよいと思います。
05	13	就職すれば、イヤでも仕事をしなければならぬので、学生時代はノンビリと自分の好きなことをしていれば良いのでは?と思います。		
05	10	何も資格を持たず就職して、これでいいのかと思うことがあって、今、資格をとるためスクールに通っています。ただ、学生の時みたいに時間がないのでやはり大変です。	7	社会の動きについて、新聞を読んだりするのは大切ですが時間がなかったりするので新聞記事をゼミ(演習など)でみんな読んで、自分なりの見解が持てるような授業があるといいのではないだろうか。
05			29	存学中に、他学科の授業を受けられるのは幅が広がるので良かったと思う。他の学部や大学の授業も受けられる制度があったが、場所がらなかなか難しかった。でもすごく良い制度だと思うので活用できるようにすると学生の勉強もやる気が出るし、サークルなんかなにも参加しやすいと思う。→他大学の授業を受けたついでに寄ったり。
05			1, 29	教育・文化・福祉・社会・心理など、幅広い分野を学ぶことはとても大切だと思います。専門性を身につけると同時に、偏らない学習の大切さ、人間性や心を豊かに、高められる教育を守りぬいて下さい。
05			1	決して、就職したときに役に立ったといえる学科では無かったが、とても興味深い授業が沢山ありおもしろかったのでその形をくずさないでほしいと思います。

卒業生の職業キャリア、ライフコースと学部教育のレリバンスに関する研究

2008年1月31日

発行 日本女子大学人間社会学部

研究代表者 岩木 秀夫

〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1

印刷 株式会社オークカラー